山梨県北巨摩郡高根町

旭東久保遺跡

県営ほ場整備事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

1985

高根町教育委員会

序　　文

本調査は昭和59年度県営圃場整備事業に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査で、さきの発掘調査において大規模集落跡地と石棺群が発見された青木遺跡の北方朝日山城跡の西南麓に当る地域で、字名を冠し旭東久保遺跡としたものである。

調査地域はA、B２地区に分れA区の遺構は中世の住居址若くは館址とみられ柱穴群と土坑群が確認され、B地区は縄文時代中期初頭と平安時代の遺構が検出されている。

当地方は平安時代柏前の牧の推定地とされ中世甲斐源氏発詳の地でもあるので、遺跡との関連性や結びつきの解明に興味のもたれるところである。

本町ではこれからも開発事業に係る発掘調査が数多く予測されており今回の調査は継続調査の一端であって今後とも地域に埋もれた先人達の足跡を系統的に整理解明し後世に伝えることが我々の責務であると考えております。

終りに今回の発掘調査に御協力下さった土地所有者を始めとする関係者の方々に深く感謝の意を表すとともに、今後の御協力を重ねてお願い申上げます。

昭和60年３月30日

高根町教育委員会

教育長　矢　嶋　弥　一

例　　言

1．本書は、県営圃場整備事業に先立つ、旭東久保遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本調査は、峡北土地改良事務所との負担協定及び文化庁、山梨県より補助金を受けて、高根町教育委員会が実施した。

3．遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字東久保に所在したが、昭和58年度に調査を行った東久保遺跡と混同を避けるため、旭東久保遺跡と命名した。

4．本調査は、高根町教育委員会が昭和59年５月21日から昭和59年８月20日まで実施した。

5．本調査における図面、写真、出土遺物は高根町教育委員会が保管している。

6．本報告書の遺物実測は、榎本・高柳・仲嶋・植松が、トレースは浅川が、写真・編集・執筆は雨宮が行なった。

7．発掘調査及び本書作成にあたって次の方々の御指導助言をいただいた。

末木健　八巻与志夫（山梨県教育委員会文化課）　新津健　保坂康夫（山梨県埋蔵文化財センター）　山路恭之助　深沢裕三（須玉町教育委員会）　佐野勝広（小淵沢町教育委員会）　山下孝司（韮崎市教育委員会）　岡本範之（長坂町教育委員会）　櫛原功一（大泉村教育委員会）　平野修（白州町教育委員会）　小林公明（井戸尻考古館）、（順不同、敬称略）

8．発掘調査組織

調査主体……高根町教育委員会

調査担当……雨宮正樹　　調査補助員……榎本　勝　　中川　修

9．事務局　　高根町教育委員会　社会教育係

10．挿図の遺構縮尺は１／40である。

11．遺物の縮尺は１／３であり、断面が黒く塗られているのは須恵器を表わす。

12．遺構断面図の水平線上の数字は、海抜高度（m）を示す。

13．挿図内の方位記号は、磁北を示す。

14．発掘調査作業員

榎本勝　中川修　矢崎英美　浅川君子　浅川いちえ　植松梅子　清水あづま　高柳静香　仲嶋まゆみ　中沢祐美子　原藤初代　原藤かとり　八巻栄　八巻知子

15．遺物整理作業員

榎本勝　浅川繁子　植松梅子　坂本穂津美　高柳静香　仲嶋まゆみ　矢崎英美　内藤悦子　成島ゆみ子

目　　次

序　　文
例　　言
挿図目次
表 目 次
図版目次
Ⅰ．遺跡の位置と地理的歴史的環境……1
1．遺跡の位置……1
2．地理的環境……1
3．歴史的環境……1
Ⅱ．調査に至る経緯と経過……5
Ⅲ．遺　　構……8
1．A　　区……8
a．掘立柱建物址……8
b．土　　坑……20
2．B　　区……28
a．土　　坑……28
b．住 居 址……31
3．遺　　物……32
Ⅳ．ま　と　め……35
a．掘立柱建物址……35
b．土　　壙……36
Ⅴ．お わ り に……36

参考文献……37

挿　図　目　次

第１図　旭東久保遺跡位置図……2
第２図　旭工区予定図……3
第３図　遺跡地形図……4
第４図　A区遺構全測図……6
第５図　B区遺構全測図……7
第６図　A区掘立柱建物址分布図（１～７）…9
第７図　A区掘立柱建物址分布図（８～12）…10
第８図　A区掘立柱建物址分布図（13～17）…11
第９図　A区掘立柱建物址分布図（18～27）…12
第10図　A区掘立柱建物址分布図（28～30）…13
第11図　A区掘立柱建物址分布図（31～34）…14
第12図　第１類第２号堀立柱建物址……16
第13図　第２類第６号堀立柱建物址……16
第14図　第３類第31号堀立柱建物址……17
第15図　第４類第４号堀立柱建物址……18
第16図　第５類第15号堀立柱建物址……19
第17図　第１類第１号土壙……20
第18図　第２類第９号土坑……21
第19図　第３類第42号土坑……21
第20図　第６類第47号土坑……21
第21図　第４類第８号土坑……22
第22図　第５類第61号土坑……23
第23図　第７類第６号土坑……24
第24図　第８類第18号土坑……24
第25図　第９類第28号土坑……28
第26図　第１類第19号土坑……30
第27図　第２類第８号土坑……30
第28図　第３類第７号土坑……30
第29図　第４類B区１号住居址……31
第30図　第B区出土土器実測図第１～６……37
第31図　第B区出土土器実測図第７～16……38
第32図　第B区出土土器実測図第17～25……39
第33図　第B区出土土器実測図第26～34……40
第34図　第B区出土土器実測図第35～43……41
第35図　第B区出土土器実測図第44～46……42
第36図　第A区出土土器実測図第47～68……43
第37図　第A区出土土器実測図第69～79……44
第38図　第A区出土土器実測図第80～92……45
第39図　第A区出土土器実測図第93～95……46
第40図　第A区出土土器実測図第96～102……47
第41図　第A区出土遺物実測図第 103～109 …48
第42図　第A区出土遺物実測図第 110～116 …49
第43図　第A区出土遺物実測図第 117～122 …50
第44図　第A区出土遺物実測図第 123～124 …51
第45図　第A区出土遺物実測図第 125～126 …52

表　目　次

第１表　A区堀立柱建物址……15
第２表　A区土坑表（１～23）……25
第３表　A区土坑表（24～46）……26
第４表　A区土坑表（47～68）……27
第５表　B区土坑表（１～24）……29

図　版　目　次

図版１　遺物遠景　南・北
図版２　建物址全景写真
図版３　第１号土坑群　第２号土坑群　第２号土壙
図版４　第２号土壙完掘状況　石臼出土状況　第３号集石土坑
図版５　第３号集石土坑完掘状況　第４号集石土坑　第５号集石土坑
図版６　第６号集石土坑　遺物出土状況　砥石出土状況
図版７　金属器出土状況　第７号集石土坑　第８号土坑
図版８　第８号土坑遺物出土状況　砥石出土状況　第９号土坑
図版９　第10号土坑　第11号土坑　第12号土坑
図版10　第14号土坑　第15号土坑　第16号土坑
図版11　第17号土坑　第18号土坑　第20～29号土坑
図版12　第30号土坑　第31号土坑　第33～36号土坑
図版13　第41号土坑　第42号土坑　第42号土坑完掘状況
図版14　第45号土坑　第47号土坑　第48号土坑
図版15　第49・50号土坑　第54号土坑　第58・59号土坑
図版16　第61号土坑　第68号土坑　第66・67・68号土坑
図版17　B区遠景写真北から・西から　遺構検出状況
図版18　第１号住居址　第１号土坑　第２号土坑
図版19　第３号土坑　第４号土坑　第５号土坑
図版20　第６号土坑　第７号土坑　第８号土坑
図版21　第９号土坑　第10号土坑　第11号土坑
図版22　第12号土坑　第13号土坑　第14号土坑
図版23　第15号土坑　第16号土坑　第17号土坑
図版24　第18号土坑　第19号土坑　第20号土坑
図版25　B区出土遺物　１～３＝14号土坑　２＝７号土坑　４＝５号土坑
図版26　５＝B区６号土坑　６・７＝グリッド出土遺物
図版27　グリッド出土遺物
図版28　11＝トレンチ内出土遺物　12・13＝各グリッド出土遺物　14～16＝第１号土壙　17＝表採
図版29　A区・B区出土石器
図版30　27～32＝A区・B区各グリッド出土遺物　33＝第８号坑址遺物　34＝トレンチ内出土遺物
図版31　35＝第45号土坑出土遺物　36＝第２号土壙出土遺物　37＝B区第１号掘址出土遺物

Ⅰ．遺跡の位置と地理的歴史的環境

1．遺跡の位置

旭東久保遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村山北割字旭東久保の標高約750 mの水田中に所在し，遺構および地形の関係上、A区とB区を設定した。

当遺跡は、県道万年橋長坂線ぞいにある、高根町立東小学校から直線距離にして約１km北側の、東西を尾根にはさまれた、小高い丘に立地している。この丘の西側は、昭和58年度に発掘調査を行った「東久保遺跡」（昭和58年３月発行）があり、今回調査を行った場所は、それにつづくものであろうと予測された。

2．地理的環境

高根町は、山梨県の西北部北端にあり、長野県との県境に聳える八ケ岳南西麓に広がる、標高600 m～2899 m に広がる高原の町である。

町の位置は、東径 138度25分、北緯35度50分にあり、町域は南北20.9 km、東西6.7 km と南北に細長く、地形は南北に放射状にゆるやかな傾斜を展開し、標高650 mから1000 m 付近に肥沃な水田地帯があり、その中に集落が点在する、純農村地帯である。

この傾斜地は、八ケ岳中腹から韮崎市まで20数kmにわたってつづき、須玉川や釜無川の２大河川によって侵蝕され、比高約30 m から100 mの急崖を形成し、この台地上を流れる小河川は深い渓谷をつくり、２大河川に注いでおり、七里ケ岩台地を形成している。

当遺跡は、この台地の東を流れる須玉川から1.5 km 程離れた所にあり、背後には現在でも土塁の残る旭山城址がある。

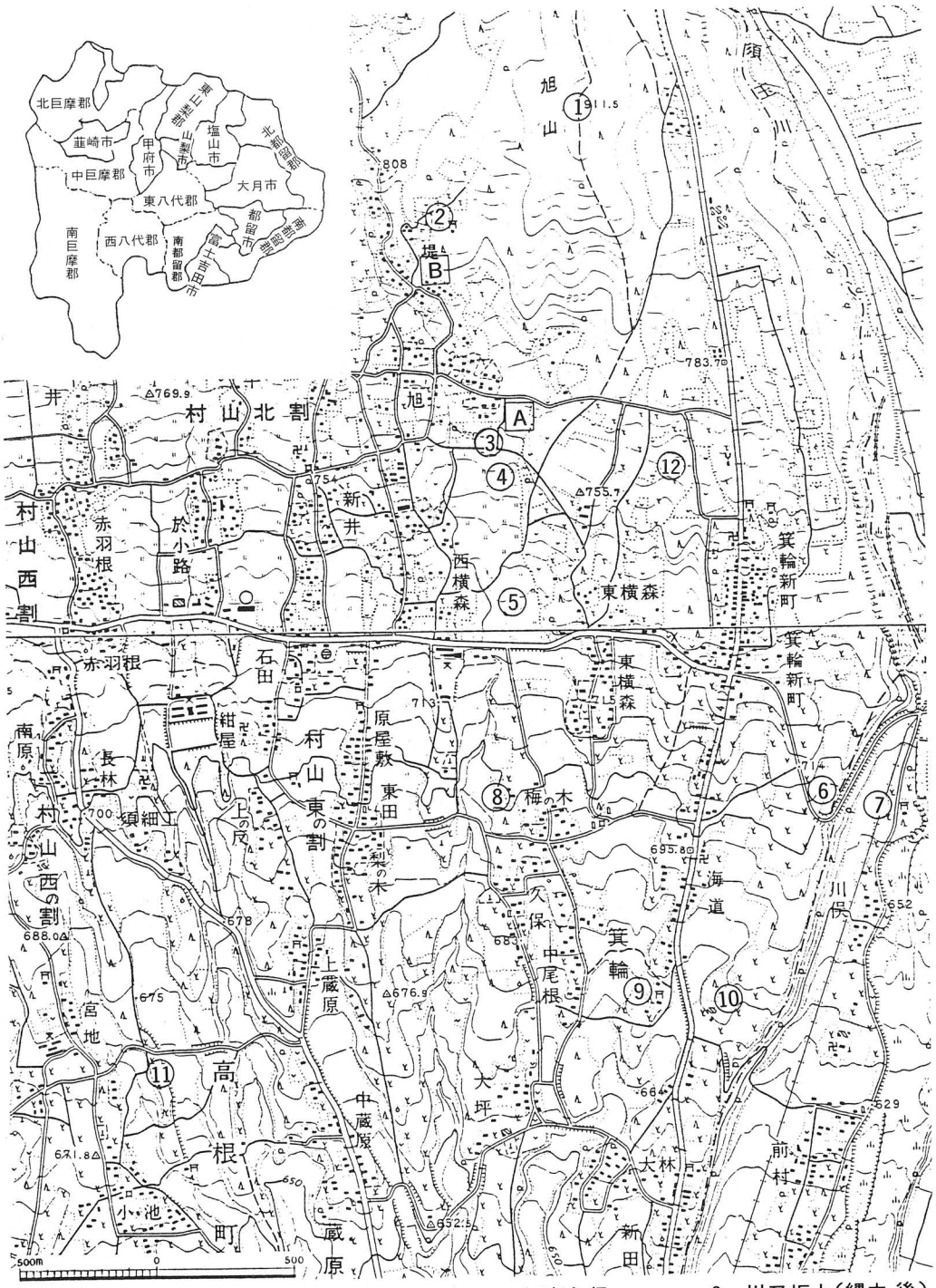
3．歴史的環境

北巨摩地方、特に七里ケ岩台地上は、『甲斐国志』によると、巨摩郡逸見筋にあたり、古代において速見郷、中世において逸見荘に比定されている。前述したように、この台地は、八ケ岳が噴火した際に流出した火砕泥流に、ロームが堆積した洪積台地であり、しばしば歴史上に登場し、甲斐国において中世史を解明する上で、重要な地域である。

高根町を含む北巨摩地方で、数多く検出されている時期は、縄文時代中期と平安時代であり若干、中・近世の遺構が見受けられる。

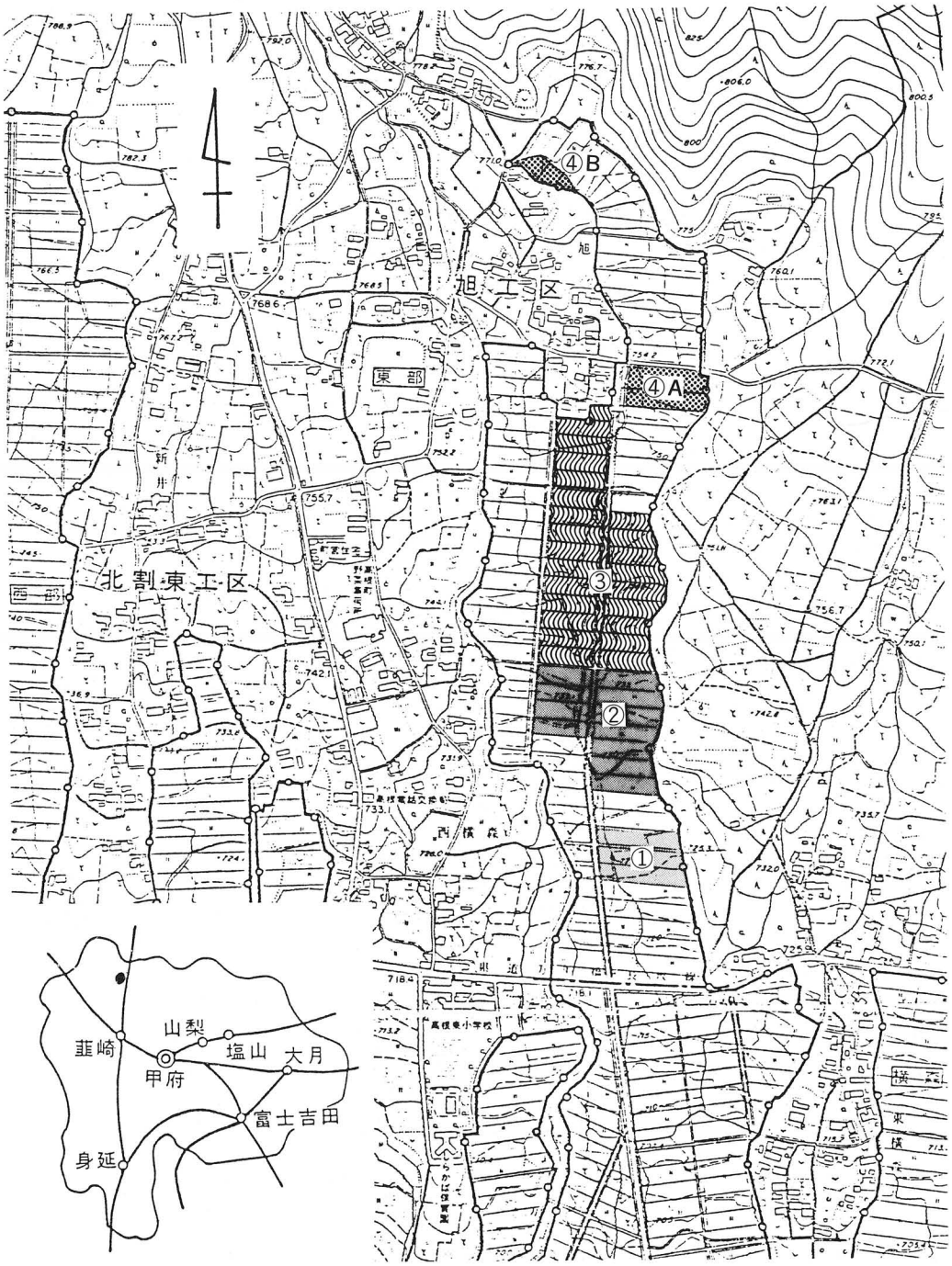
旧石器時代の遺跡としては、清里の丘の公園内にある14番ホール遺跡と、石器だけ出土している湯沢遺跡があげられる。

縄文時代の遺跡としては、現在のところ中・後期が　確認されており、一部から前期の土器が出土している。中期の遺跡として、海道前・青木・上ノ原・梅ノ木・青木北・湯沢・東久保



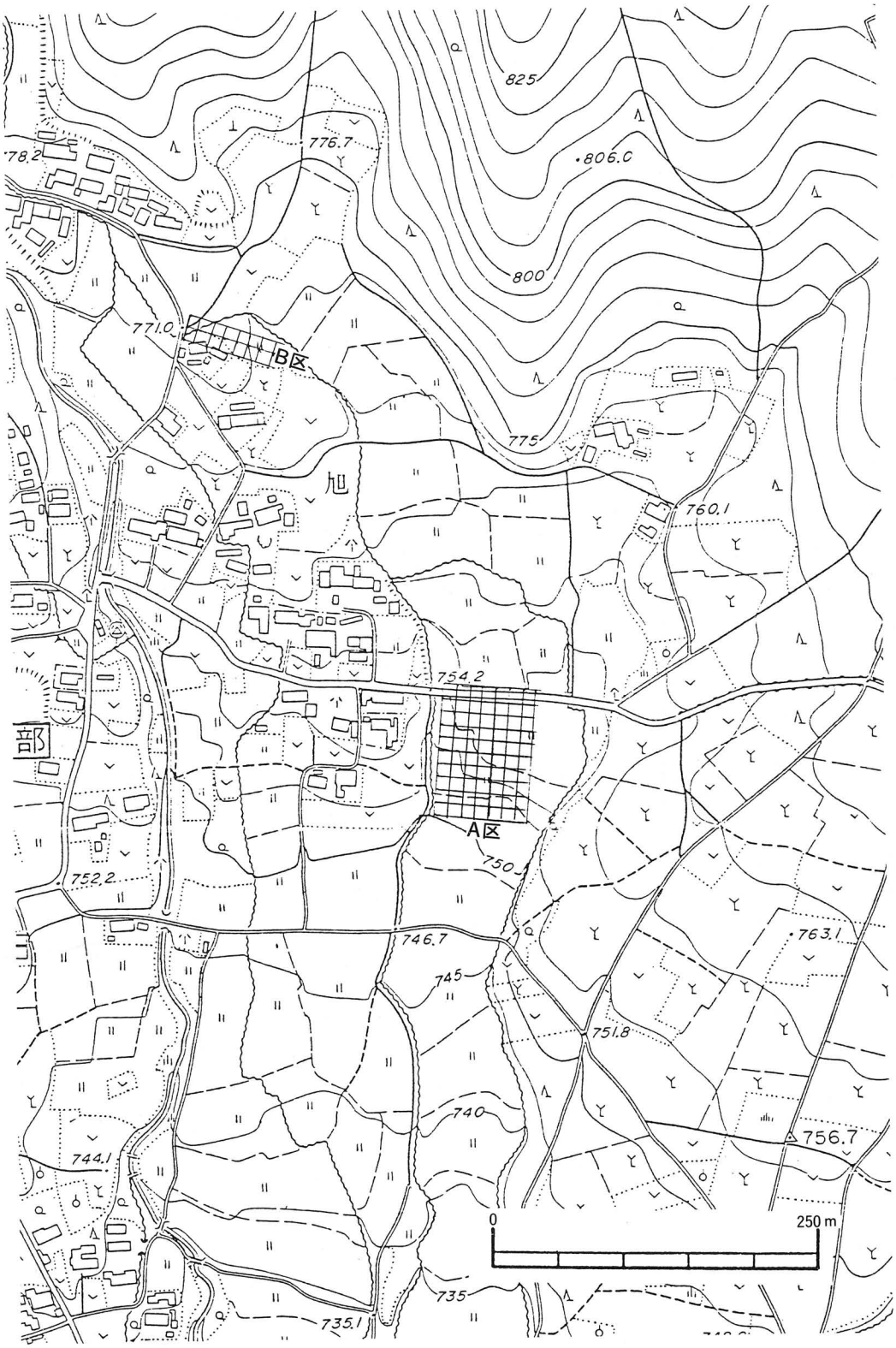
第1図　旭東久保遺跡及び周辺遺跡位置図

A　旭東久保
B　旭東久保
1. 旭山砦(中世)
2, 上の原(縄中)
3. 東久保(平安)
4. 青木北(平安)
5. 青　木(縄後)
6. 川又坂上(縄中、後)
7. 川　又(縄)
8. 梅の木(縄中)
9. 海道前(平安)
10. 海道南(縄中)
11. 船　山(弥生)
12. 西久保(中世)



① 青木遺跡　② 青木北遺跡
③ 東久保遺跡　④ 旭東久保遺跡(A区)
④ 旭東久保遺跡(B区)

第2図　高根町旭工区圃場整備予定図



第３図　遺跡の地形（１／5000）

遺跡等があげられ、中期後半代に比定される土器が出土している。後期は、現在のところ青木遺跡と川又坂上遺跡の２カ所が確認されており、前半代の土器が出土している。

弥生時代の遺跡としては、船山遺跡があげられるが、後半の遺跡である。標高は約750ｍを測り、これより高くなると弥生時代の遺跡はなくなる。

奈良時代を含めた、５世紀から８世紀にかけた遺跡は、高根町地内では、現在のところ確認されていない。

平安時代、特に９世紀後半代から、遺跡・遺構の検出数は増大する。一遺跡あたりの竪穴住居址数は、調査面積の関係もあるが、30軒近くを数え、その中に１から２軒ほど、１辺が８ｍ以上の超特大の住居址が確認され、これは11世紀後半代までつづくと思われる。

12世紀以後の遺跡になると、現在の集落と重なっているが、遺跡調査内からごく少数確認できている。その他の遺跡としては、中世城郭であり、大泉村の谷戸城・須玉町の若神子城・高根町の旭山城などがある。

甲斐国は、古くから馬の名産地であり、特く北巨摩地方がその代表であろう。平安時代においては、甲斐国に御牧が三ケ所つくられており、いづれも北巨摩地方が推定されている。

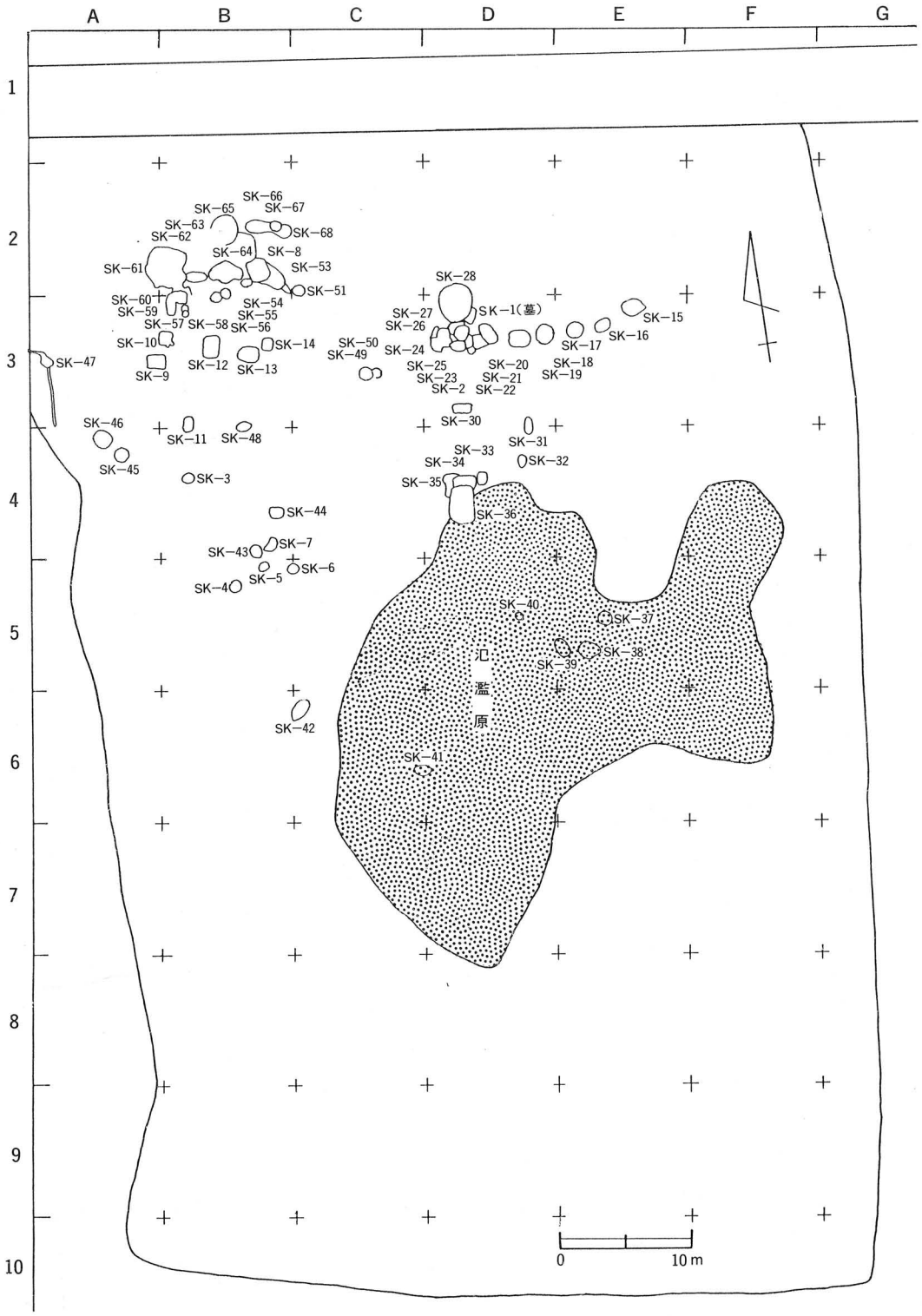
柏前牧は高根町念場原方面を推定、真衣野牧は武川村牧ノ原方面を推定、穂坂牧は韮崎市穂坂町方面を推定している。ここで生産された馬は、毎年決まった頭数を朝廷に運ぶという駒牽という行事があったが、11世紀から12世紀にかけて駒牽の記録は史料に現われなくなることから、この行事はすたれていったのであろう。

Ⅱ．調査に至る経過

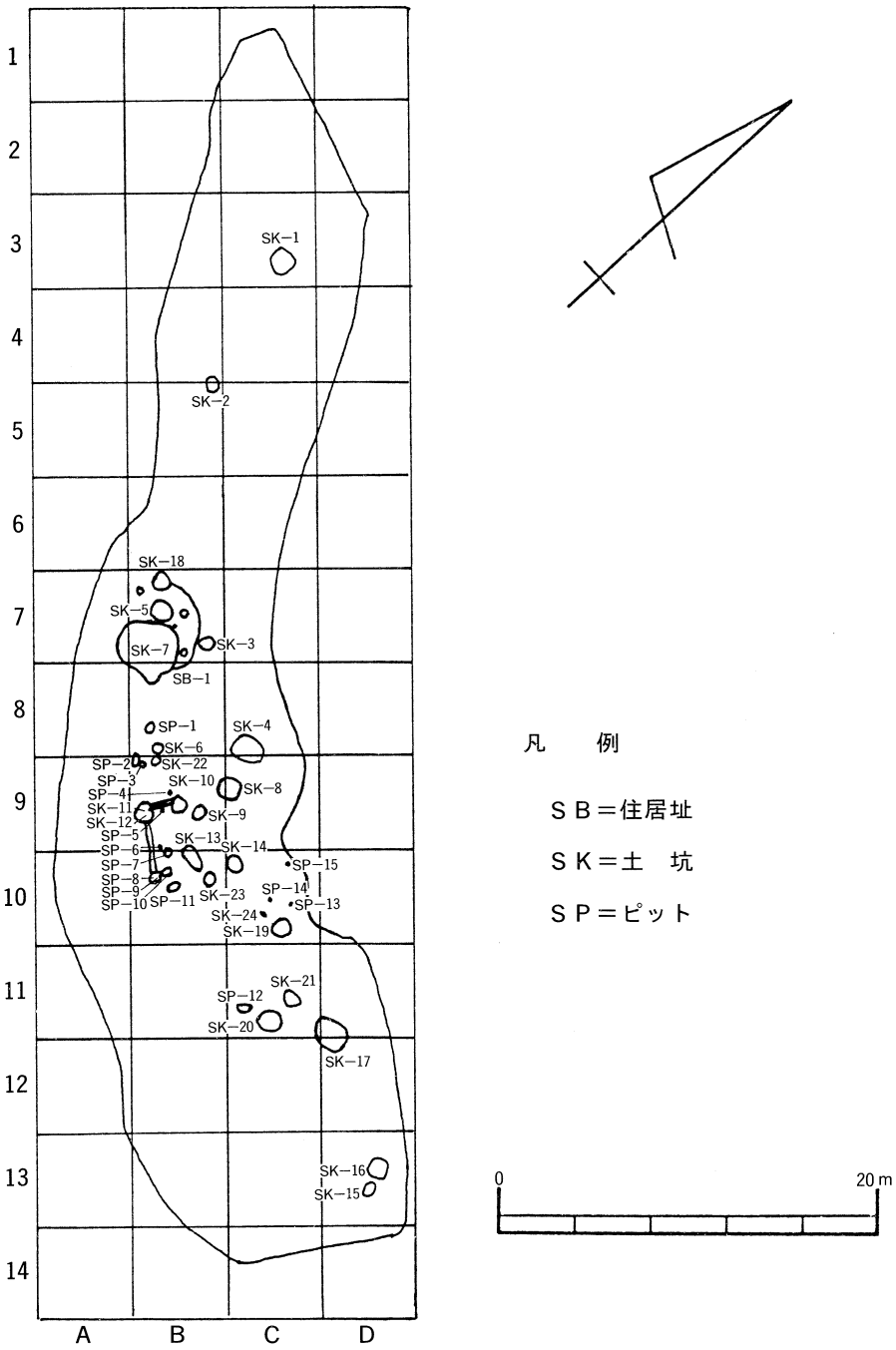
高根町では、水田の有効利用と労力の省力化を図るため、農耕地の区画整理の一環として、圃場整備を昭和56年度より、10カ年計画で実施している。昭和59年度の県営及び団体営の事業計画は、旭地区及び新井地区の県営圃場整備が予定され、予定工区内の遺跡の有無について県峡北土地改良事務所から町振興課を通じて、教育委員会に照会があり、試掘調査を行った結果、旭工区の２カ所より土器片が出土している。

この結果をふまえて、県峡北土地改良事務所と協議を行った結果、旭工区は県峡北土地改良事務所の委託により、当教育委員会が主体となり、記録保存を目的とした、緊急発掘調査を実施することとなり、昭和59年５月21日より同年８月20日まで行った。

旭東久保遺跡の発掘調査は、昭和59年４月24日より５月３日まで、重機を使用し表土除去を行い、その後５月21日より作業員を入れ、発掘調査区域内に10ｍ 方眼のグリッドを組み、掘り下げ作業に入った。８月20日に遺跡全体測量及び全体写真を撮影し、その他の全ての作業を終えて旭東久保遺跡の発掘調査を完了した。


A
B
C
D
E
F
G
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
SK−66
SK−65
SK−67
SK−63
SK−62
SK−68
SK−64
SK−8
SK−61
SK−53
SK−51
SK−60
SK−59
SK−54
SK−55
SK−57
SK−58
SK−56
SK−10
SK−14
SK−47
SK−9
SK−12
SK−13
SK−28
SK−27
SK−1(墓)
SK−26
SK−15
SK−16
SK−17
SK−50
SK−49
SK−24
SK−18
SK−19
SK−25
SK−20
SK−23
SK−21
SK−2
SK−22
SK−30
SK−46
SK−11
SK−48
SK−31
SK−33
SK−34
SK−32
SK−45
SK−3
SK−35
SK−36
SK−44
SK−43
SK−7
SK−6
SK−5
SK−4
SK−40
SK−37
氾
SK−38
SK−39
濫
原
SK−42
SK−41
0
10m

第４図　A区遺構配置図


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
A
B
C
D
SK−1
SK−2
SK−18
SK−5
SK−7
SK−3
SB−1
SP−1
SK−4
SK−6
SP−2
SK−22
SP−3
SK−10
SK−8
SP−4
SK−11
SK−9
SK−12
SP−5
SK−13
SP−6
SK−14
SP−7
SP−15
SP−8
SP−9
SP−10
SP−11
SK−23
SP−14
SP−13
SK−24
SK−19
SK−21
SP−12
SK−20
SK−17
SK−16
SK−15
凡　例
ＳＢ＝住居址
ＳＫ＝土　坑
ＳＰ＝ピット
0
20 m

第５図　B区遺構全測図

Ⅲ．遺　　構

A　区

1．掘立柱建物址

遺構確認面において柱穴が、約 200本ほど、検出されており、出土遺物から推測すると、13世紀から17世紀の時期が推定され、以下にその特徴を記す。

1．掘立柱の埋戻しの土には、大きく分類すると２種類ある。a；褐色を呈するもの。b；黒褐色を呈するもの。１部の柱穴には、柱痕と思われる、黒色土の落ち込みが見られるものもあった。

2．柱穴の形にはバラエティーがあり、円形や四角形が多い。

3．調査区内において、遺構に一つのまとまりが見られる。土坑群としては東と西に２カ所あり、その中間に柱穴群があり、土坑群と多少切り合っている。

以上のことより、土坑群と柱穴群に対して同時性あるいは住み分けが見られる。前述のとおり、出土土器に時間幅があること、検出された柱穴の覆土に色の相違があること、などから連綿と人間が住みついたところであろう。掘立柱の復元であるが、１と２の様相と、柱穴の深さ、方位等を考慮して推考した結果、34棟想定することができた。

掘立柱建物址としては２間×２間、２間×３間、２間×４間、３間×３間、３間×４間の５種が確認されている。

第１類　２間×２間　（第２、11、14、24、25、27、29、33、34号建物址）

第２号建物址

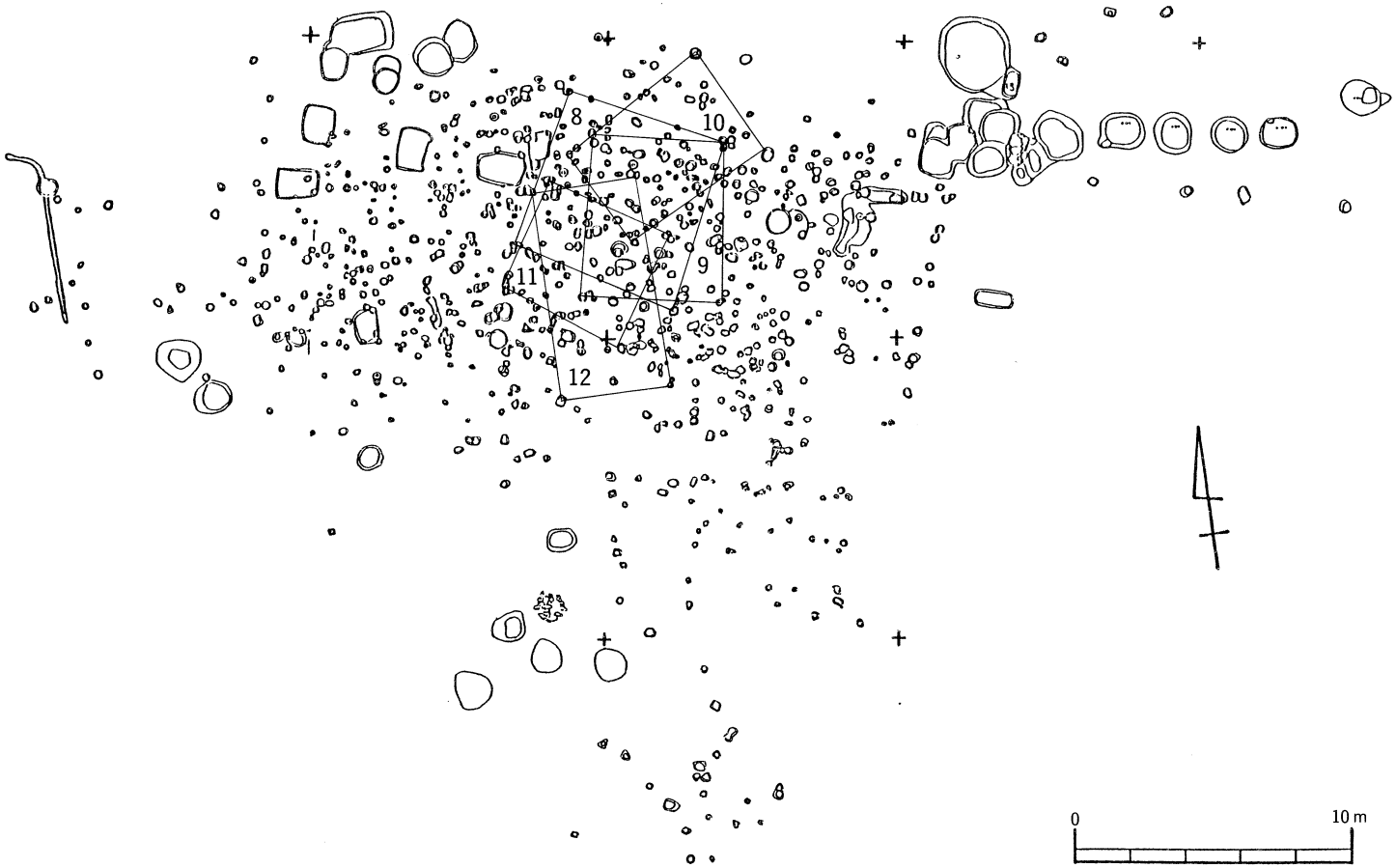
３Bグリッドより検出された、柱間約1.8ｍの２間４方であり、確認された柱穴は８本あり建物址の方位はN―12°―Eである。

第２類　２間×３間　（第６、９、10、16、18、22、26、28、32号建物址）

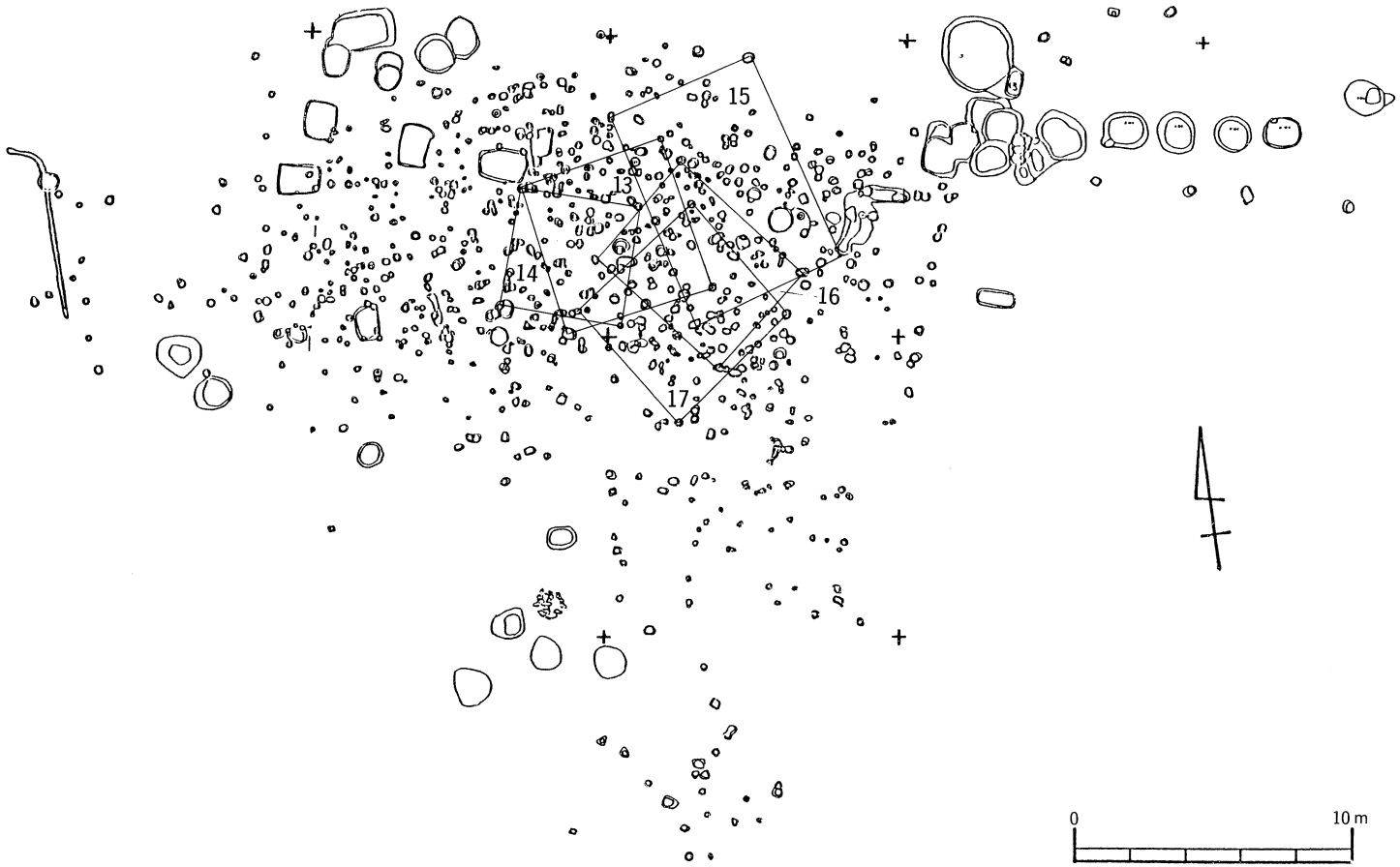
第６号建物址

３C、４Cグリッドにかけて検出された、柱間1.8ｍの東西２間×南北３間の建物址であり確認された柱穴は９本あり建物址の方位はN―26°―Eである。

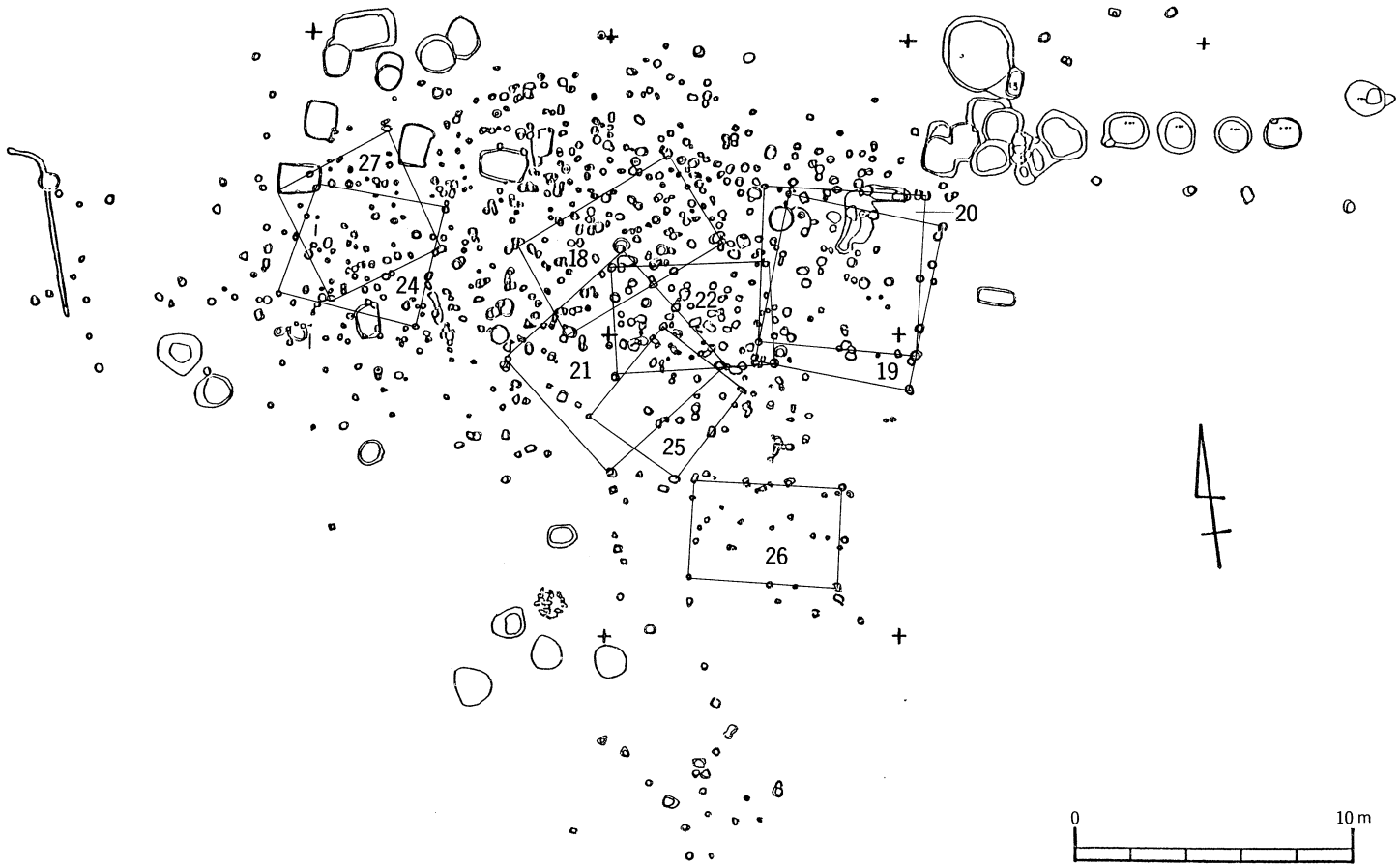
第６図　A区掘立柱建物址（No.１～No.７）



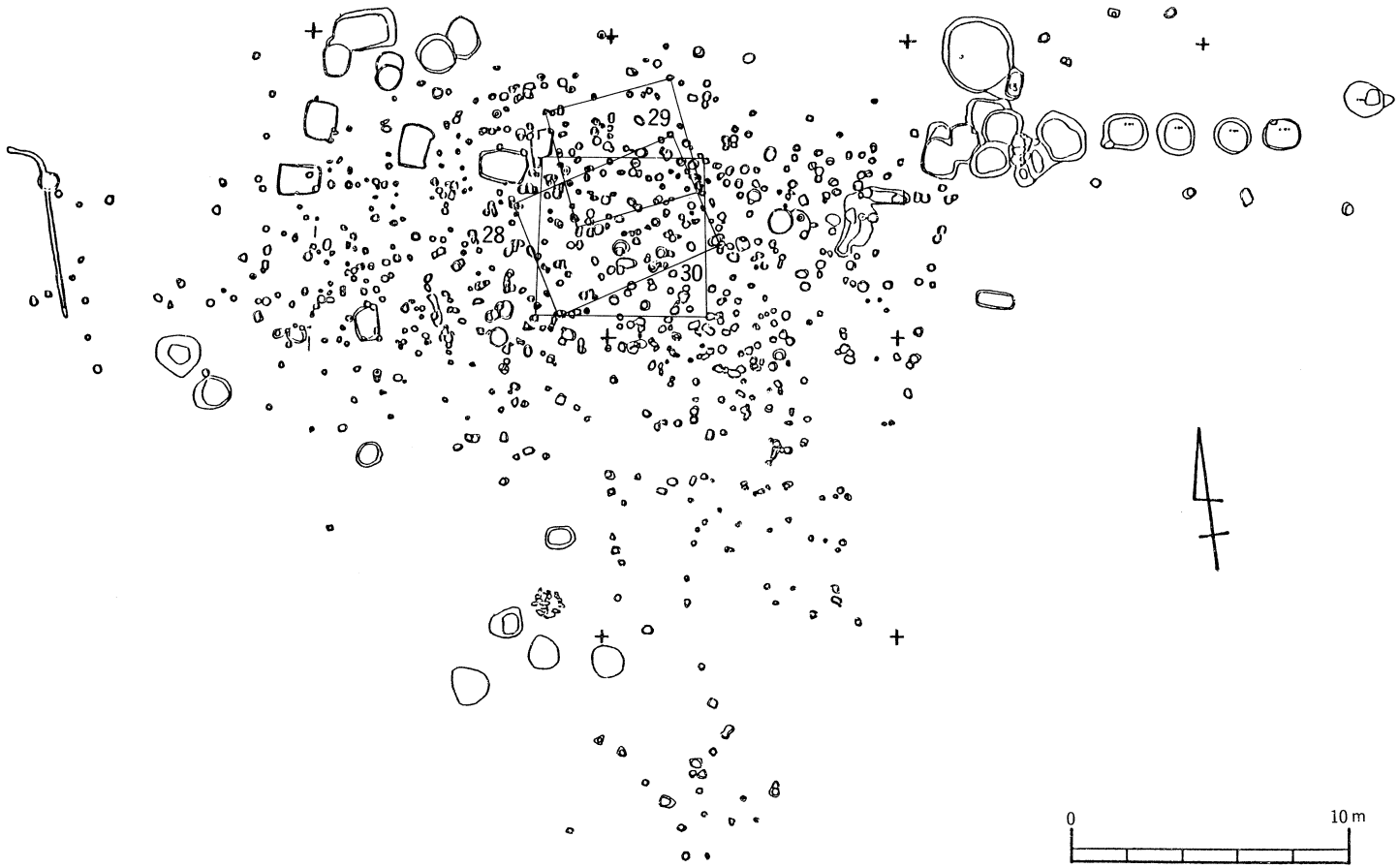
第７図　A区掘立柱建物址（№８～№12）



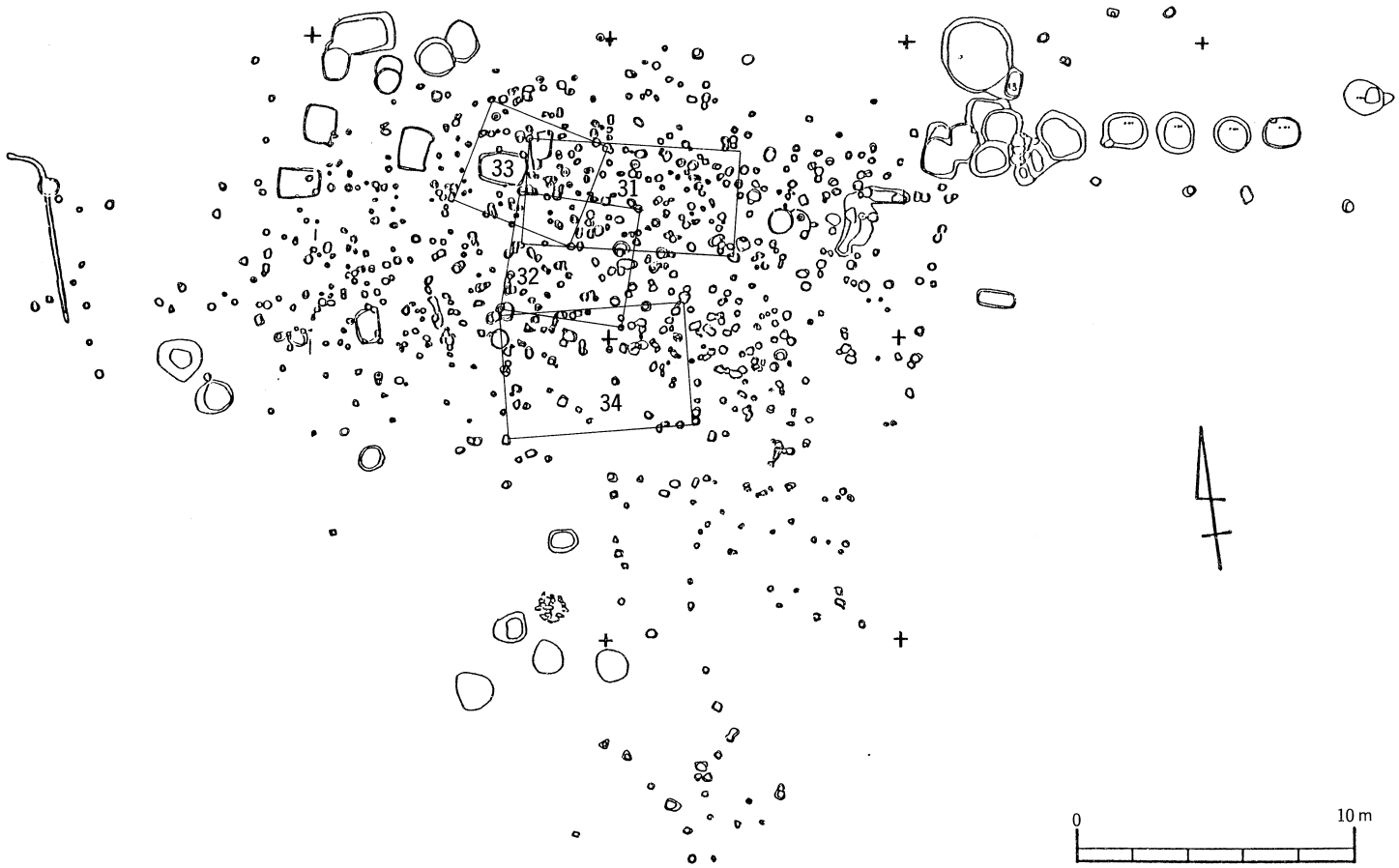
第８図　A区掘立柱建物址（№13～№17）



第９図　A区掘立柱建物址（№18～№27）



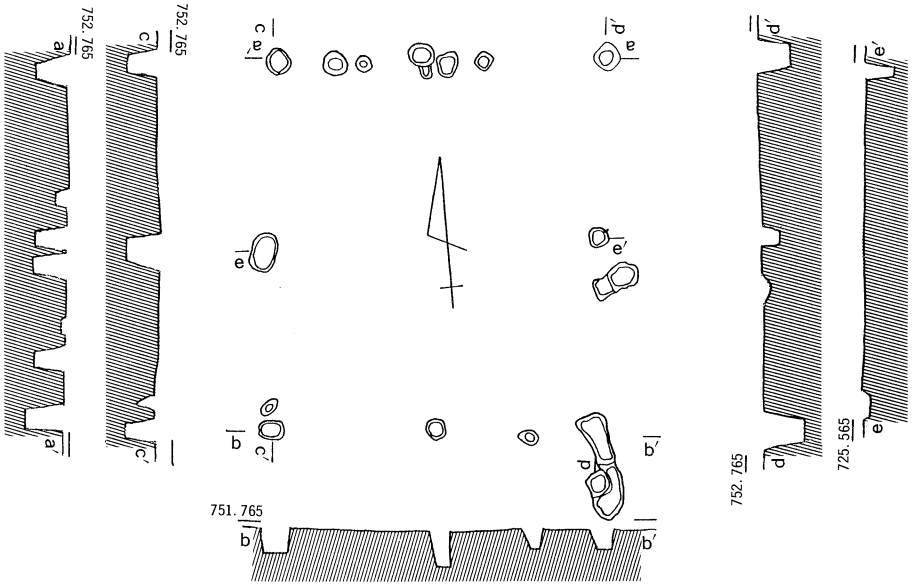
第10図　A区掘立柱建物址（№28～№30）



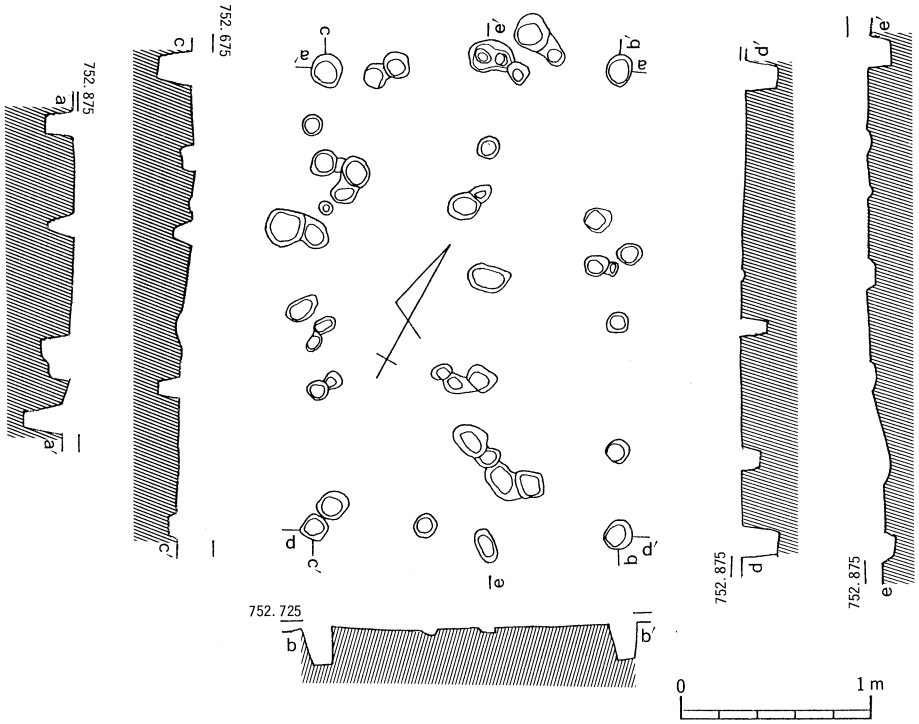
第11図　A区掘立柱建物址（№31～№34）

第 1 表　A区　掘立柱建物址

遺構番号	グリッド番号	東西×南北（桁間）	柱間隔	方位	備考
第1号	3B. 4B	2間×4間	1.8	N－6°－E	
第2号	3B	2間×2間	1.8	N－12°－E	○
第3号	3A. 3B. 4B	3間×3間	1.8	N－10°－W	
第4号	3B. 3C	3間×3間	1.8	N－2°－E	○
第5号	3B. 4B	3間×3間	1.8	N－16°－E	
第6号	3C. 4B	2間×3間	1.8	N－26°－W	○
第7号	3B. 3C	3間×3間	2.0	N－32°－E	
第8号	3B. 3C	3間×3間	2.0	N－27°－E	
第9号	3B. 3C	2間×3間	1.8	N－12°－E	
第10号	3B. 3C	3間×2間	1.8	N－61°－E	
第11号	3B. 3C. 4C	2間×2間	2.0	N－33°－E	
第12号	3B. 3C. 4B. 4C	2間×4間	1.8	N－1°－W	
第13号	3B. 3C	3間×3間	1.8	N－10°－W	
第14号	3B. 3C. 4B. 4C	2間×2間	2.0	N－19°－E	
第15号	3C	3間×4間	1.8	N－16°－W	○
第16号	3B. 3C. 4C	2間×3間	1.8	N－41°－W	
第17号	3B. 3C. 4B. 4C	3間×3間	1.8	N－34°－W	
第18号	3B. 3C	3間×2間	1.8	N－68°－E	
第19号	3C. 3D. 4C. 4D	3間×3間	1.8	N－21°－E	
第20号	3C. 3D. 4C. 4D	3間×3間	1.8	N－12°－E	
第21号	3B. 3C. 4B. 4C	3間×3間	1.8	N－56°－E	
第22号	3C. 4C	3間×2間	1.8	N－106°－E	
第23号	4C. 5C	3間×3間	2.0	N－2°－E	
第24号	3A. 3B. 4B	2間×2間	2.0	N－19°－E	
第25号	3C. 4B. 4C	2間×2間	1.8	N－47°－E	
第26号	4C	3間×2間	1.8	N－104°－E	
第27号	3A. 3B	2間×2間	2.0	N－75°－E	
第28号	3B. 3C	3間×2間	2.0	N－76°－E	
第29号	3B. 3C	2間×2間	2.0	N－6°－W	
第30号	3B. 3C	3間×3間	1.8	N－10°－E	
第31号	3B. 3C	4間×2間	1.8	N－104°－E	○
第32号	3C	3間×2間	2.0	N－104°－E	
第33号	3B. 3C	2間×2間	1.8	N－31°－E	
第34号	3B. 3C. 4B. 4C	2間×2間	2.0	N－96°－E	



第12図　第１類第２号掘立柱建物址

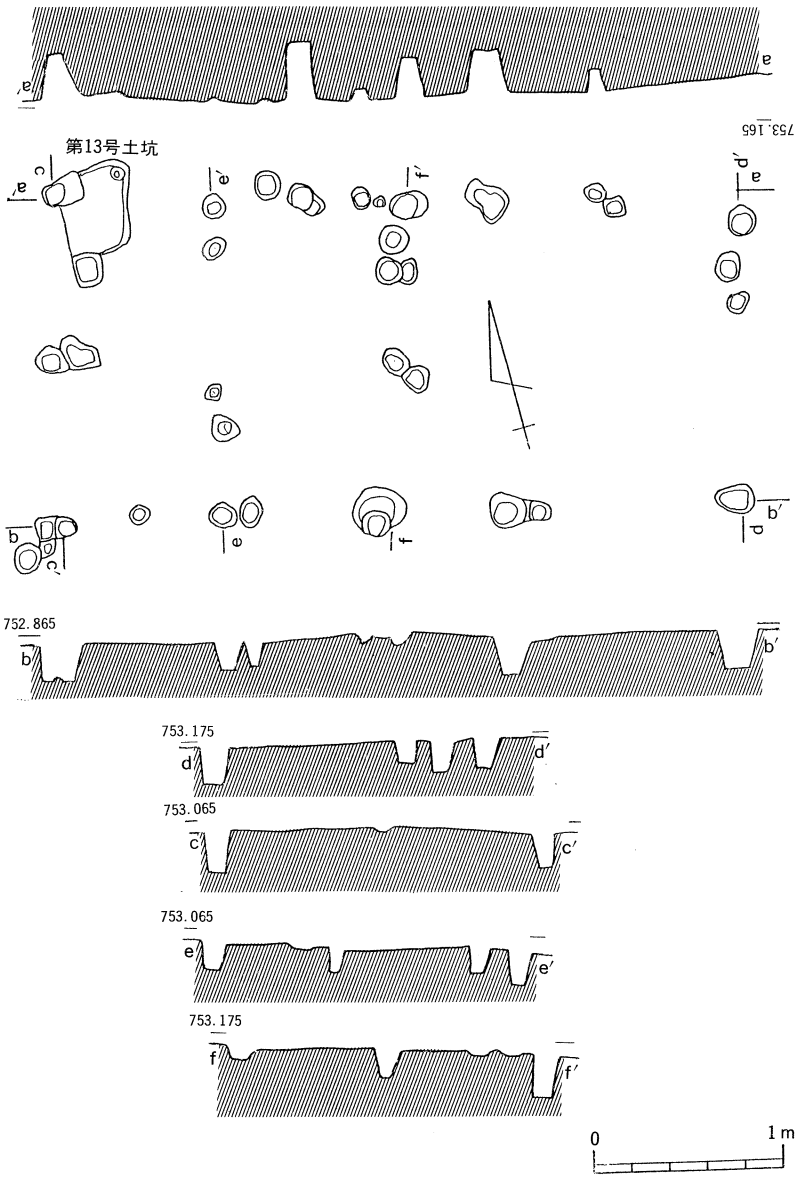


第13図　第２類第６号掘立柱建物址

第３類　２間×４間　（第１、12、31号建物址）

第31号建物址

３B、３Cグリッドにかけて検出された、柱間約1.8ｍの東西４間×南北２間の建物址であり、確認された柱穴は９本あり、建物の方位はN－ 104°－Eである。

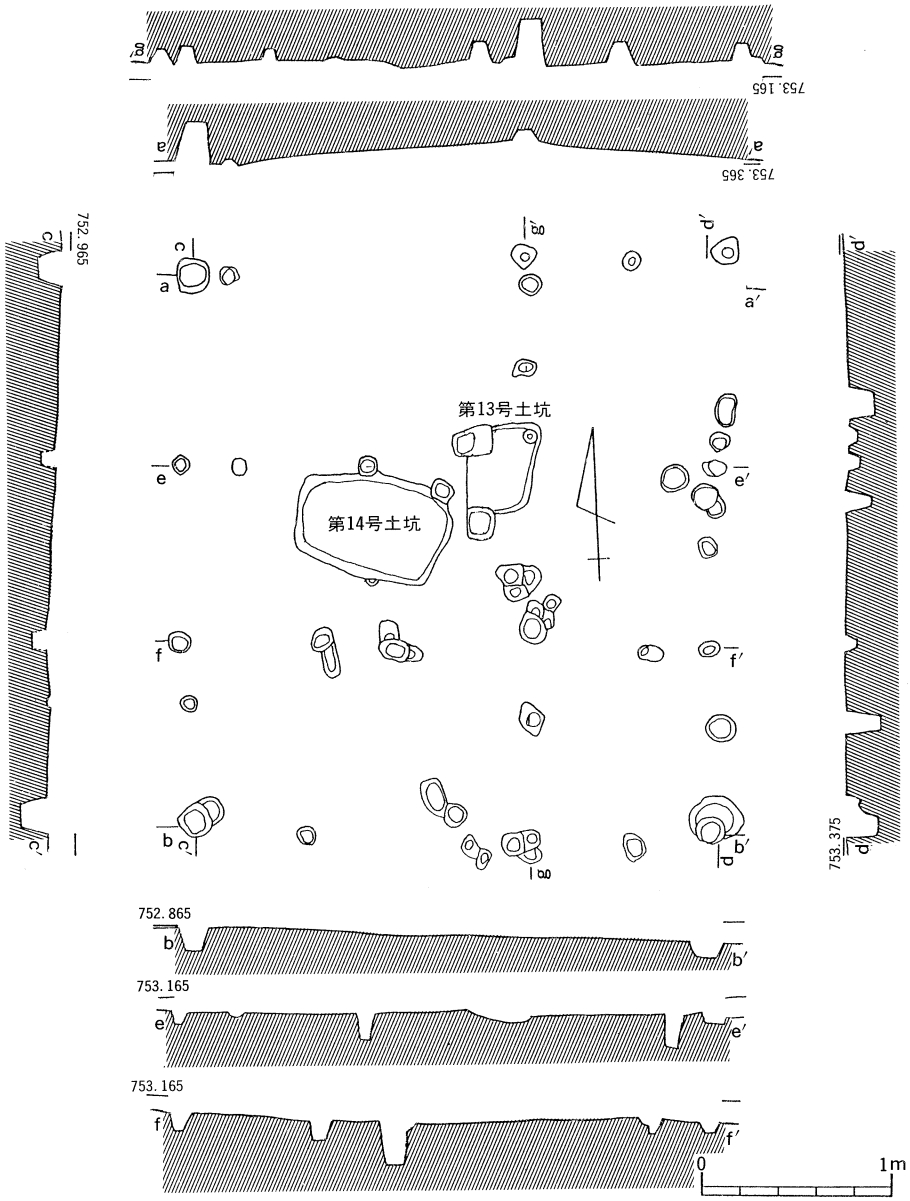


第14図　第３類第31号掘立柱建物址

第４類　３間×３間　（第３、４、５、７、８、13、17、19、20、21、23、30号建物址）

第４号建物址

３B、３Cグリッドに股がって検出された、柱間約1.8ｍの３間４方の建物址であり、確認された柱穴は９本あり、建物の方位はN－２°－Eである。

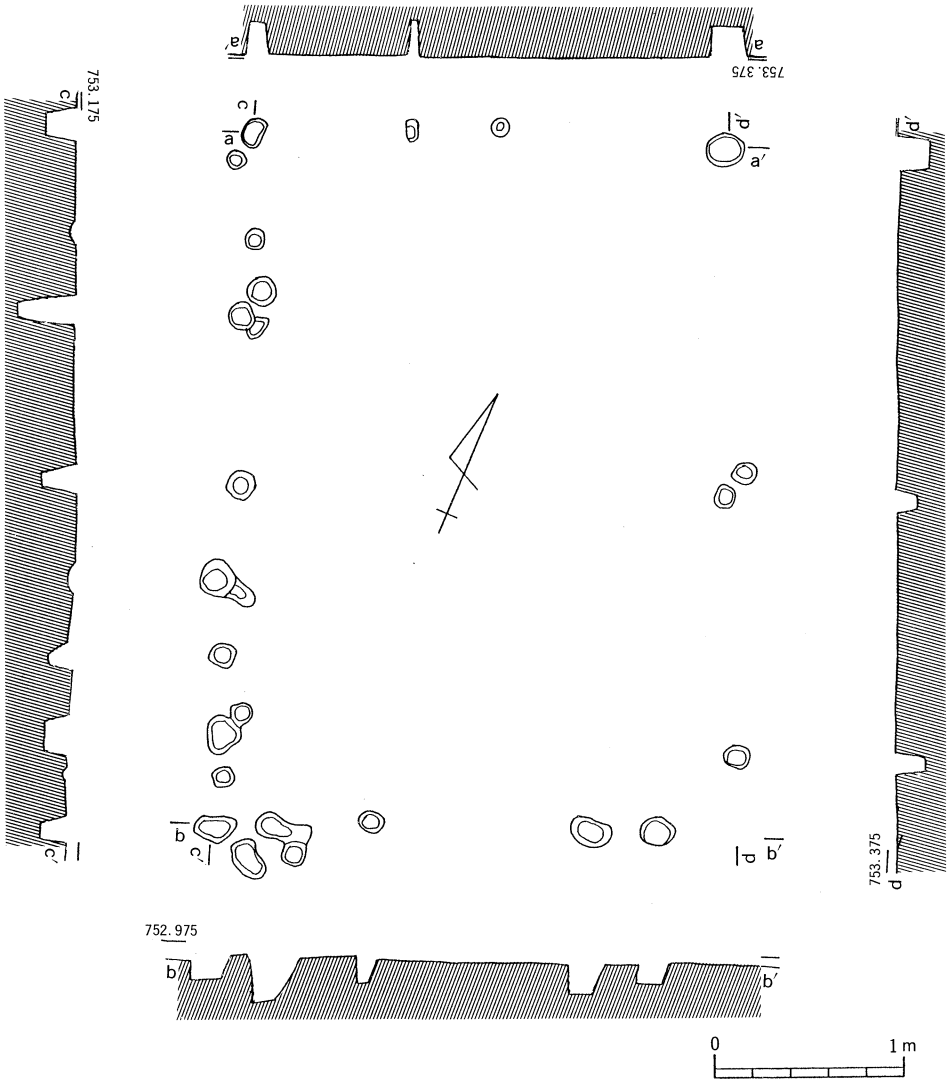


第15図　第４類第４号掘立柱建物址

第５類　３間×４間　（第15号建物址）

第15号建物址

当遺跡内において最大規模を有する遺構である。３Ｃグリッドより検出され、柱間約1.８ｍの東西３間×４間の建物址であり、確認された柱穴は10本を数え、建物の方位はN―16°―Wである。



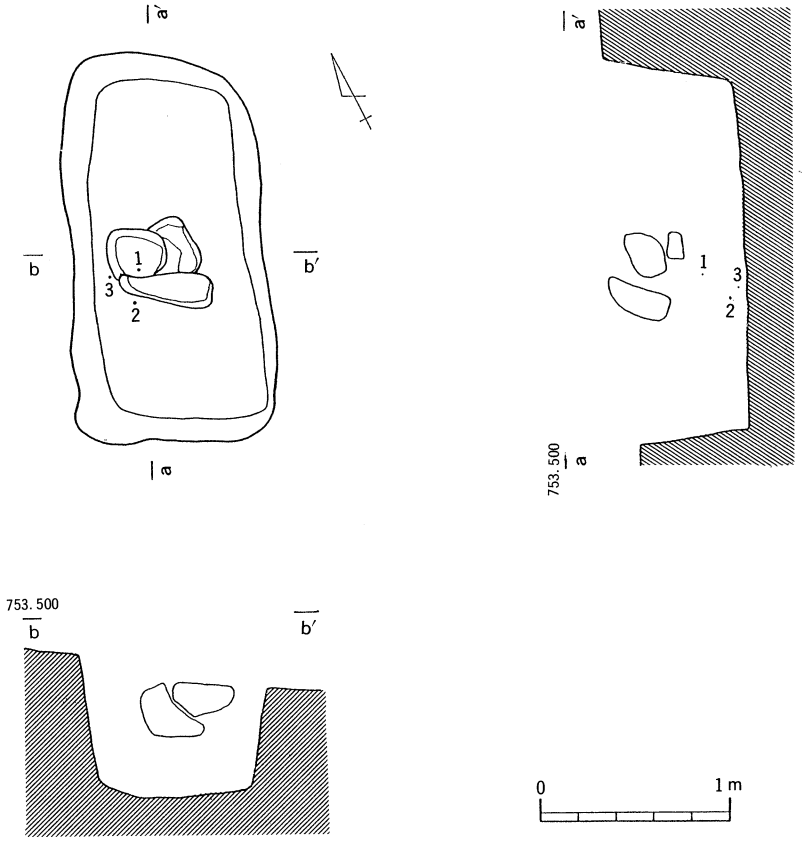
第16図　第５類第15号掘立柱建物址

2. 土　坑

当遺跡内（A区）より検出された土坑は、２群に分かれている。第１群はグリッド４Cから検出されている。第２群は、西側のグリッド２Bから検出されており、単独土坑を含めて68基確認されている。

第１類　（第１、２号土壙）

これらの土壙は、第１群中より検出されており、形態は長方形を呈する。遺跡確認面より礫が検出されており、底面付近により貨幣や石臼が出土している。



第17図　第１類第１号土壙

第２類　（第９、10、11、12、13、14号土坑）

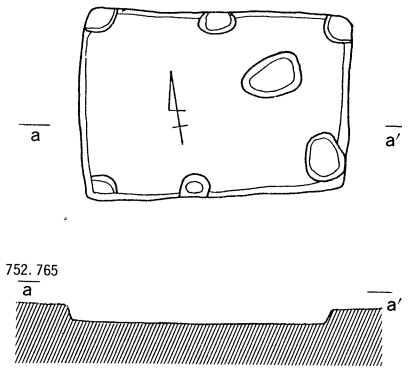
これらの土坑はグリッド３Ａ、３Ｂ、４Ｂの柱穴群の中に掘られた長方形の土坑であり、大きさ、深さもほとんど同じである。

第３類　（第30、31、41、42、59、60、62、63、66号土坑）

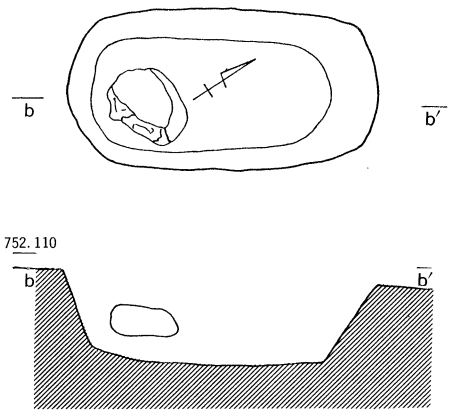
これらの土坑は形態は長方形を呈し、長軸約1.5ｍ、短軸約0.7ｍ、深さ0.4ｍを測る。

第６類　（第40、47、48号土坑）

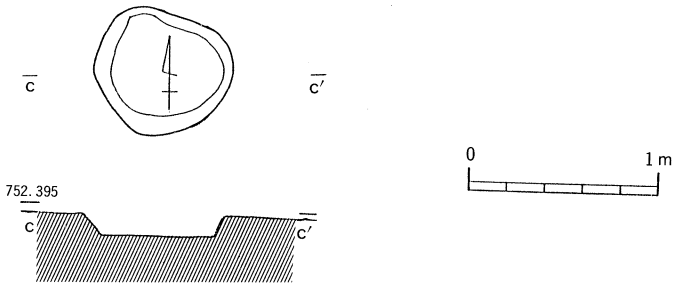
この土坑は形態は円形を呈し、直径60 cm、深さ約40 cmを測る、比較的小型の土坑である。



第18図　第２類第９号土坑



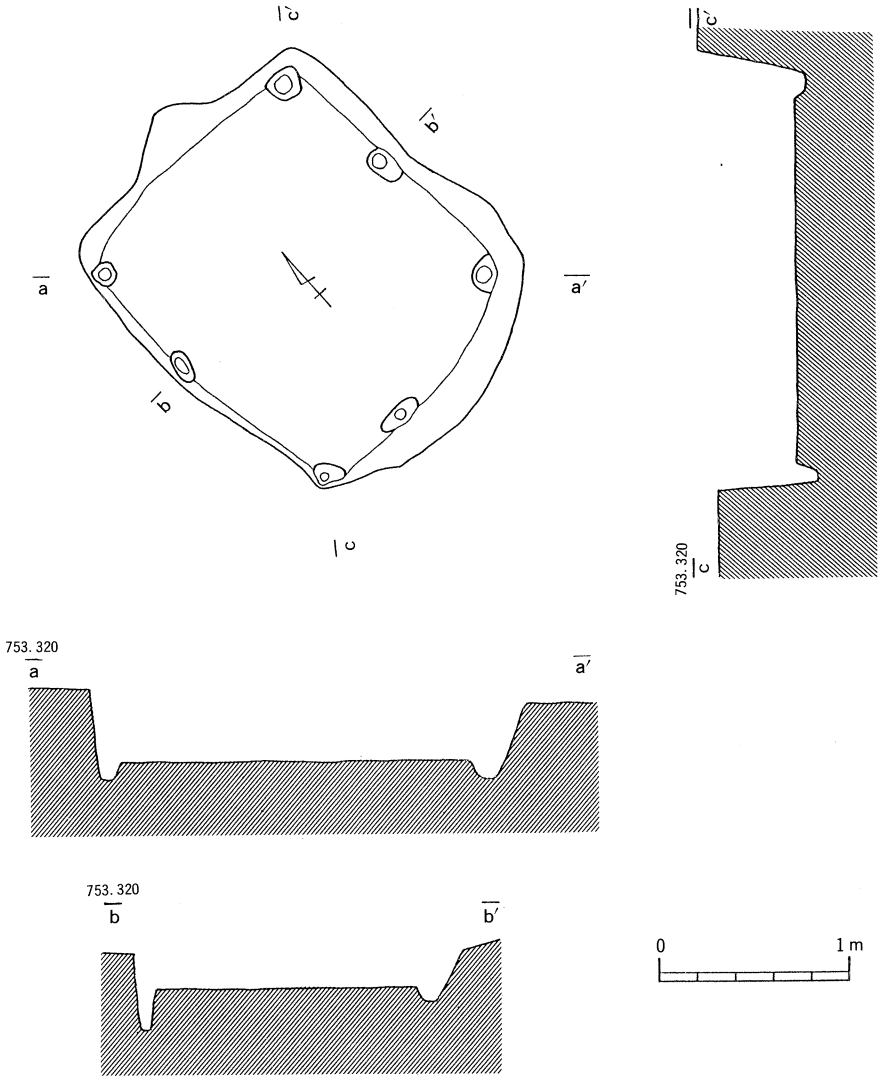
第19図　第３類第42号土坑



第20図　第６類第47号土坑

第４類　（第８号土坑）

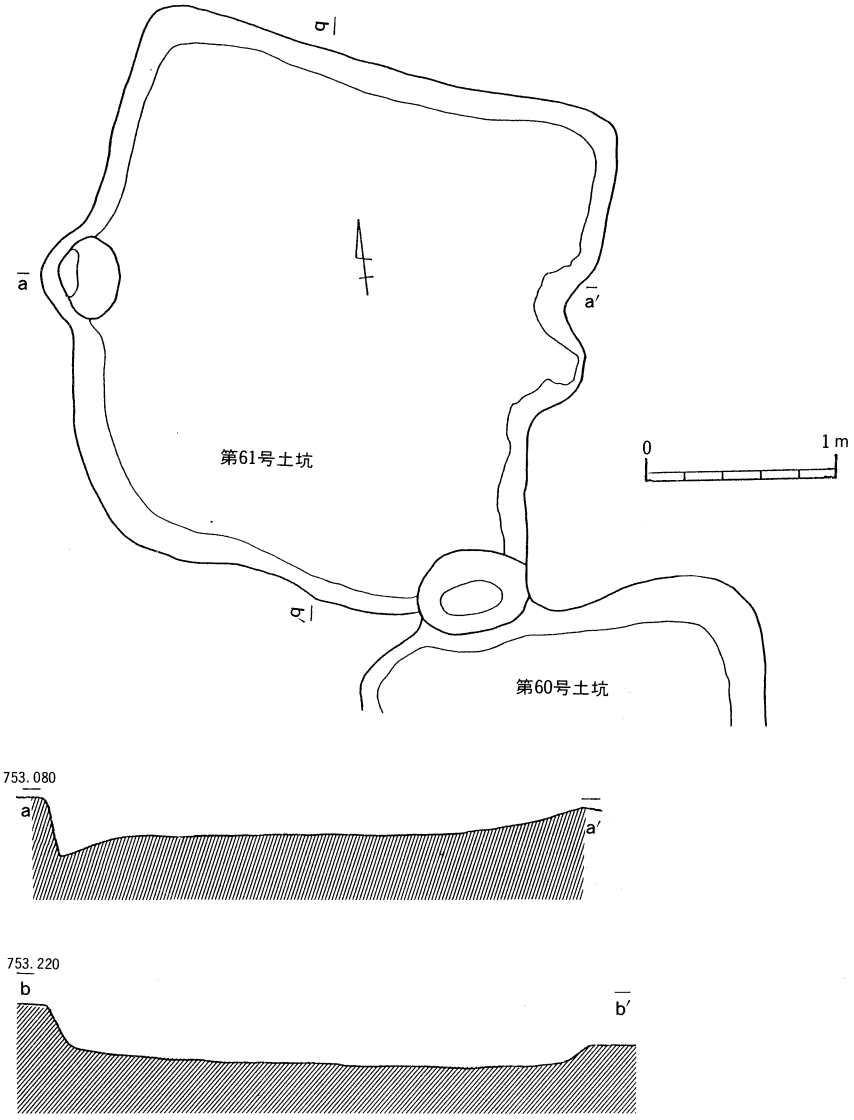
この土坑はグリッド２B内の土坑群中にあり第53号、54号、64号土坑と切り合っている。形態はやや南北に長い隅丸方形を呈し、方位はほぼ磁化をしめし、覆土中より小型の砥石と内耳土器の破片が出土している。土坑内の四隅には柱穴と思われるピットがあり、その長軸の中間に一本ずつ３本の計７本あり、穴の深さは12 cm～17 cmを測る。



第21図　第４類第８号土坑

第５類　（第21、22、33、34、35、36、61号土坑）

これらの土坑は形態は正方形を呈し、１辺の長さは約1.5ｍを測るが、そのほとんどのものが他の土坑と切り合っているため正確な大きさは不明である。



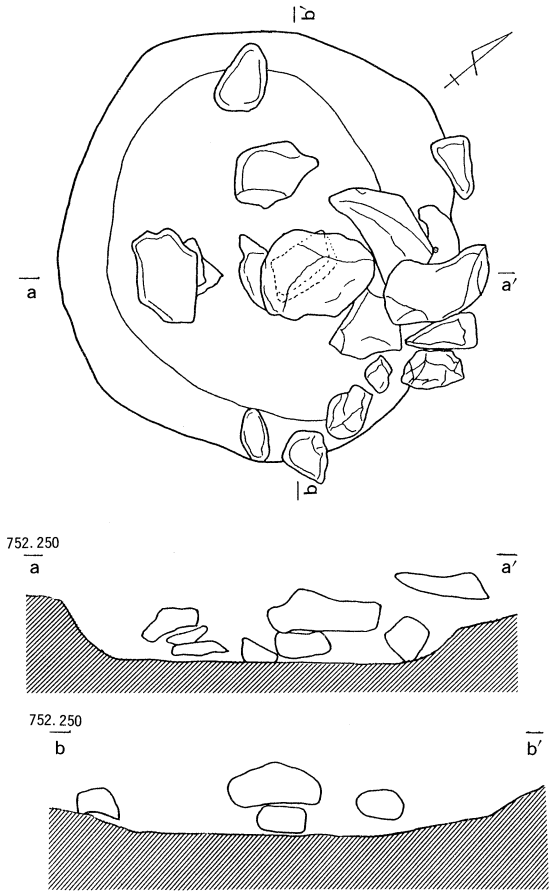
第22図　第５類第61号土坑

第７類　（第３、４、５、６、７号土坑）

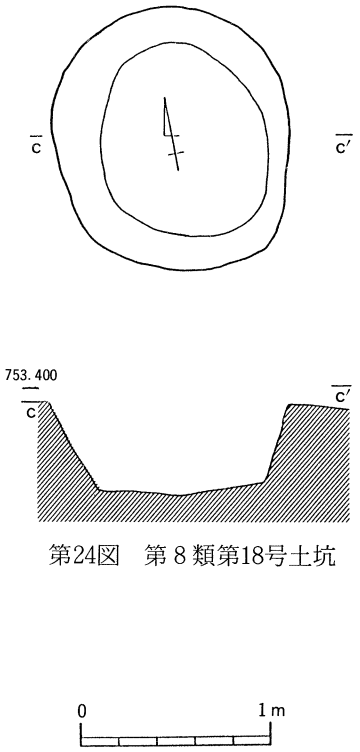
これらの土坑は、遺構確認面よりこぶし大から頭大までの礫が出土している。形態は円形を呈し、直径１ｍ 前後を測り、第６号集石土坑からは、大型の砥石と用途不明の金属器が出土している。

第８類　（第15、16、17、18、19、23、24、25、26、27、29、32、37、38、39、43、44、45、46、47、49、50、51、54、55、56、57、58、67、68号土坑）

これらの土坑は遺跡内全体よりバラついて検出されている。形態はほぼ円形を呈し、そのほとんどが直径約１ｍ～1.5ｍを測り、浅い洗面器形をしている。



第23図　第７類第６号土坑



第24図　第８類第18号土坑

第 2 表　A区 土 坑 表

遺構番号	グリッド番号	形態	長軸×短軸×深さ	種類	備考
第1号土壙	3 D	長方形	1.03×0.52×0.48	1	N—26° —E 銭7枚
第2号土壙	3 D	長方形	1.11×0.64×0.31	1	N—35°—E 石臼出土
第3号土坑	4 B	円形	0.84×0.4	7	
第4号土坑	5 B	不定円形	1.46×1.33×0.17	7	
第5号土坑	5 B	不定円形	1.22×1.18×0.27	7	
第6号土坑	5 B. 5 C	円形	1.13×0.18	7	
第7号土坑	4 B	正方形	1.26×1.23×0.23	7	
第8号土坑	2 B	長方形	2.28×1.74×0.53	4	
第9号土坑	3 A. 3 B	長方形	1.94×1.02×0.12	2	
第10号土坑	3 A. 3 B	長方形	1.3 ×1.1 ×0.25	2	
第11号土坑	3 B. 4 B	長方形	1.24×0.82×0.29	2	
第12号土坑	3 B	長方形	1.44×1.08×0.24	2	
第13号土坑	3 B	長方形	0.92×0.7 ×0.05	2	
第14号土坑	3 B	長方形	1.64×1.12×0.2	2	
第15号土坑	3 E	楕円形	1.32×1.12×0.48	8	
第16号土坑	3 E	長方形	1.26×1.04×0.33	8	
第17号土坑	3 E	円形	1.22×0.22	8	
第18号土坑	3 D	円形	1.38×0.51	8	
第19号土坑	3 D	長方形	1.48×1.2 ×0.36	8	
第20号土坑	3 D	楕円形	1.84×1.4 ×0.44	9	
第21号土坑	3 D	長方形	1.17×0.84×0.14	5	
第22号土坑	3 D	長方形	0.64×0.58×0.14	5	
第23号土坑	3 D	楕円形	1.44×1.12×0.33	8	

第 3 表　A区 土 坑 表

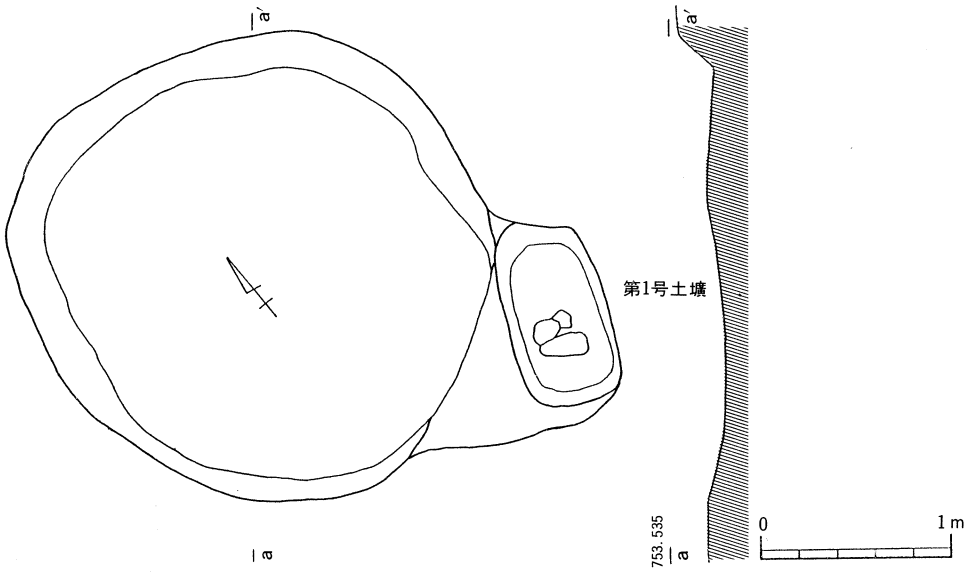
遺構番号	グリッド番号	形態	長軸×短軸×深さ	種類	備考
第24号土坑	3 D	不定円形	1.48×1.24×0.16	8	
第25号土坑	3 D	不定円形	1.36×0.88×0.23	8	
第26号土坑	3 D	長方形	1.0 ×0.6 ×0.1	8	
第27号土坑	3 D	長方形	1.46×1.12×0.12	8	
第28号土坑	3 D	円形	2.58×2.42×0.24	9	
第29号土坑	3 D	円形	1.4 ×0.32	8	
第30号土坑	3 D	長方形	1.3 ×0.58×0.15	3	
第31号土坑	3 D. 4 D	長方形	1.42×0.58×0.25	3	
第32号土坑	4 D	楕円形	0.86×0.76×0.15	8	
第33号土坑	4 D	正方形	0.86×0.8 ×0.16	5	
第34号土坑	4 D	長方形	1.36×0.7 ×0.24	5	
第35号土坑	4 D	長方形	1.44×0.92×0.11	5	
第36号土坑	4 D	正方形	1.62×1.56×0.2	5	
第37号土坑	5 E	円形	0.92×0.26	8	
第38号土坑	5 E	楕円形	1.16×0.86×0.21	8	
第39号土坑	5 D. 5 E	楕円形	1.12×0.72×0.28	8	
第40号土坑	5 D	不定円形	0.58×0.56×0.2	6	
第41号土坑	6 C. 6 D	長方形	1.52×0.64×0.3	3	
第42号土坑	6 B. 6 C	長方形	1.64×0.84×0.47	3	
第43号土坑	4 B	楕円形	1.16×1.04×0.24	8	
第44号土坑	4 B	楕円形	1.0 ×0.78×0.1	8	
第45号土坑	4 A	円形	1.28×0.27	8	
第46号土坑	4 A	楕円形	1.44×1.36×0.2	8	

第 4 表　A区 土 坑 表

遺構番号	グリッド番号	形態	長軸×短軸×深さ	種類	備考
第47号土坑	3 A	円形	0.74×0.12	6	
第48号土坑	3 B. 4 B	円形	0.7 ×0.48	6	
第49号土坑	3 C	円形	0.86×0.23	8	
第50号土坑	3 C	円形	0.92×0.07	8	
第51号土坑	2 C	円形	1.34×0.272	8	
第52号土坑	2 B	楕円形	1.6 ×1.02×0.06	9	
第53号土坑	2 B	円形	2.24×0.23	9	
第54号土坑	2 B	円形	1.04×0.38	8	
第55号土坑	2 B. 3 B	円形	1.4 ×0.25	8	
第56号土坑	2 B. 3 B	円形	1.4 ×0.2	8	
第57号土坑	3 B	円形	0.92×0.18	8	
第58号土坑	3 B	円形	0.96×0.12	8	
第59号土坑	3 B	長方形	1.12×0.92×0.15	3	
第60号土坑	2 B. 3 B	長方形	2.24×1.24×0.16	3	
第61号土坑	2 A. 2 B	正方形	2.95×2.9 ×0.24	5	
第62号土坑	2 B	長方形	1.2 ×0.84×0.11	3	
第63号土坑	2 B	楕円形	2.5 ×1.54×0.2	3	
第64号土坑	2 B	円形	2.22×0.22	9	
第65号土坑	2 B	長方形	2.36×1.98×0.43	9	
第66号土坑	2 B	楕円形	1.72×1.18×0.18	3	
第67号土坑	2 B	円形	1.1 ×0.48	8	
第68号土坑	2 B	円形	1.32×0.36	8	

第９類　（第20、28、52、53、64、65号土坑）

これらの土坑は形態は円形を呈し、直径約1.5ｍから２ｍ を測る比較的大きな土坑ではあるが、深さは浅い土坑である。



第25図　第９類第28号土坑

Ｂ　　区

Ｂ区において検出された土坑は、総数24基あり形態的には円形を呈するものが多い。検出された11基の土坑から縄文中期前葉から中葉にかけの土器が出土している。

第１類　（第２、３、５、６、９、10、11、12、14、19、21、22、23、24号土坑）

形態的には円形を呈するが、検出された土坑のほとんどがこの部類に入る。直径１ｍ 前後深さ20 cm前後を測る。

第２類　（第１、４、８、13、15、16、17、20号土坑）

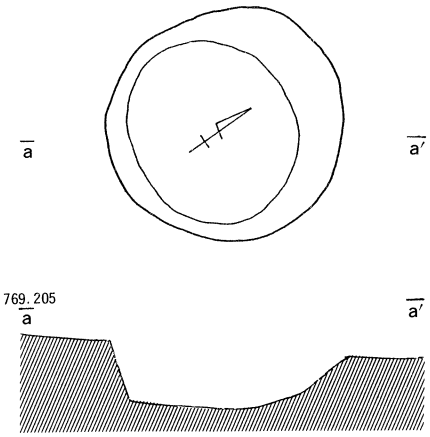
形態的には第１類と同じであるが、直径が１ｍ 以上を測る大形の土坑である。

第 5 表　B区 土 坑 表

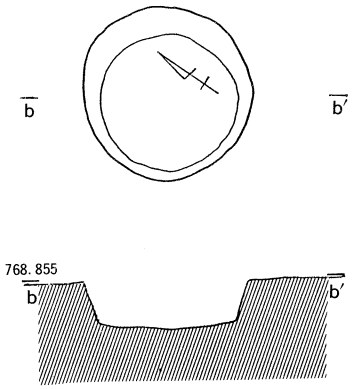
遺構番号	グリッド番号	形態	長軸×短軸×深さ	種類	備考
第1号土坑	3 C	円形	1.4 ×1.17×0.08	2	
第2号土坑	5 B	正方形	0.68×0.62×0.14	1	
第3号土坑	7 B	長方形	0.73×0.64×0.10	1	
第4号土坑	8 C	不定円形	1.34×1.30×0.44	2	
第5号土坑	7 B	円形	1.08×0.97×0.34	1	
第6号土坑	8 B	円形	0.77×0.7 ×0.48	1	
第7号土坑	7 B	不定円形	2.25×1.45×0.62	3	
第8号土坑	9 C	円形	1.23×1.23×0.27	2	
第9号土坑	9 B	円形	0.75×0.7 ×0.16	1	
第10号土坑	9 B	不定円形	0.94×0.75×0.17	1	
第11号土坑	9 B	不定円形	0.63×0.5 ×0.14	1	
第12号土坑	9 B	不定円形	0.8 ×0.6 ×0.22	1	
第13号土坑	10 B	不定円形	1.5 ×0.7 ×0.36	2	
第14号土坑	10 C	円形	1.05×1.0 ×0.22	2	
第15号土坑	13 D	長方形	0.9 ×0.7 ×0.23	2	
第16号土坑	13 D	不定円形	0.74×0.74×0.44	2	
第17号土坑	11 D	不定円形	1.58×1.51×0.19	2	
第18号土坑	7 B	不定円形	1.15×0.67×0.23	3	
第19号土坑	10 C	円形	0.87×0.87×0.26	1	
第20号土坑	11 C	円形	1.25×1.25×0.3	2	
第21号土坑	11 C	不定円形	0.82×0.7 ×0.22	1	
第22号土坑	9 B	円形	0.5 ×0.45×0.38	1	
第23号土坑	10 B	円形	0.6 ×0.57×0.47	1	
第24号土坑	10 C	円形	0.37×0.34×0.28	1	

第３類　（第７、18号土坑）

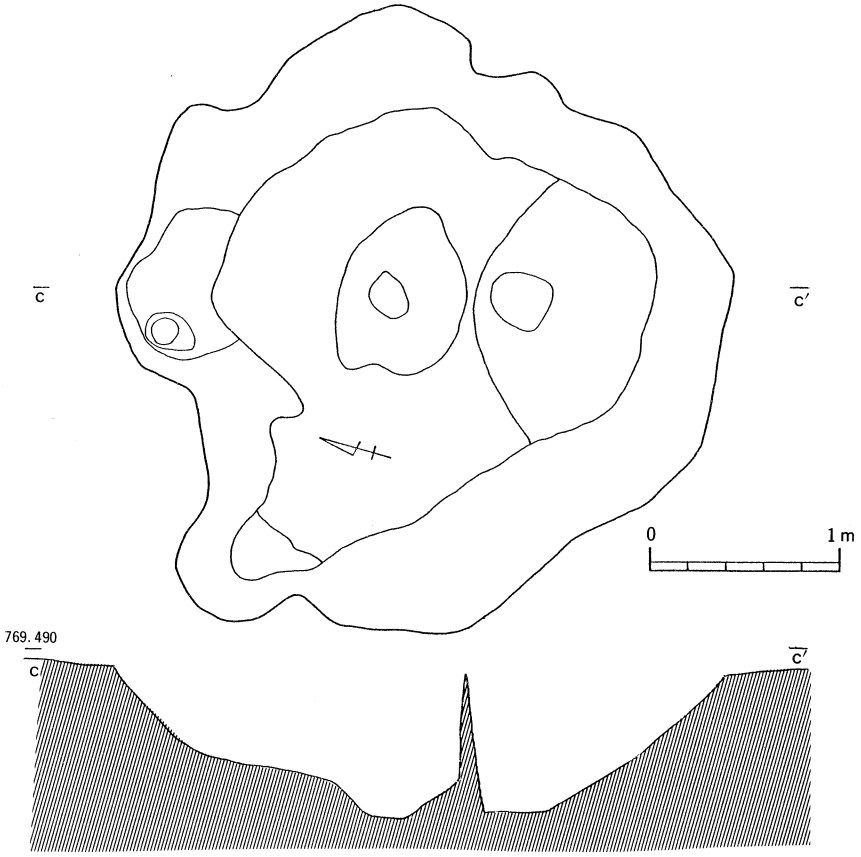
これらの土坑は、不定円形を呈し長軸２ｍ 前後、短軸１～1.5ｍ、深さ0.5ｍ前後を測る。



第27図　第２類B区第８号土坑



第26図　第１類B区第19号土坑

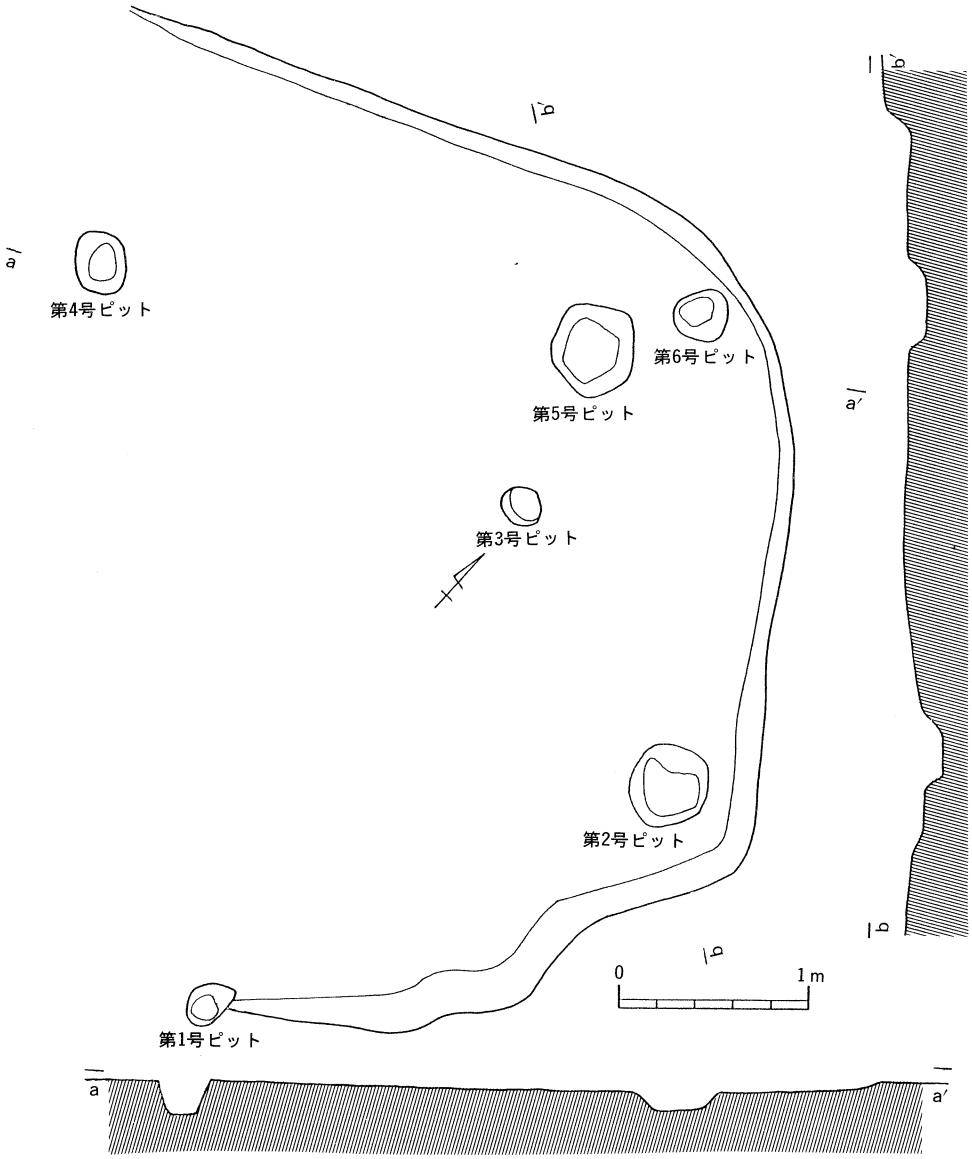


第28図　第３類B区第７号土坑

b. 住　居　址

第１号住居址

本住居址は、グリッド７Bから検出されたが、遺存状態はきわめて悪い。プランは残存する壁より東西５m，南北５m の隅丸方形を呈すると思われる。主軸方向はN―40°―Wである。住居址内にピットは６本確認されたが、住居にともなうものとしては５、６であろう。



第29図　第４類B区第１号住居址

3. 土　器

A区から出土している遺物は、縄文時代から中世にかけてのものであるが、そのほとんどが遺構に伴わない遺物であり、表土排土中より遺物が出土している。

B区から出土している土器はすべて縄文式土器であり、そのほとんどが遺構確認面直上から出土している。

第1群土器　〔縄文中期初頭の土器群〕

A区の第54号土坑とB区の第4・7・10・14・15・23号土坑より出土している。器壁は比較的薄くつくられている。文様は半截竹管による弧線文や平行沈線文があり、ヘラ状工具による、交互刺突文が施されている。焼成は比較的良好であり、色調は黒褐色を呈し、胎土に金雲母を含んでいる。

第2群土器　〔縄文中期前葉の土器群〕

第5・7・24号土坑より出土している。隆帯に沿ってキャタピラ文が施こされ、キャタピラ文の下に棒状工具による沈線が施こされており、色調は暗褐色を呈する。

第3群土器　〔中期中葉の土器群〕

A区のグリッド9Eのトレンチ内より出土している。器体部全体にLRの斜縄文が施されている。器壁は全体的に厚手につくられており、底部から中位までほぼ直立し、上半部において屈曲し、口縁部に呈り把手を1個有する。

土　師　器

遺構内からは、確認されておらず、そのほとんどが排土除去中に出土している。出土土器はいわゆる甲斐型の土器であり、10世紀代に相当するものと思われる。

須　器　器

A区からは試掘の段階で出土しており、大甕の頸部と思われる。B区からは、第1号住居址内唯一の出土土器である。この破片は大甕の胴部の一部であり、土器の断面、内面ともに丁寧に磨き上げている。内面は墨を摺ったようなススが付着している。(46)

灰 釉 陶 器

出土している陶器は2点のみであり、遺構にともなっていない。73は短頸壷の口縁部であり、74は椀である。椀の法量は直径14 cm、器高は残っているだけで3.2 cm あり、底径は欠損して不明であり、器体部全体に施釉されていない素焼きの椀である。土器の年代相としては、大原2

号窯式と思われ、10世紀後半代が与えられよう。

土師質土器

出土している土器は4点のみであり、51、52は第67号土坑の覆土中から出土している。出土している土器は、ほとんどが口縁部の破片であり、土器の焼成は比較的良好であり、色調は茶褐色を呈する。器形はいずれも皿や小皿であり、器体は厚手に作られている。土器の年代相としては、15世紀代と思われる。

中世陶磁器

中世陶磁器として、実測できたものは9点である。出土陶器は常滑、山茶椀、志野、瀬戸などが出土している。

青・白磁片が3点出土し、50は青磁であり龍泉窯の製品と思われ、年代相としては15世紀代と思われる。92は白磁であり日本の製品と思われる。

内耳土器

出土した土器は、そのほとんどが遺構確認面直上より出土しており、接合資料はほとんどない。器形は中位までほぼ直立し、そのまま口縁部まで至るもの、中位までは同じだが上半部でやや外傾してそのまま口縁部に至るもの、中位から上半部の外傾まで同じだが、口唇部が内湾するものの3種類ある。器体成形はろくろ成形であり、器体部外側全体にススが付着している。

近世陶器

グリッドの排土除去中より出土しており、遺構との関係は不明である。出土土器は染付、灯明皿・徳利等があり、年代としては17世紀以降と思われる。

2. 石　器

A区より出土した打製石斧は6点、磨石2点、石皿1点、B区から出土した打製石斧は8点磨製石斧2点、磨石3点である。

a. 打製石器

103 の石質は粘板岩ホルンフェルスであり頭部下半が欠損している。104 の硬砂岩であり刃部に細かい調整剥離が施されている。105 は輝岩であり大型の剥離面である。106 は粘板岩であり形態は半月形を呈する。107 は粘板岩ホルンフェルスであり頭部と基部を欠いている。108 は粘板岩ホルンフェルスであり頭部を欠いている。110 は粘板岩ホルンフェルスであり全体的に厚手につくられており頭部が欠損している。111 は粘板岩ホルンフェルスであり110 の

石器と同様につくられている。112 は粘板岩ホルンフェルスであり 1 部に剥離調整がみられるのみである。113 は粘板岩であり頭部は小さく刃部にかけて広くなる形態をしめす。114 は粘板岩ホルンフェルスであり裏面に自然面を残している。115は硬砂岩であり短冊形の刃部である。116 は硬砂岩であり短冊形の刃部で、裏面に自然面を残している。117 は粘板岩ホルンフェルスであり、柳葉形を呈し、刃部が欠損している。

b. 磨製石器

109 は輝石安山岩であり、卵形を呈している。118 は角閃石安山岩であり半月形を呈する。119 は緑泥片岩であり頭部も欠損している。120 は粘板岩であり刃部の一部が残っているのみである。 121・122 は輝石安山岩であり形態は俵形を呈する。123 は輝石安山岩であり卵形を呈する。

c. 石　皿

125 は第45号土坑の覆土中より出土している。石質は輝石安山岩であり、石皿の凹みは 2 cm を測る。凹みは敲打によって成形されており、鏨状工具を縦方向に連続的に使用して削り出している。

d. 砥　石

53は小型の砥石であり、第 8 号土坑（竪穴遺構）の覆土中から出土している。石材は比常にこまかい粒子で構成されており、石質は鳴滝石と思われる。

124 は第 6 号集石土坑の覆土中から出土している。大型の砥石であり、石質は輝石安山岩と思われ、4 面すべて使用している。

95はグリッド 6 Bのトレンチより出土しており、石質は黒雲母花崗岩と思われ、仕上げ砥用であり 4 面すべて使用し、硬い物でひっかいた跡が残っている。

e. 石　臼

126 は第 2 号土壙内の床直より出土している。石材は輝石安山岩と思われ、石臼特有の目は磨滅しているためか残っておらず、形態によってわかるのみである。これは故意に半截されたらしく、断面に鏨の痕跡が縦方行に走っている。

3. 金　属　器

a. 貨　幣

遺跡内からは合 計 14 枚出土している。55から59までは第 1 号土壙から出土し、合計で 6 枚

出土している。 55は紹聖元完（1094年）、56は聖宋元宝（1101年）、57は政和通宝（1111年）、58は咸淳元宝（1265年）、59は洪武通宝（1368年）である。

その他の貨幣は、排土除去中に見つかったものであり、60は景裕元宝（1034年）、61は皇宋通宝（1039年）、62は元豊通宝（1078年）である。

b. 用途不明金属器

54は第6号集石土坑から出土している。遺物表面全体に緑青が付着しているため銅製と思われる。器形を推定すると、銅製容器の底部と思われる。

Ⅳ. ま　と　め

a. 掘立柱建物址

当遺跡内において検出された柱穴は、約 200本ほどあるが、これらがすべて掘立柱建物址の柱穴とはかぎらないが、推考によって想定された建物址は34棟である。これらの建物址は、柱痕が確認できたもの、柱穴の深さがほぼ等しいもの、柱穴の形に類似性があるもの、柱間の距離がほぼ等しいもの、建物址の方位性などを考慮に入れて作図、復元した。平安期やそれ以前の建物址は、柱穴と柱痕の比率が大きいのに対し、当遺跡内において検出されている柱穴は、この比率が小さくなっており、時代が下るにつれて柱穴と柱痕の比率は小さくなっていくようである。中世における一般庶民の住居は、建築史のどこに位置するのか、縄文時代から平安期あるいは中世初頭において、掘立柱建物址を伴なって検出されているが、依然として竪穴住居址を基本形としている。平安期以降は竪穴住居址という半地下から、掘立柱建物址という地上に移項していく時期が、中部山岳高地においては、中世がその過渡期と思われ、他地域よりかなり遅れて始まったといえる。

最近、北巨摩地方で相ついで中世の遺跡が発掘調査されているが、遺構にちがいが認められる。時期的には同時代でありながら、主体となる住居址が、約4ｍ 四方の竪穴住居址であり4隅と中間に壁柱穴が掘られており、住居内の中央部に焼土が見受けられる。これとほぼ同形の住居址が10世紀後半代の住居址の内にも見受けられる。

当遺跡内において検出された建物址は、2間×2間が8棟、2間×3間が9棟、2間×4間が3棟、3間×3間が12棟、3間×4間が1棟である。

千葉県で調査された山田水呑遺跡では、奈良・平安期の掘立柱建物址を規模・形態において分類しており、神奈川県で調査された向原遺跡ではさらに細かく分類している。

これらの結果によると、2間×2間・2間×3間は倉庫としてとらえ、3間×3間・2間×4間・3間×4間は住居としてとらえている。このことは、平安期以降つくられるようになっ

た掘立柱建物址は、竪穴住居址の地下の部分が、そのまま地上にでたと考えられよう。

b. 土　坑

当遺跡において検出された土坑は68基あるが、それを９つの分類にした。しかし、それはあくまでも形態や大小などによって細分したが、土坑本来のもつ意味としては、分類しきってはいない。

1. 土壙墓と認められるもの

この中に入るものとしては、第１、２、６号土壙があげられ、各々から貨幣６枚、半截された石臼、大型の砥石と用途不明銅製品が出土している。

2. １に準ずるもの

検出されている土坑のほとんどがこの中に入るものと思われる。その中でも特に、遺構確認面や覆土中において集石の確認された土坑。

3. 遺構の形態・時代性は、中世的な特色を持っているが、性格的に不明なもの

この遺構は、一般的には方形竪穴遺構と呼ばれており、現在のところ工房址あるいは倉庫としてとらえられている。（第８、61号土坑）

4. 柱穴とも、土坑とも区別のつかないもの

この種としては、第９から第14号土坑である。形態的には長方形を呈するが、遺構自体はそれほど深く掘られていない。中世における柱穴とするならば、一定の規則性が認められるが、この遺構にはそれがない。

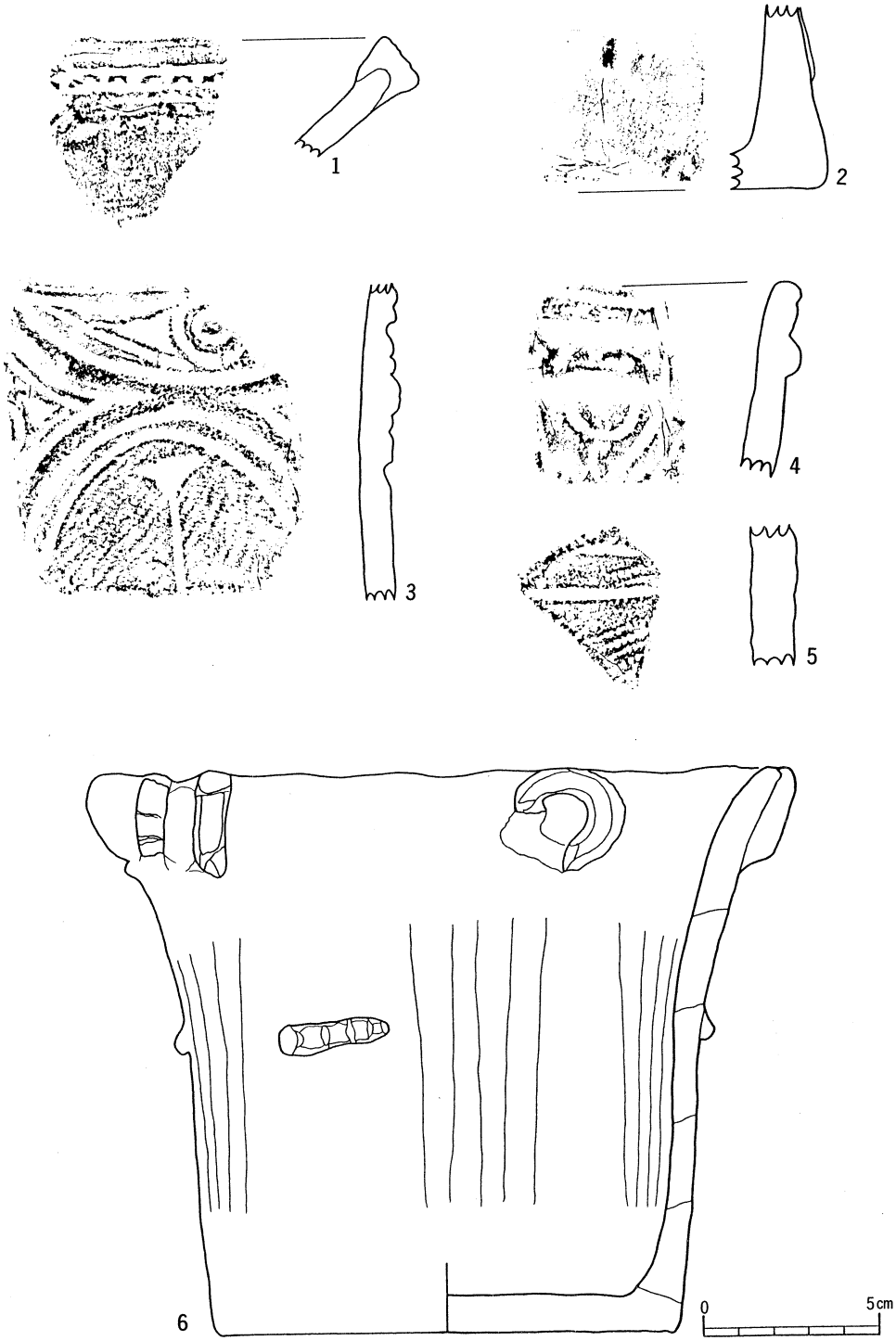
Ⅴ．おわりに

旭東久保遺跡の発掘調査が、ここに一冊の報告書として発刊することができた。本書が、北巨摩ひいては山梨県の歴史の一部を解明する一助になれば幸いである。最後に炎天下の中発掘作業及び遺物整理をしていただいた地元の方々、本書作成に御協力・御指導をいただいた峡北

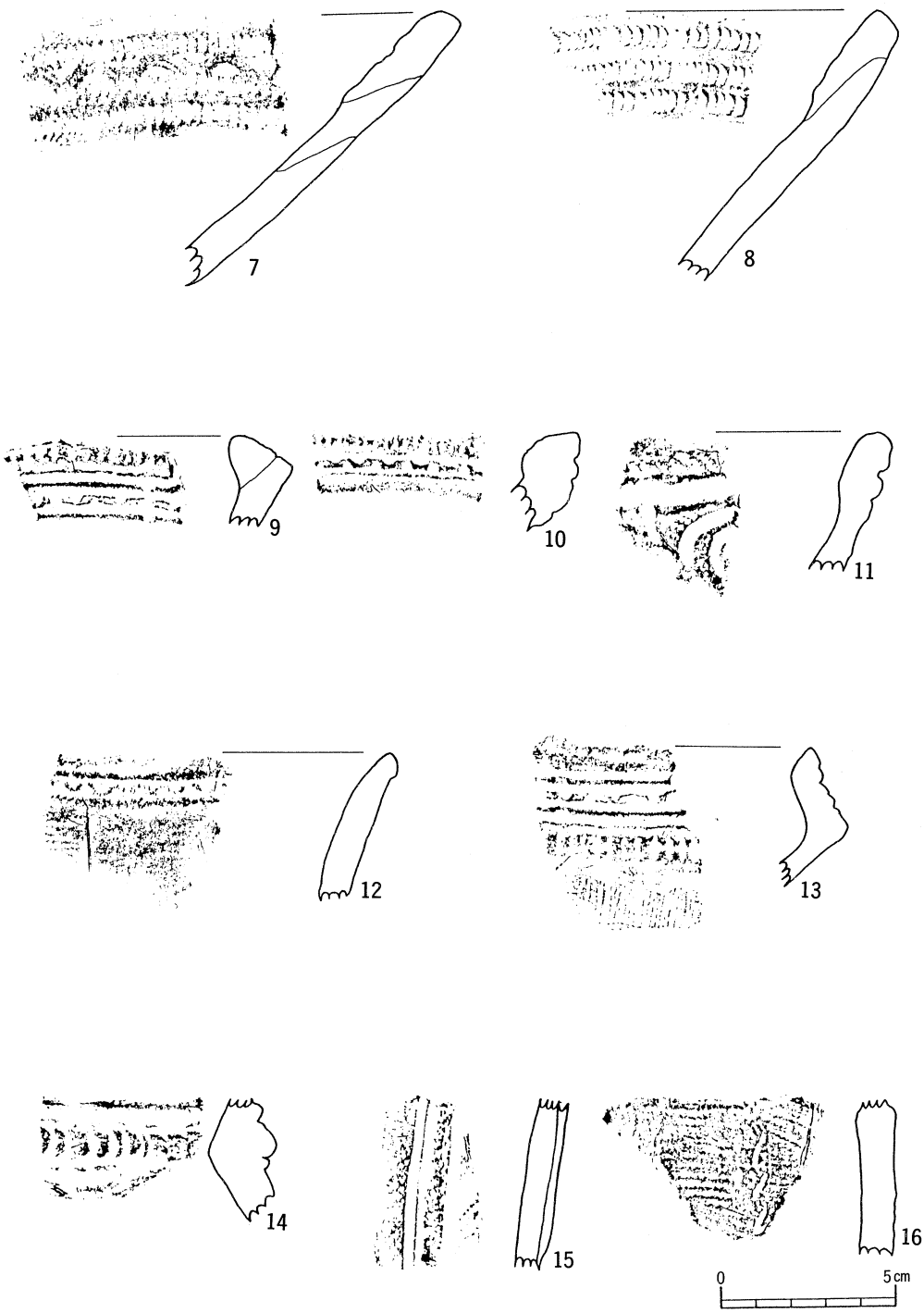
土地改良事務所・県文化課・埋文センター町振興課の各位をはじめ関係諸氏に対し、心より厚く感謝申し上げます。

参　考　文　献

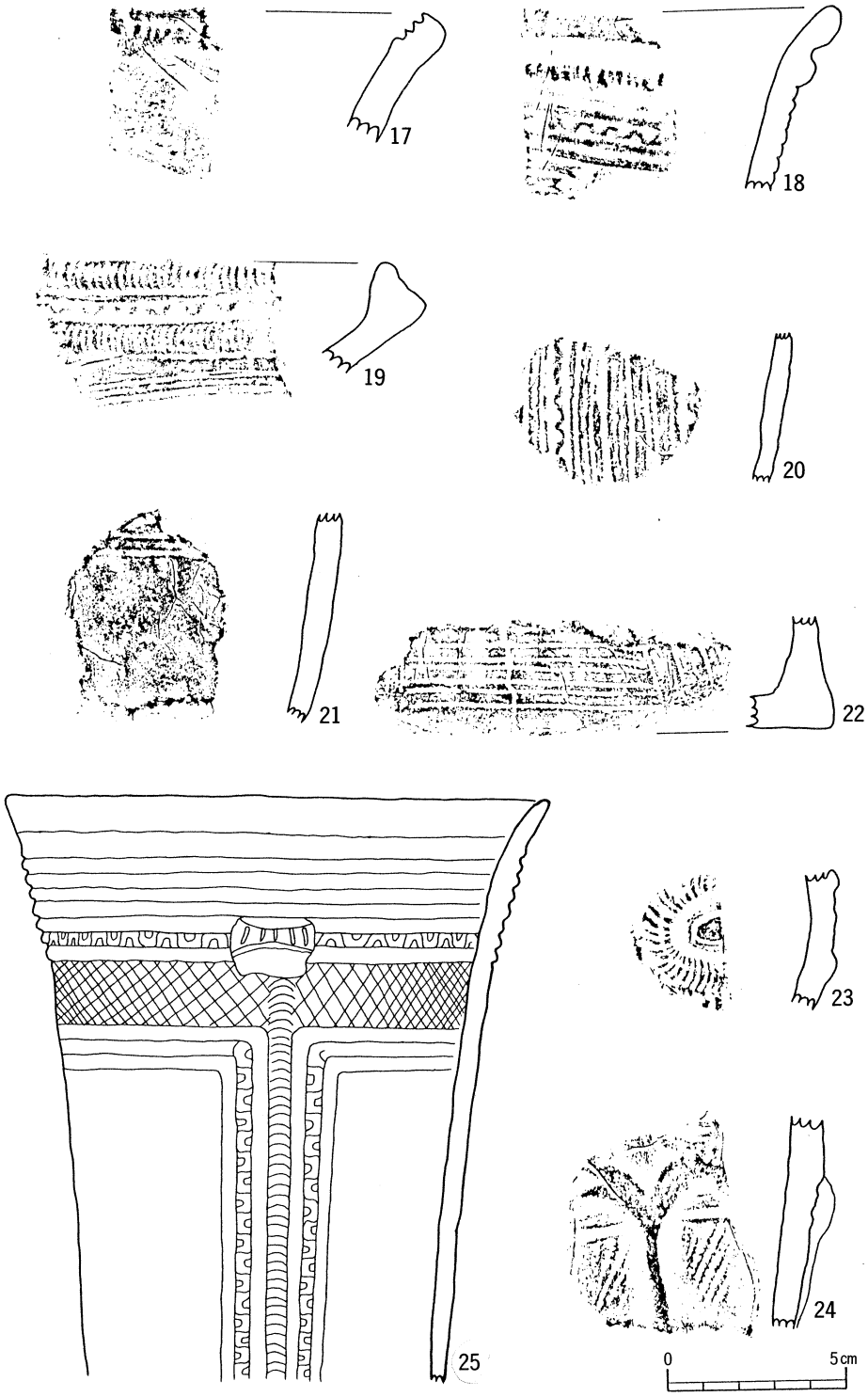
○坂本美夫　末木健　掘内真　1983　「シンポジウム　奈良・平安時代の諸問題」
神奈川考古　第14号
○神奈川県教育委員会　1982　「向原遺跡」
○川崎市教育委員会　1982　「新作小高台遺跡」
○長門町教育委員会　1984　「中道遺跡」
○高根町教育委員会　1984　「東久保遺跡」
○有隣堂　「中世鎌倉の発掘」　大三輪龍彦
○産業技術センター　「石臼の謎」　みわしげを
○山梨県教育委員会　1982　「山梨県の民家」
○至文堂　「日本の美術」　第60号　「民家」
○至文堂　「日本の美術」　第38号　「住居」
○ニューサイエンス社　「美濃焼」　田口昭二
○ニューサイエンス社　「鎌倉の考古学」　大三輪龍彦
○名著出版　「中世の考古学」　斉藤　忠
○「山梨考古」　第16号　山梨県考古学協会
○ニューサイエンス社　「常滑焼」　赤羽一郎



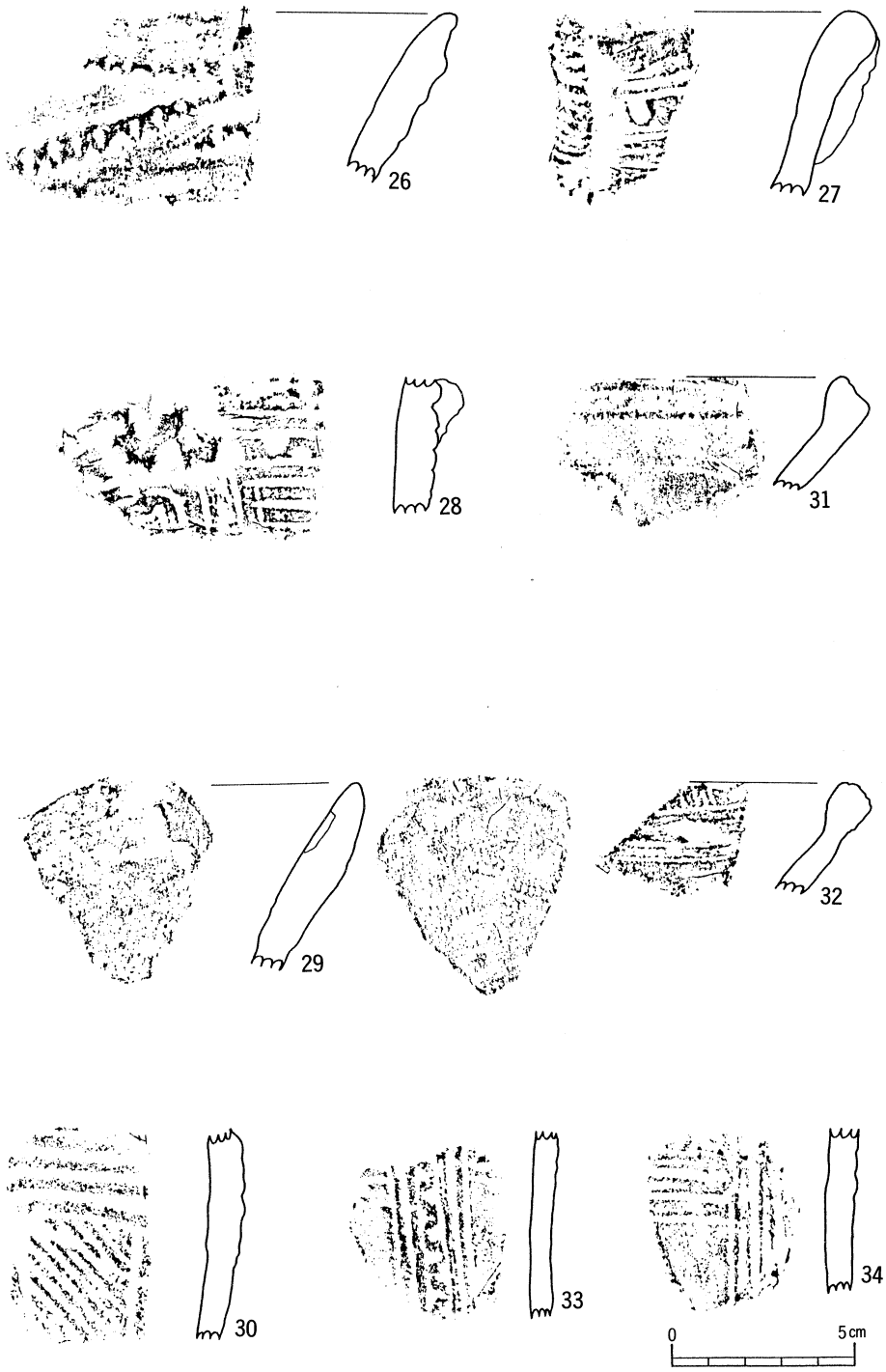
第30図　第４号土坑（１～２）第５号土坑（３～５）第７号土坑（６）B区出土遺物



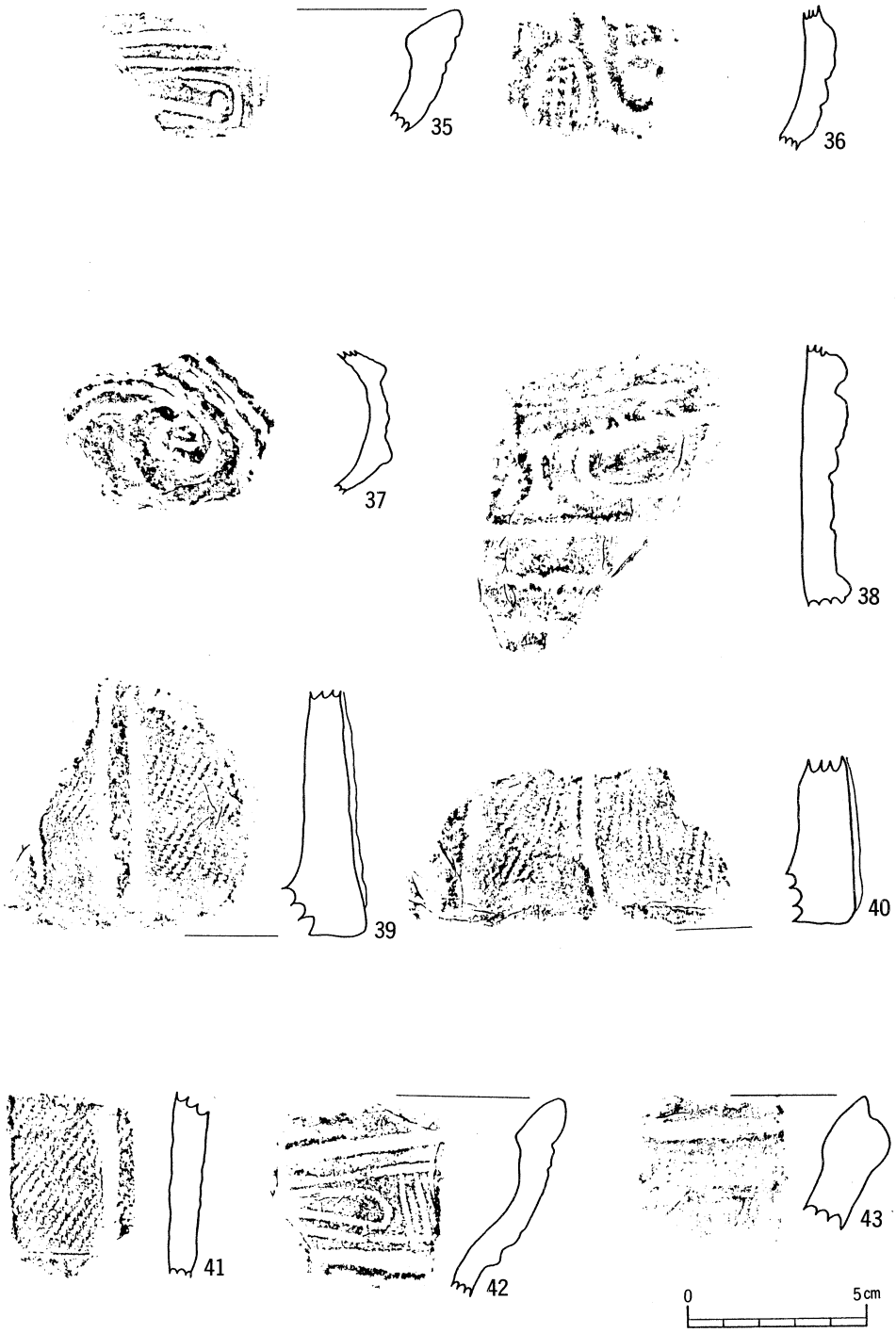
第31図　第６号土坑（７～16）B区出土遺物



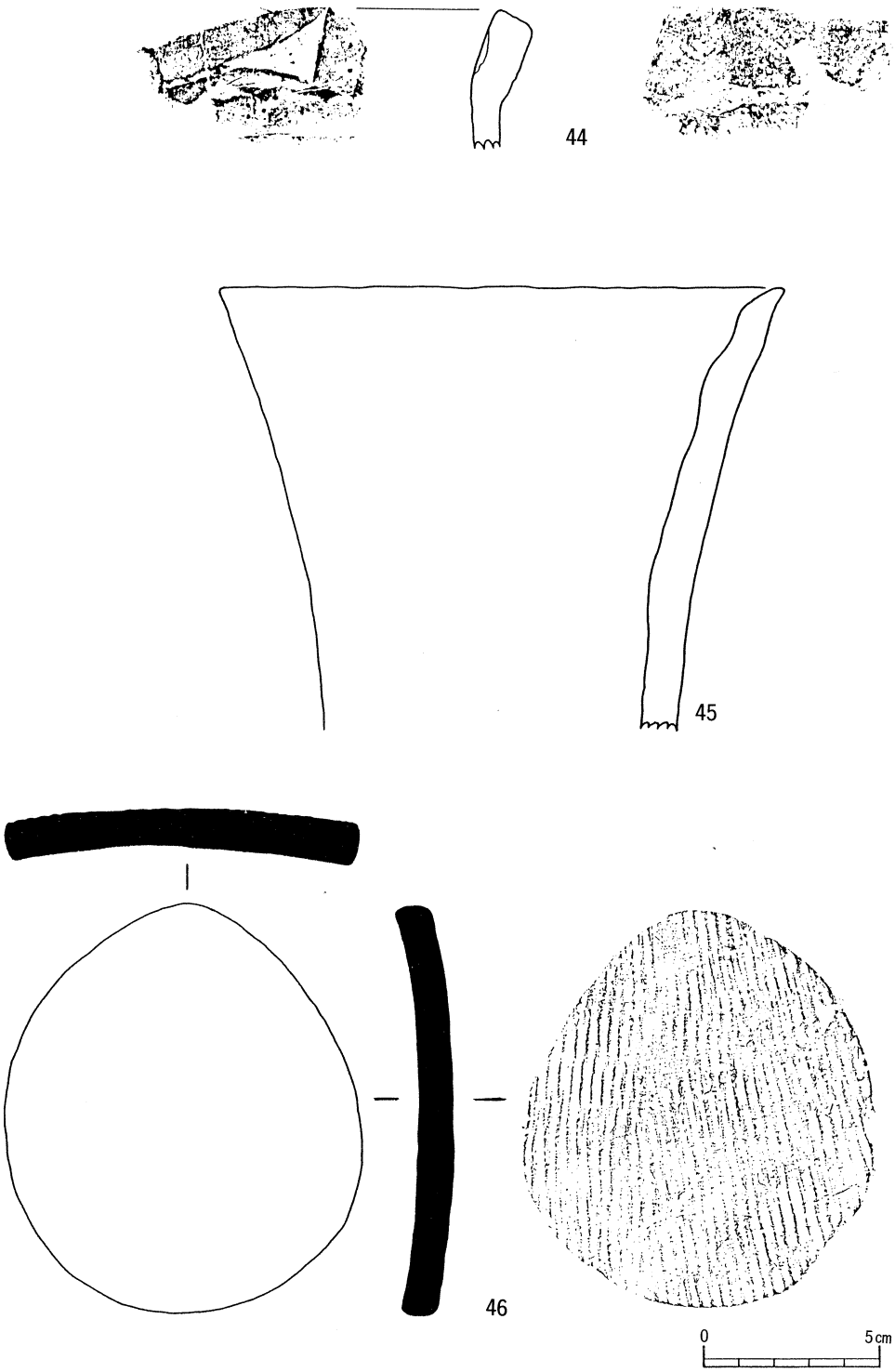
第32図　第10号土坑（17）第14号土坑（18～25）B区出土遺物



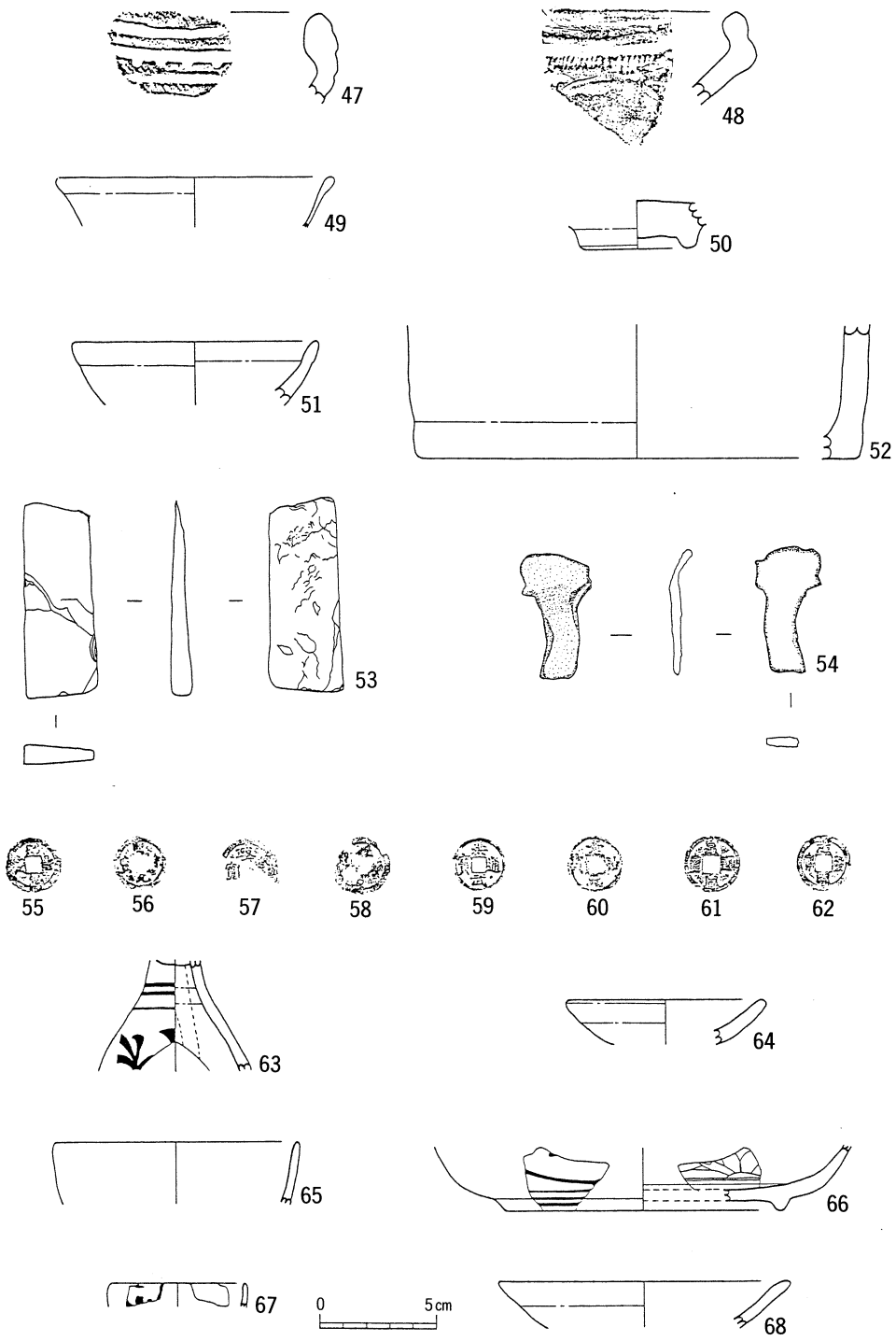
第33図　第14号土坑（26～28）第15号土坑（29～30）第23号土坑（31～34）B区出土遺物



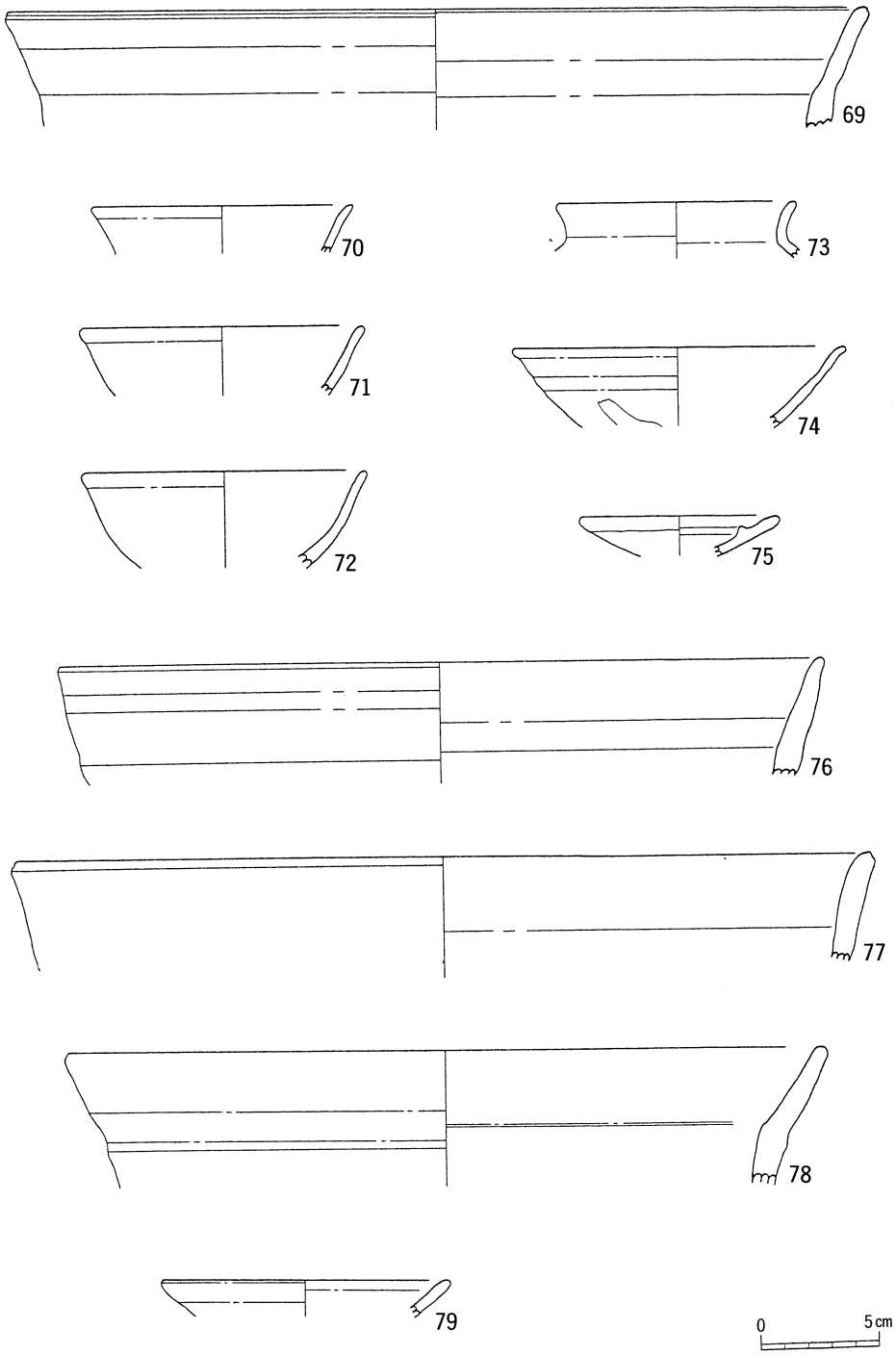
第34図　第24号土坑（35～36）表採（37～38）5Ｄ（39～41）10Ｄ（42）11Ｄ（43）B区出土遺物



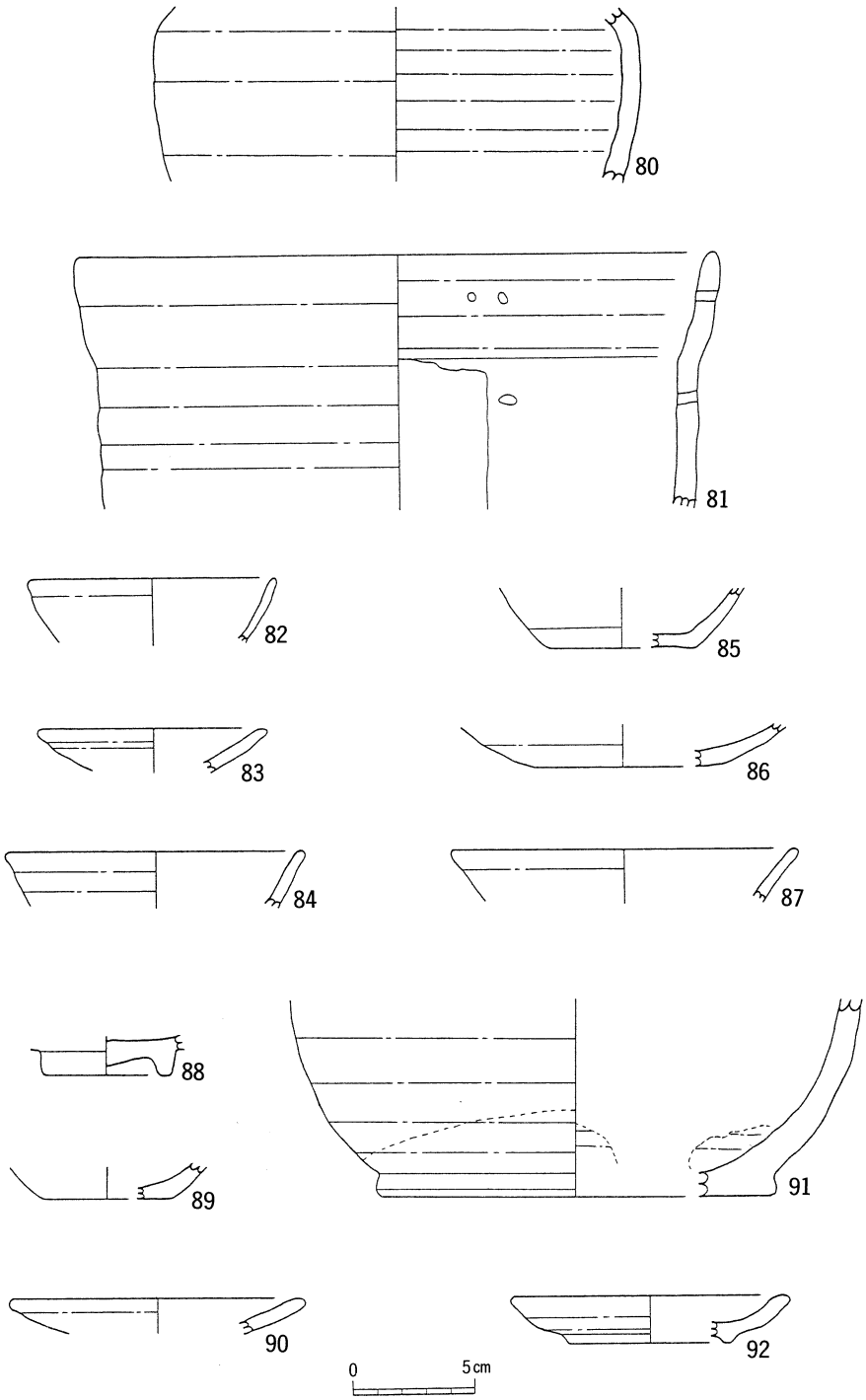
第35図　5D（44）8C（45）第1号住居址（46）B区出土遺物



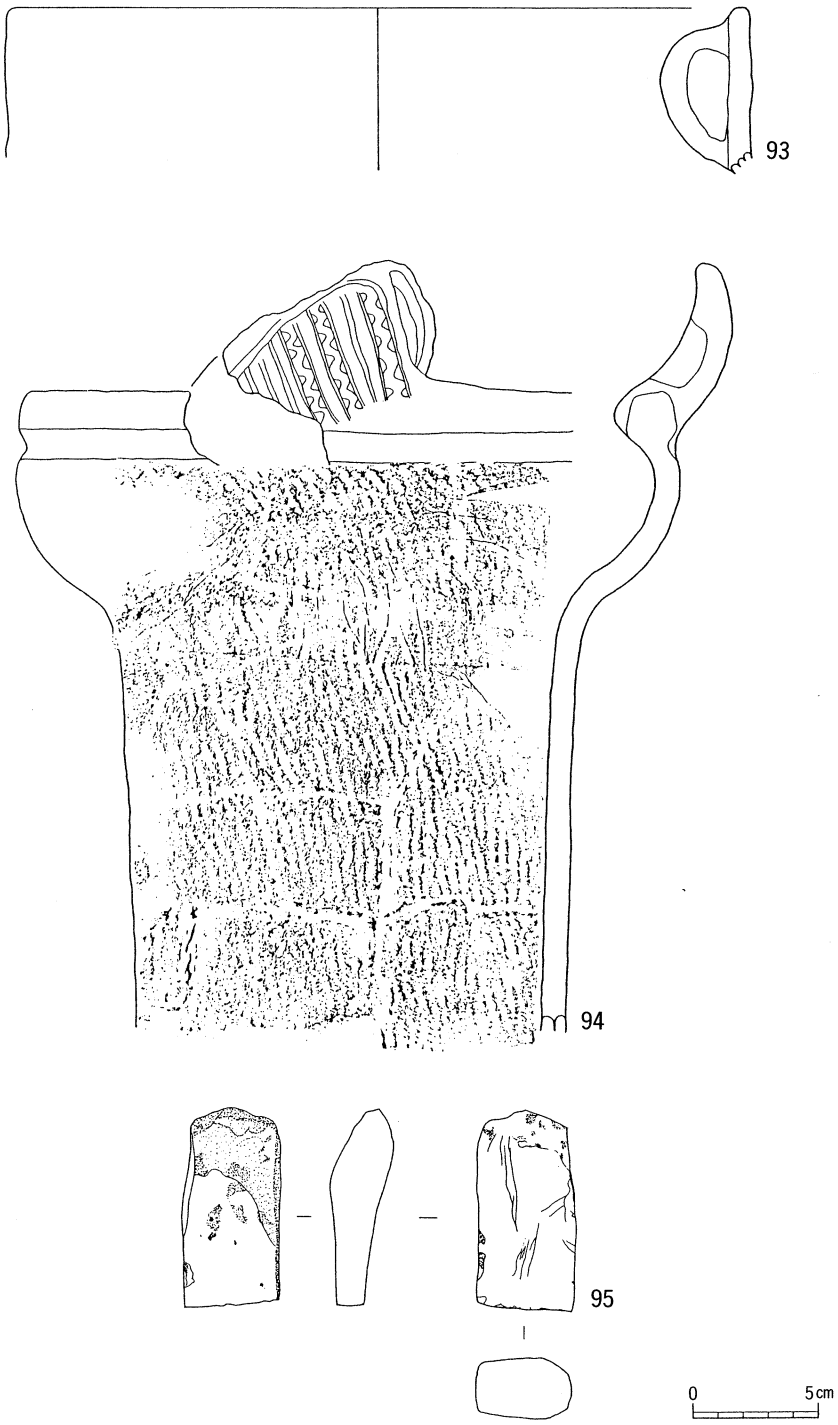
第36図　第54号土坑(47,48) 第８号土坑(49,53) 第67号土坑(51,52) 第６号土坑 (54) 第１号土坑 (55～59) ４E(60,61) ４C (62) ３C(63,64) ３B(65,66) ４B (67) ４C (68) A区出土遺物



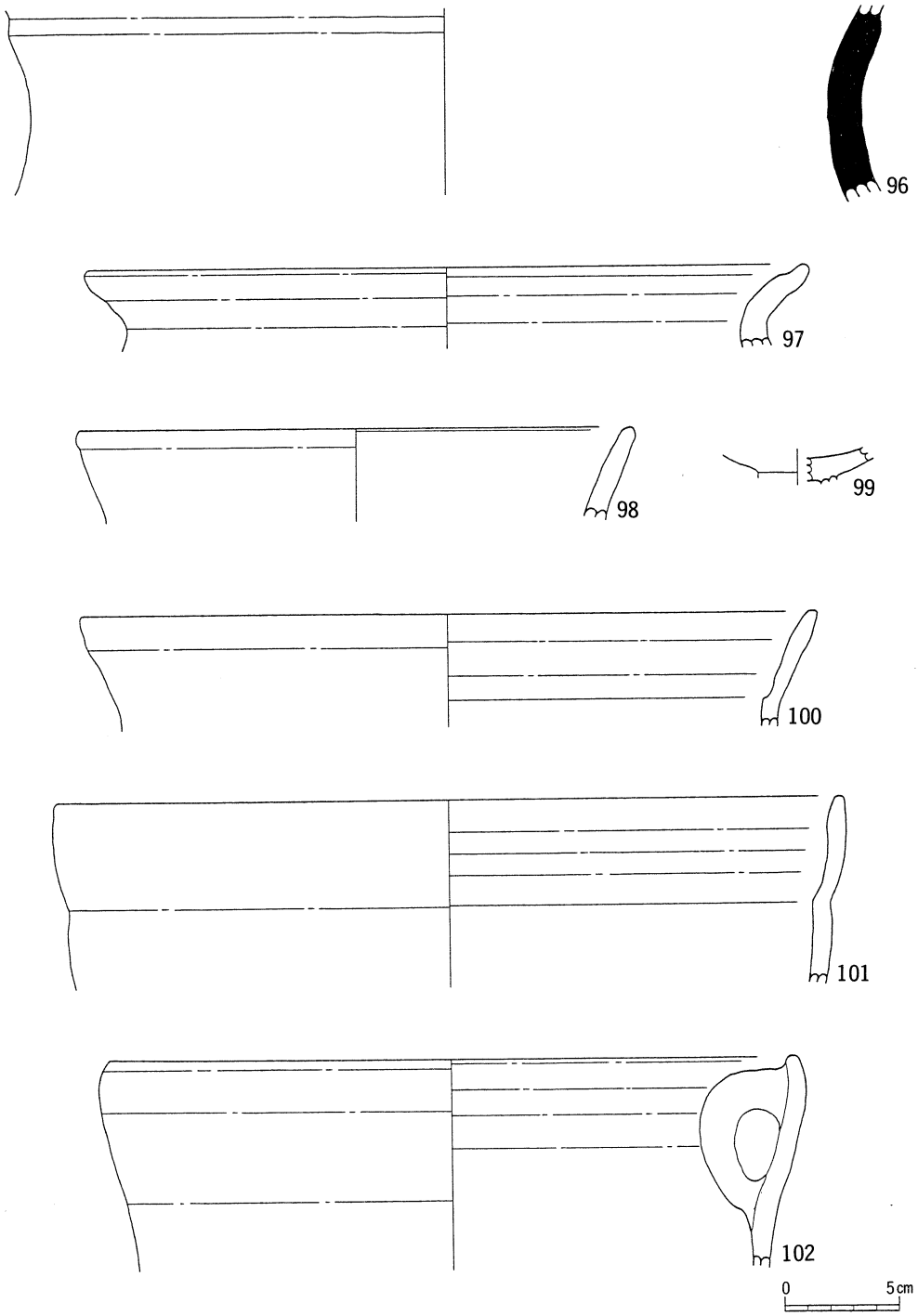
第37図　4Ｄ（69）5Ｃ（70～72,76,77）5Ｆ(73,74）6Ｆ（75）6Ｃ（78）6Ｄ（79）A区出土遺物



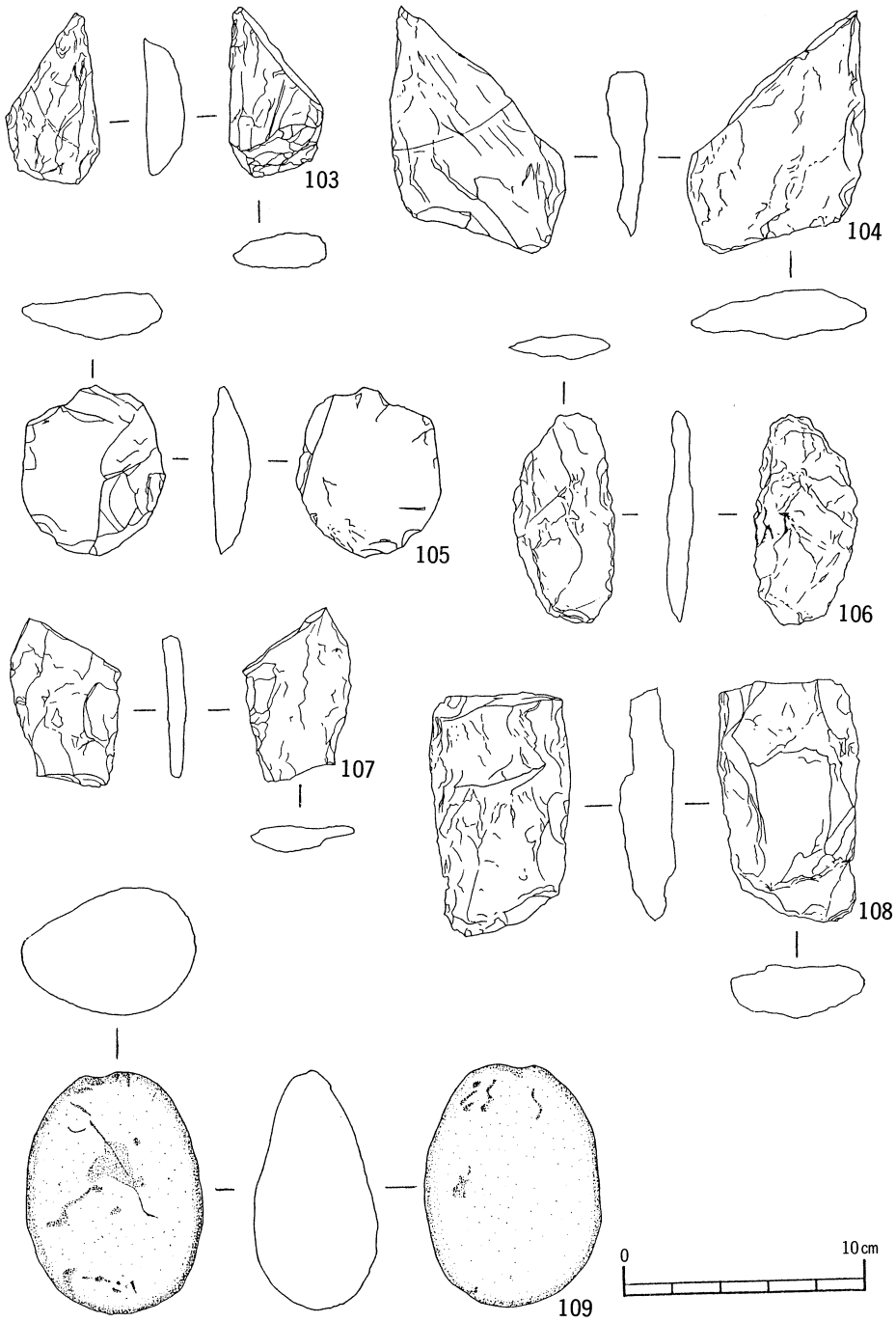
第38図　G－6E（80）G－6F（81）G－7C(82,85）G－7D(83,86）G－7E（84）G－8F（87）
表採（88～92）A区出土遺物



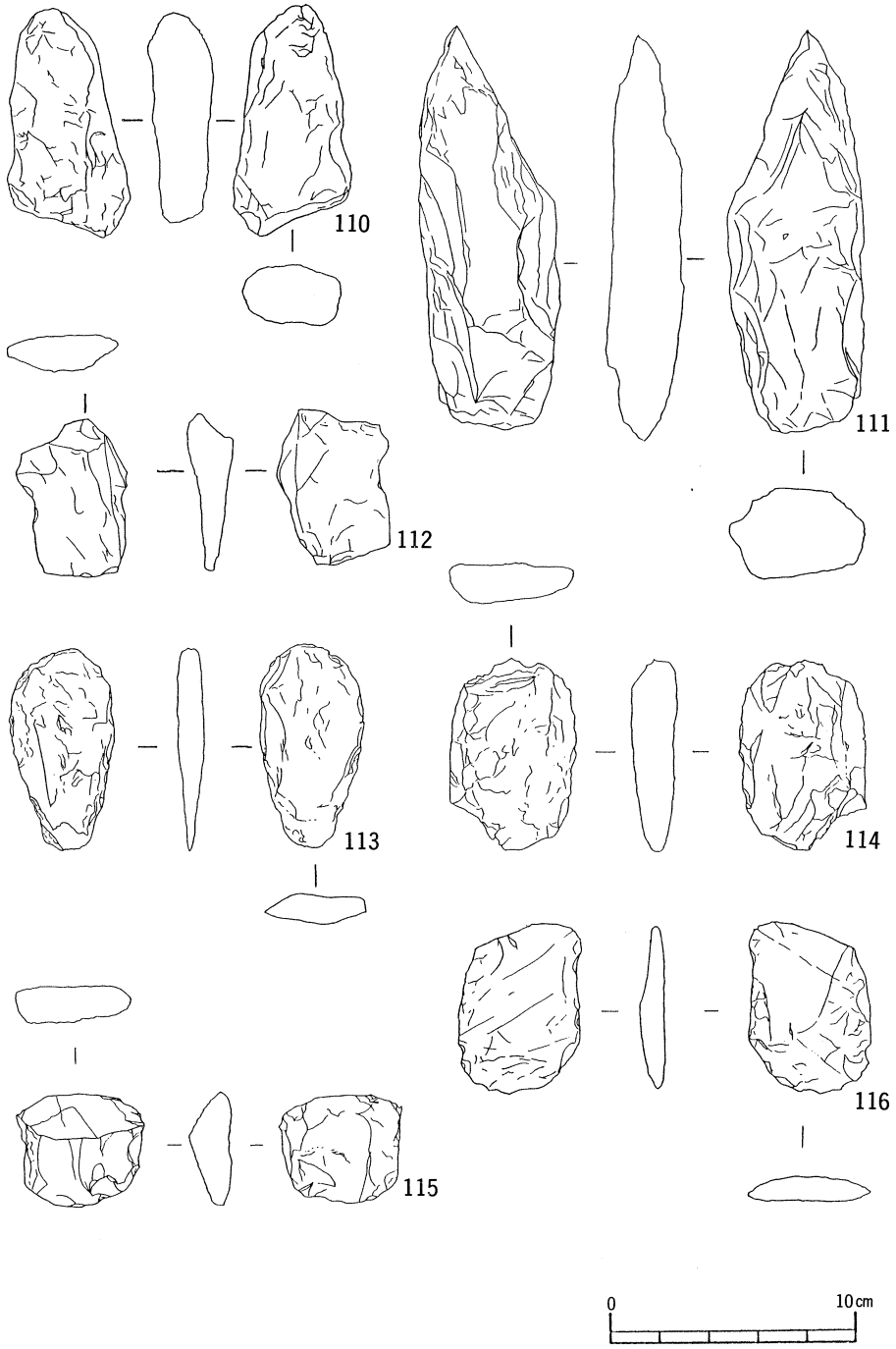
第39図　表採（93）G—9E（94）6Bトレンチ（95）A区出土遺物



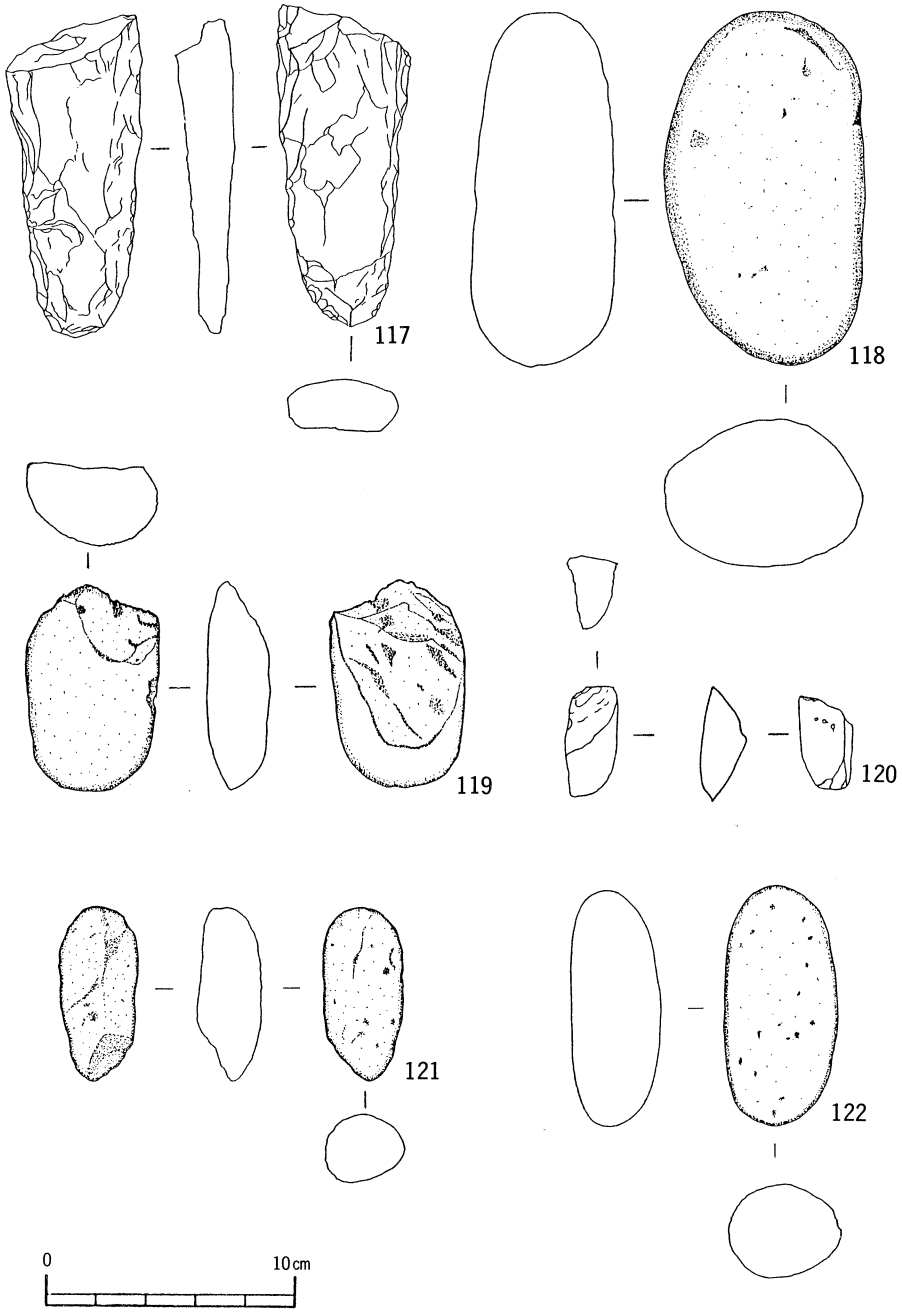
第40図　試掘（96～102）A区出土遺物



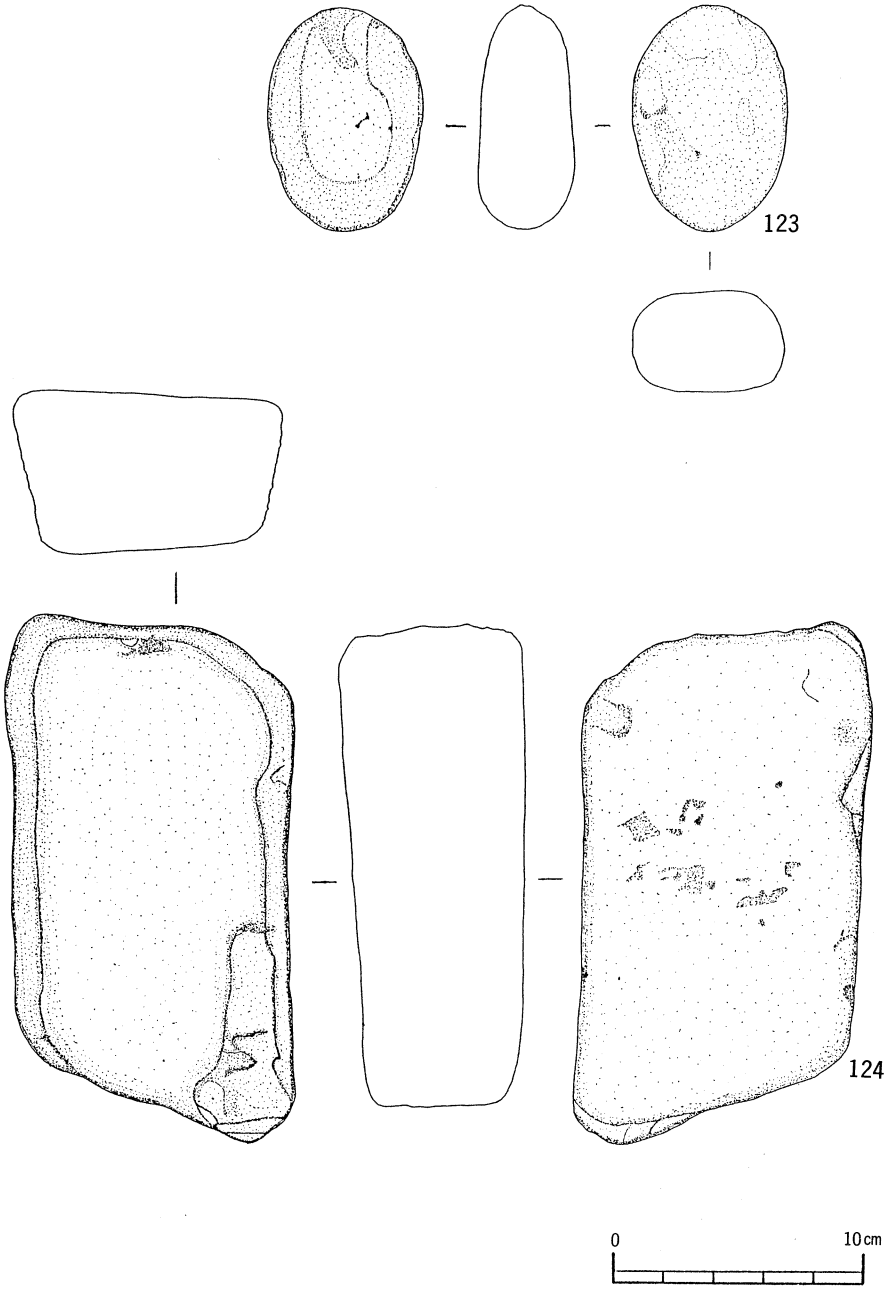
第41図　旭東久保遺跡出土遺物実測図（A区）



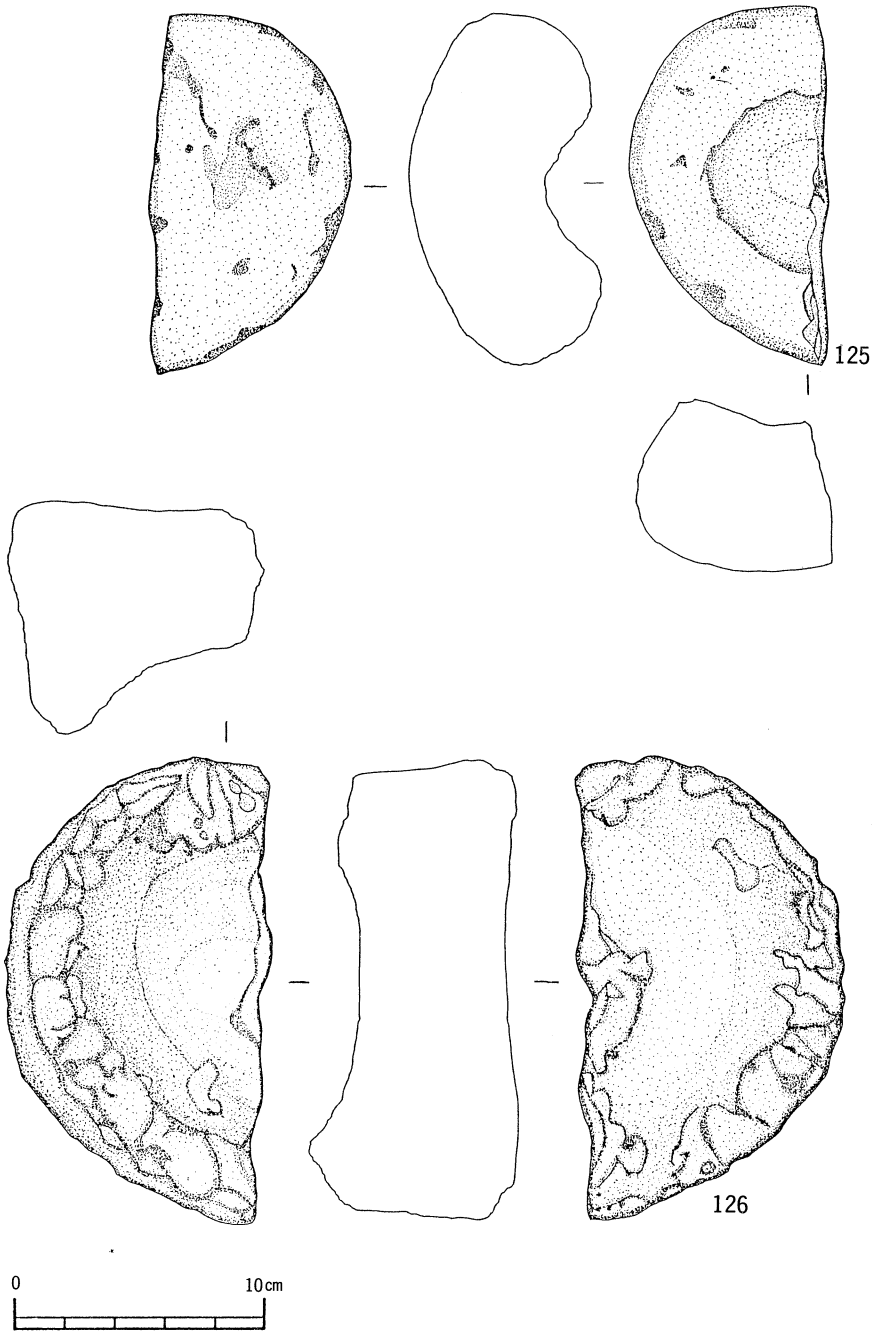
第42図　旭東久保遺跡出土遺物実測図（B区）



第43図　旭東久保遺跡出土遺物実測図（B区）



第44図　旭東久保遺跡出土遺物実測図（A区）



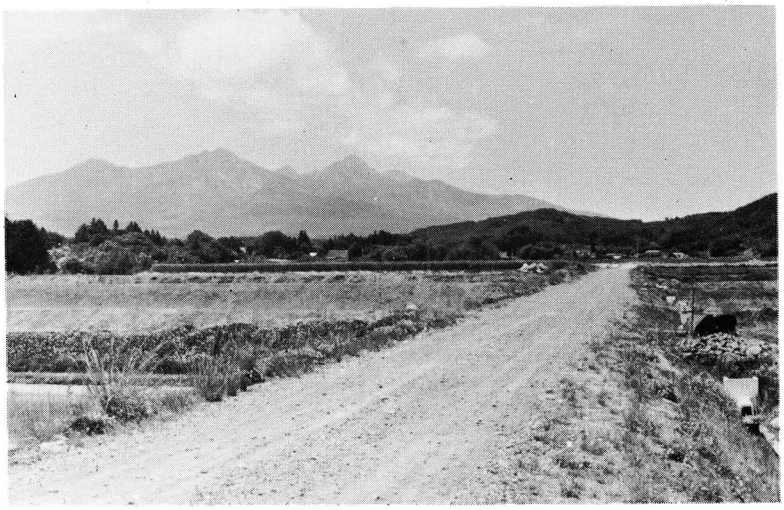
第45図　旭東久保遺跡出土遺物実測図（A区）

図　　版

図版1

遺跡遠景

（南より）



A区

遺跡遠景

（北より）

全景写真

（北から）

図版2

健物址全景写真

全景写真
（南から）

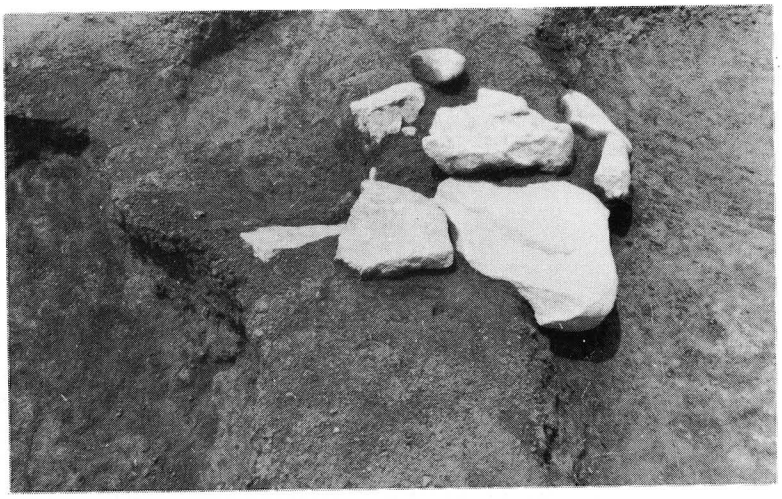
全景写真
（東から）

図版3

第1号土坑群

第2号土坑群

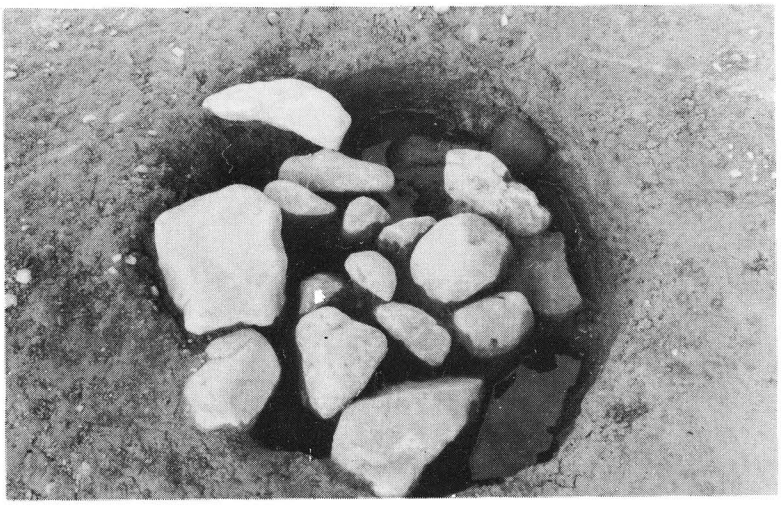
第2号土壙



第2号土壙
完掘状況

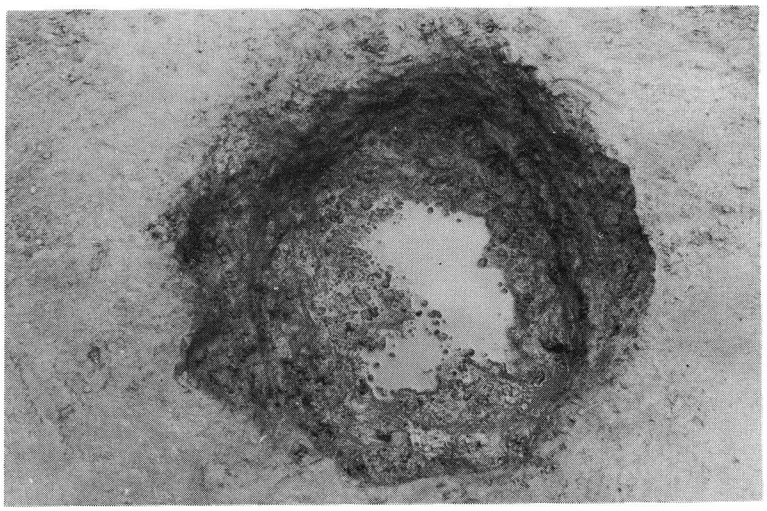
第2号土壙
石臼出土状況

第3号集石土坑

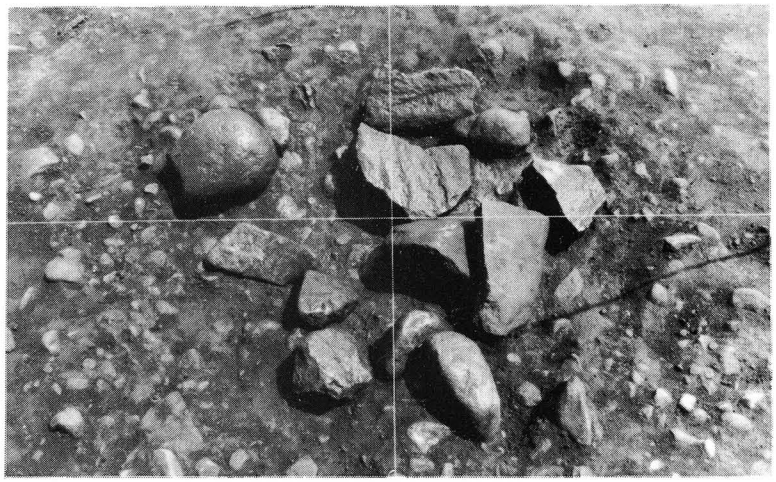


図版5

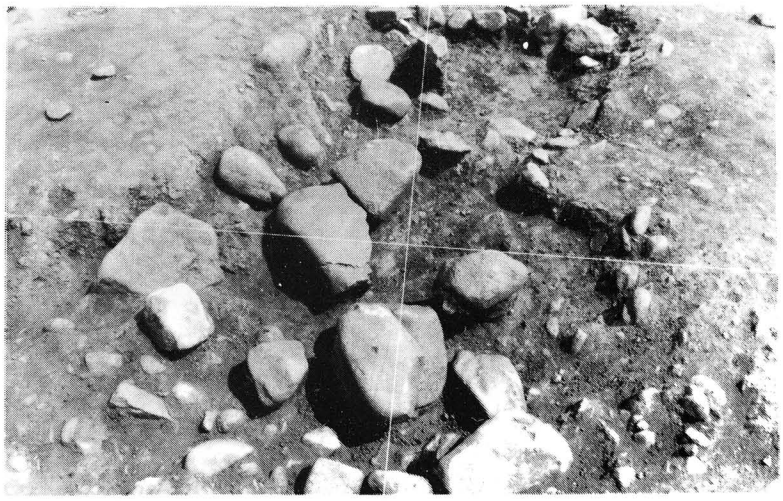
第3号集石土坑
完掘状況



第4号集石土坑



第5号集石土坑



図版6

第6号集石土坑

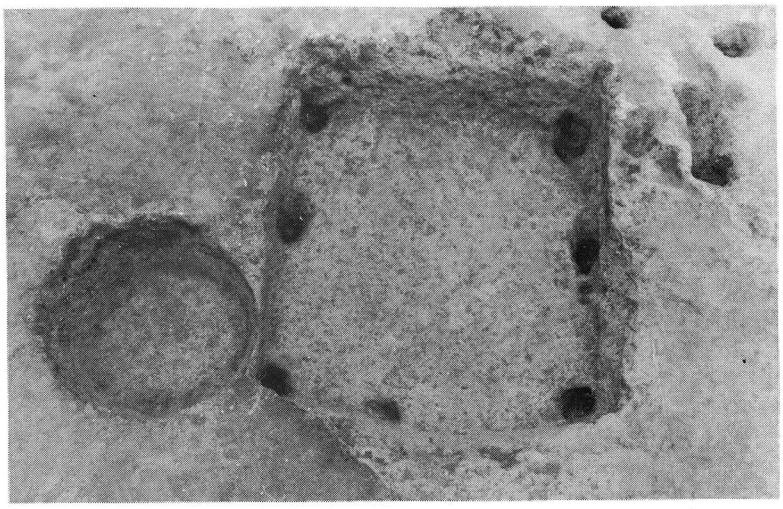
第6号遺物
出土状況

第6号砥石
出土状況

第6号用途不明
金属器出土状況

第7号集石土坑

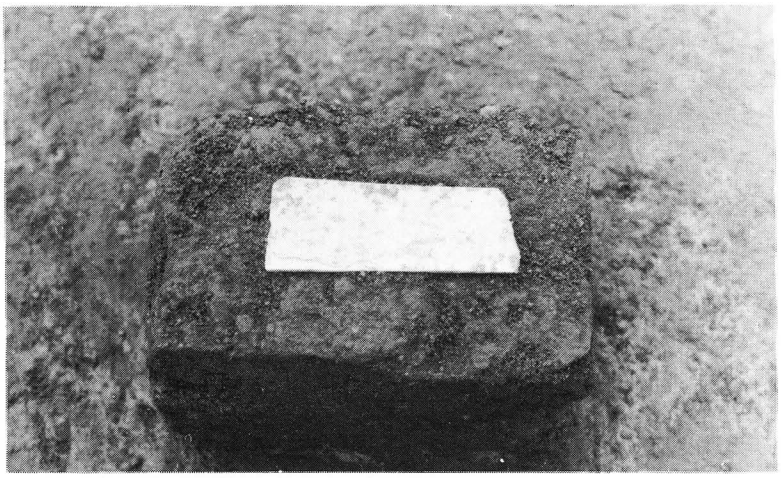
第8号土坑
（方形竪穴遺構）



図版8

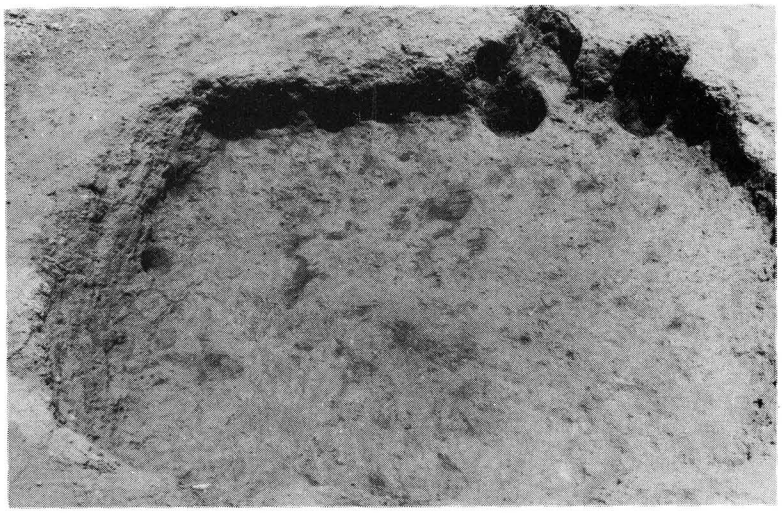
第8号土坑
遺物出土状況

第8号土坑
砥石出土状況



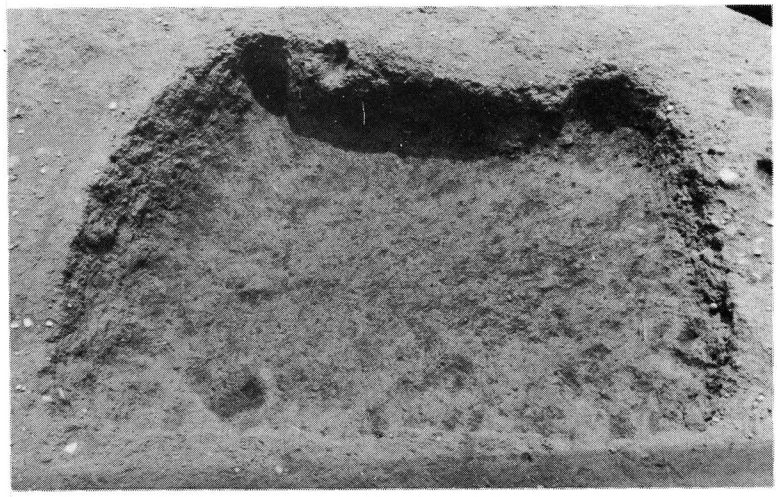
第9号土坑

第10号土坑

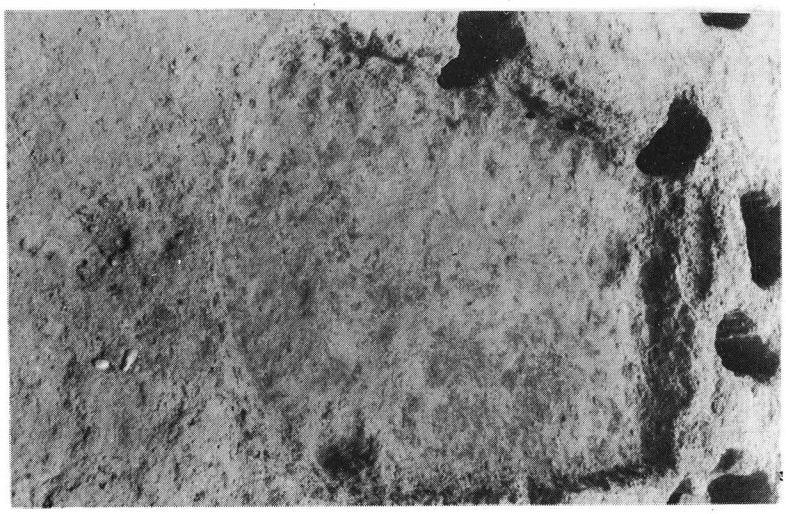


第11号土坑

第12号土坑



第14号土坑

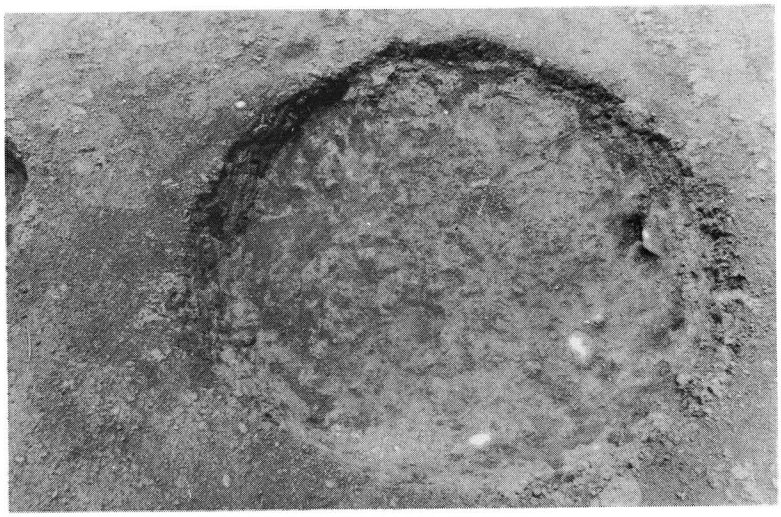


第15号土坑

第16号土坑

図版11

第17号土坑



第18号土坑

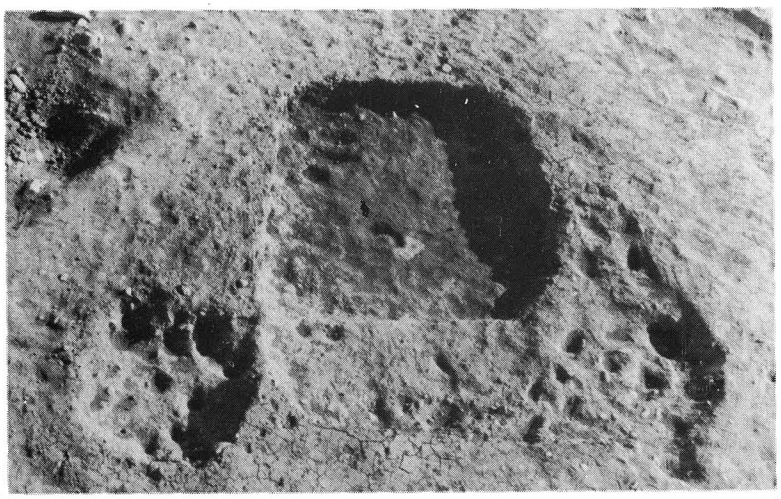
第20～29号土坑

図版12

第30号土坑

第31号土坑

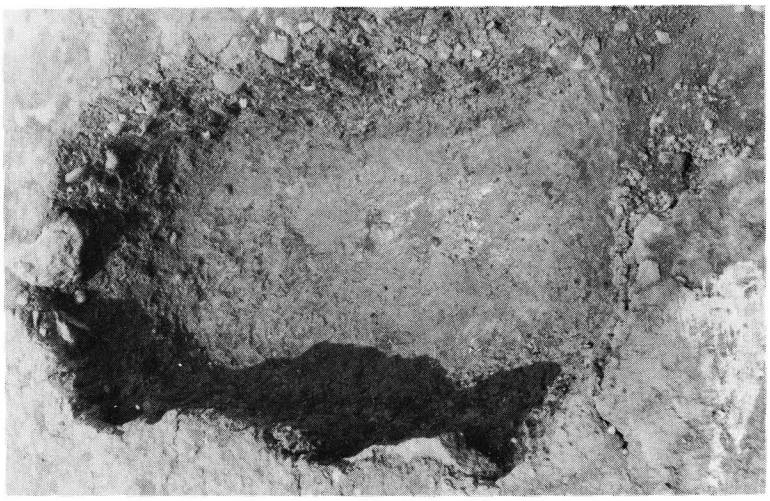
第33～36号土坑



第41号土坑

第42号土坑

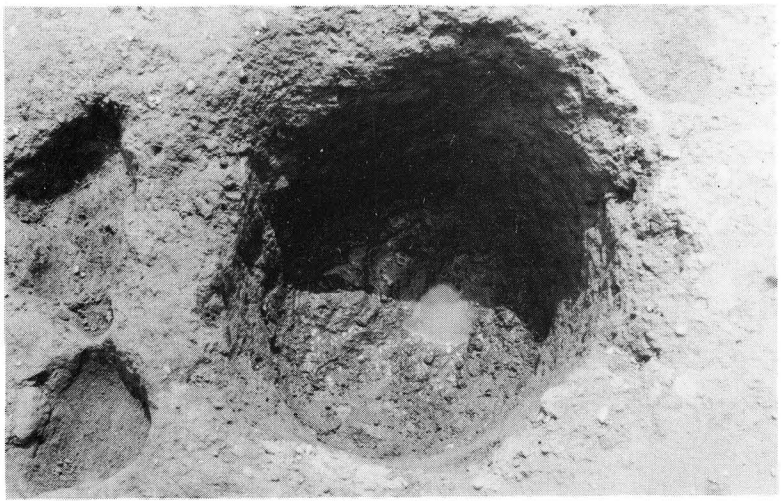
第42号土坑
完掘状況



第45号土坑

第47号土坑

第48号土坑



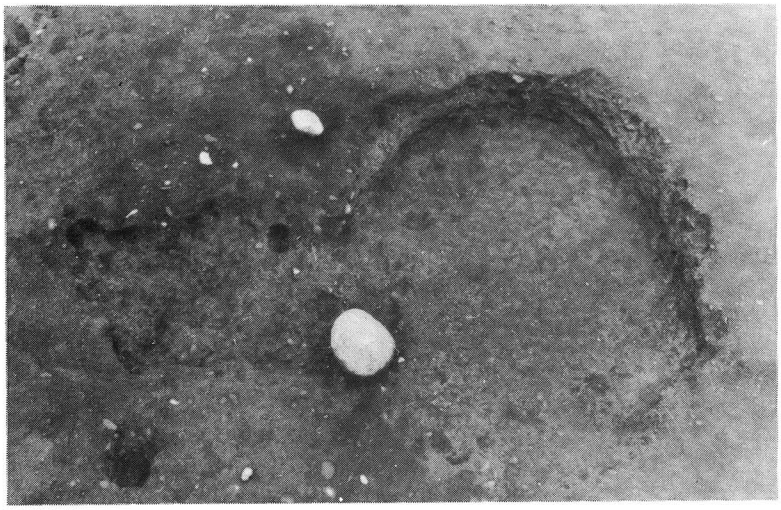
第49～50号土坑

第54号土坑

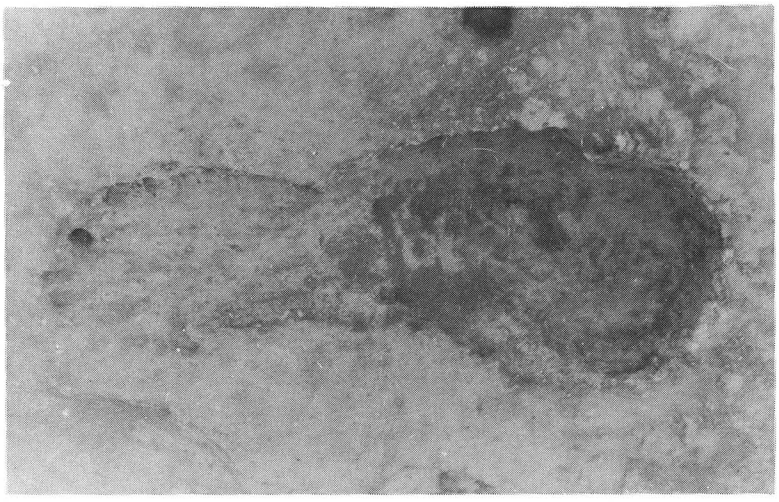
第58～59号土坑

第61号土坑

第65号土坑



第66,67,68号土坑



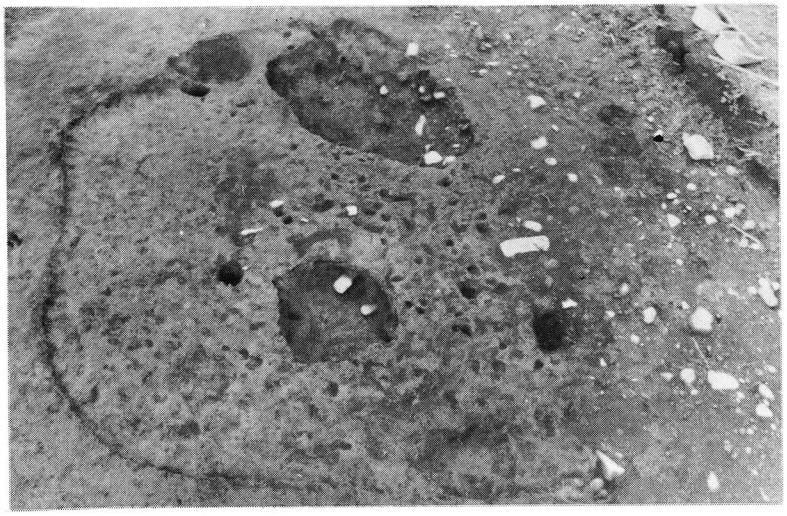
図版17

B区
遺跡遠景
（北から）

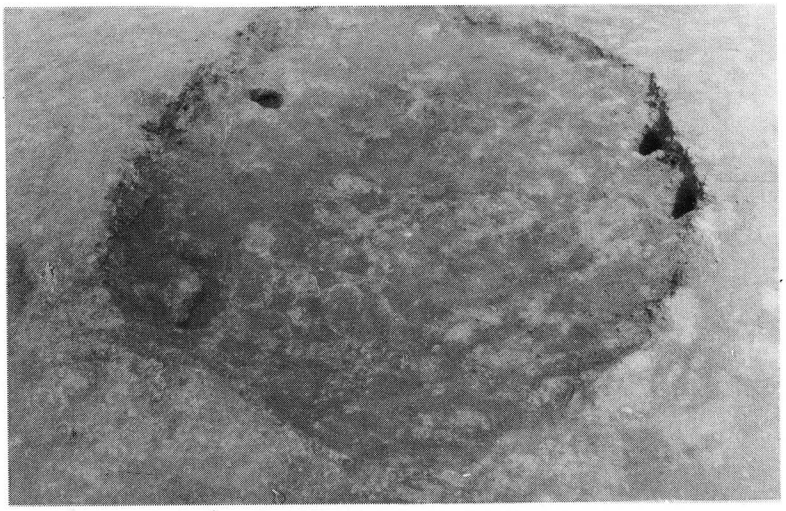
遺跡遠景
（西から）

遺構検出状況

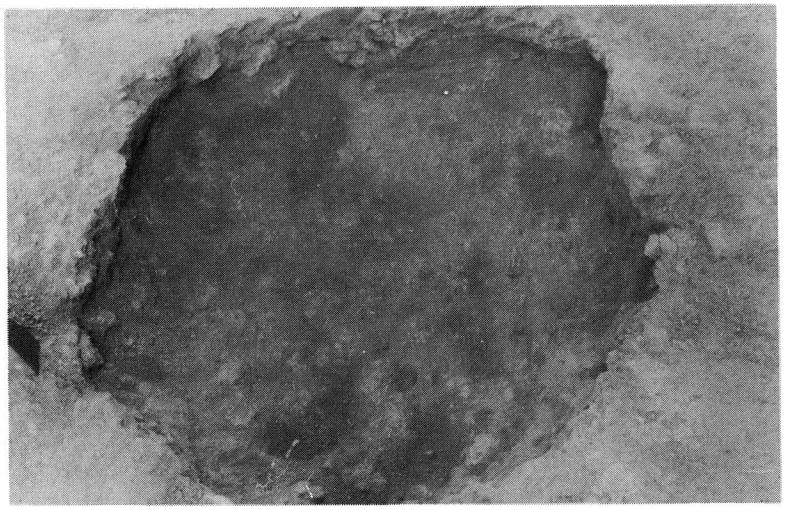
第1号住居址



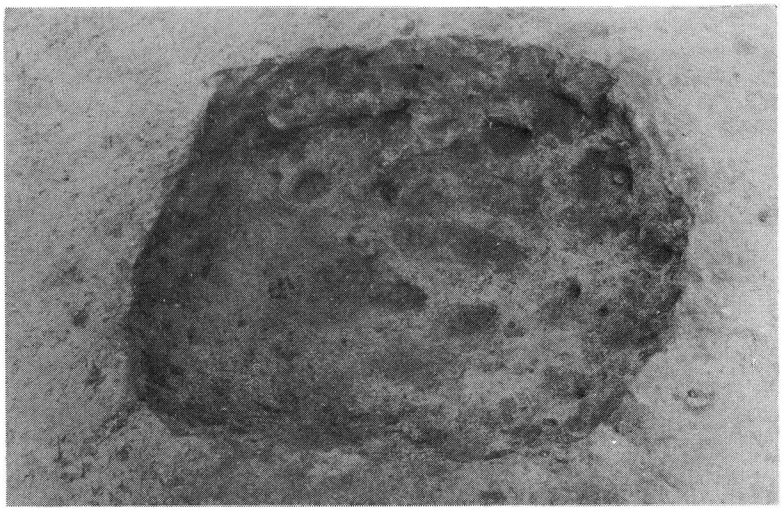
第1号土坑



第2号土坑

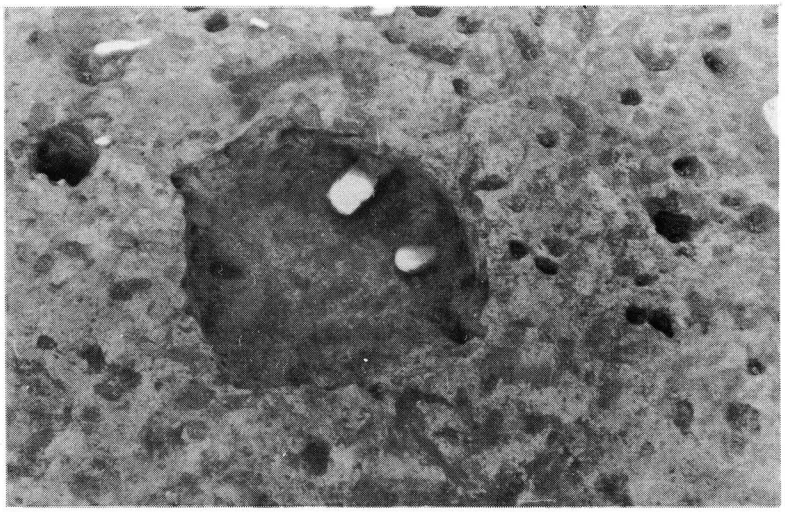


第3号土坑

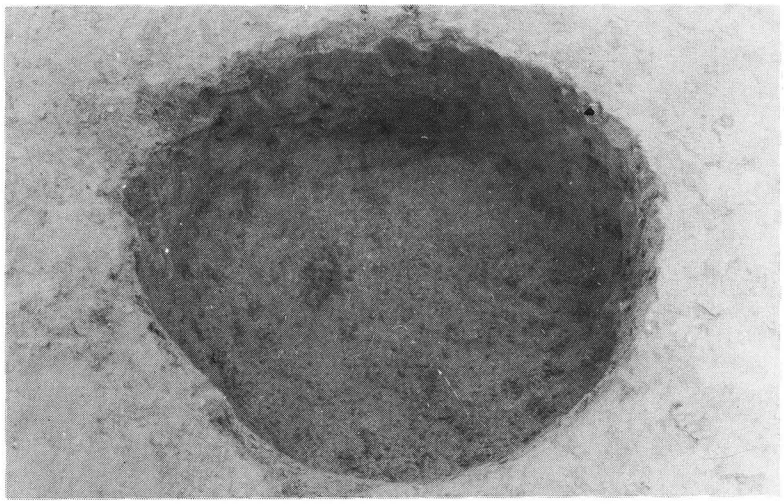


第4号土坑

第5号土坑

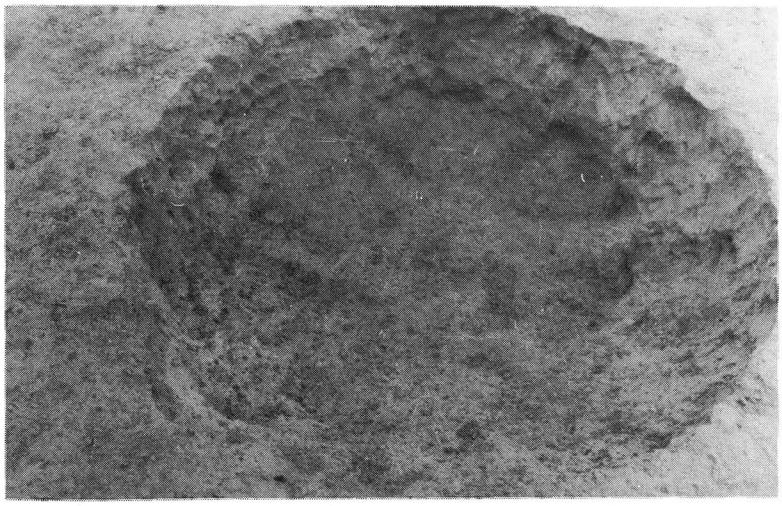


第6号土坑

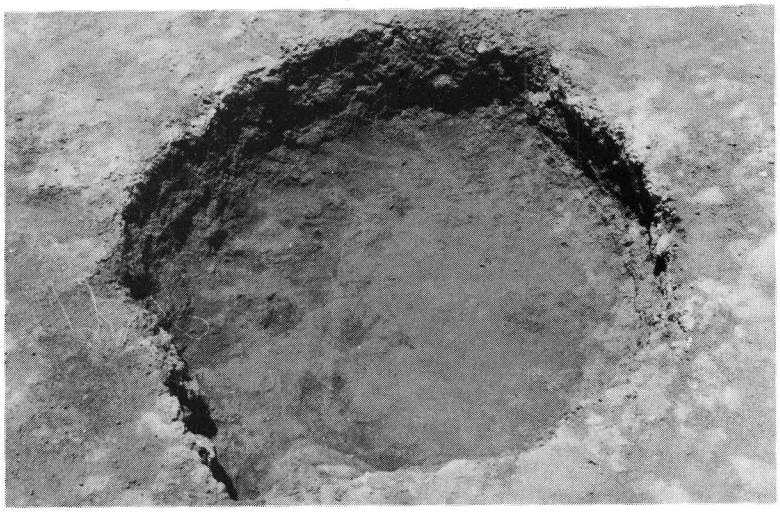


第7号土坑

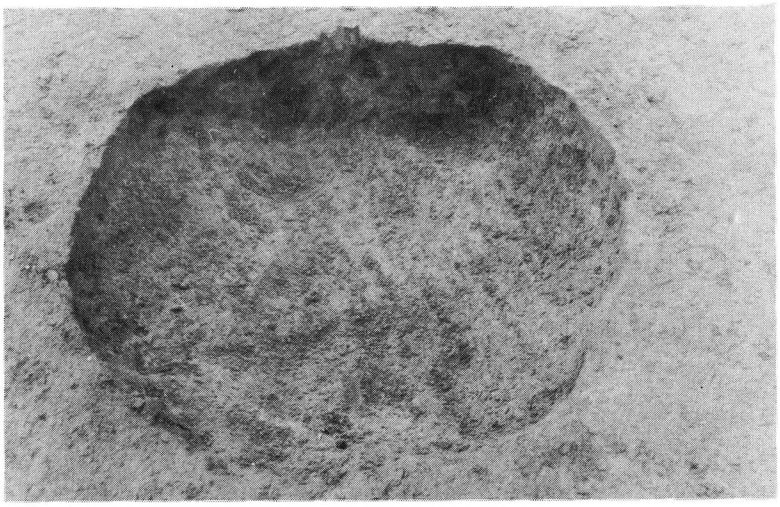
第8号土坑



第9号土坑

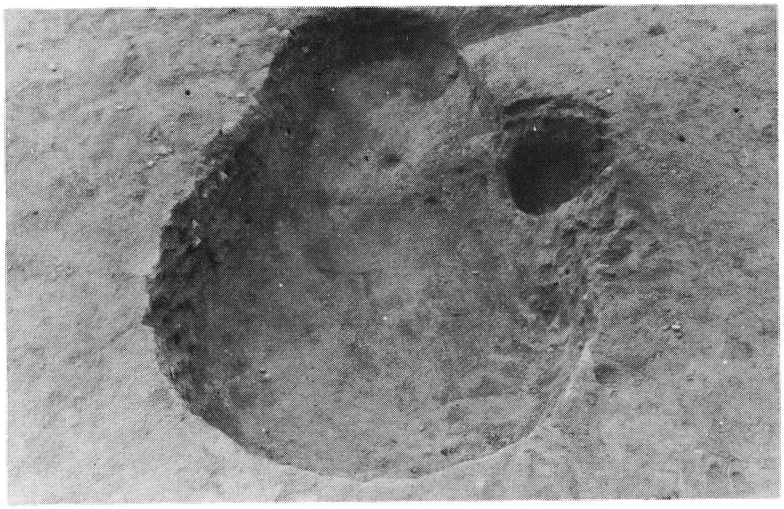


第10号土坑



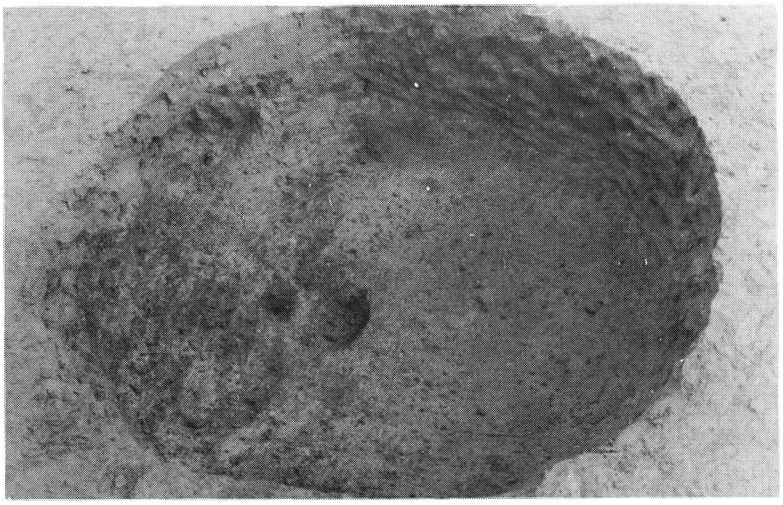
第11号土坑

第12号土坑

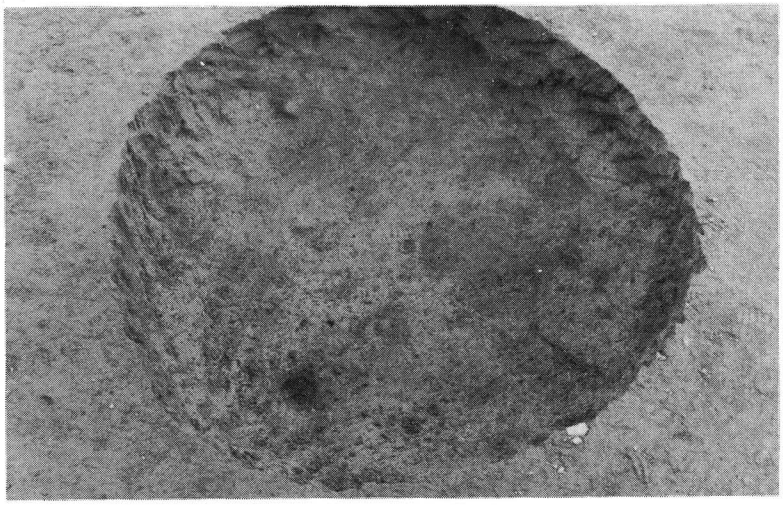


第13号土坑

第14号土坑



第15号土坑



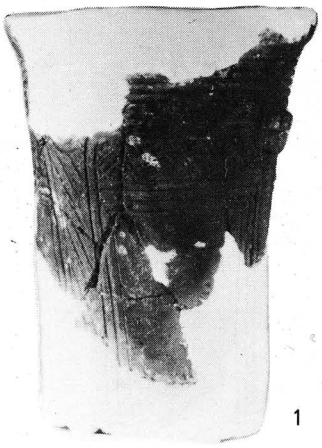
第16号土坑

第17号土坑

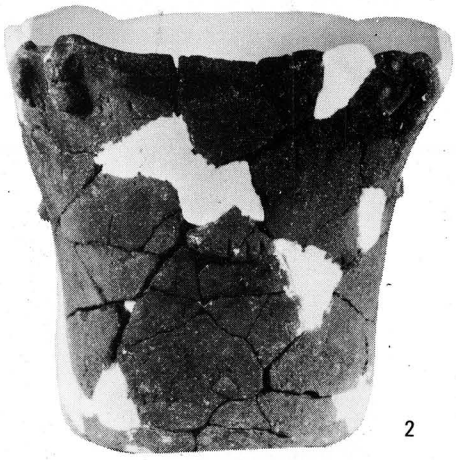
第18号土坑

第19号土坑

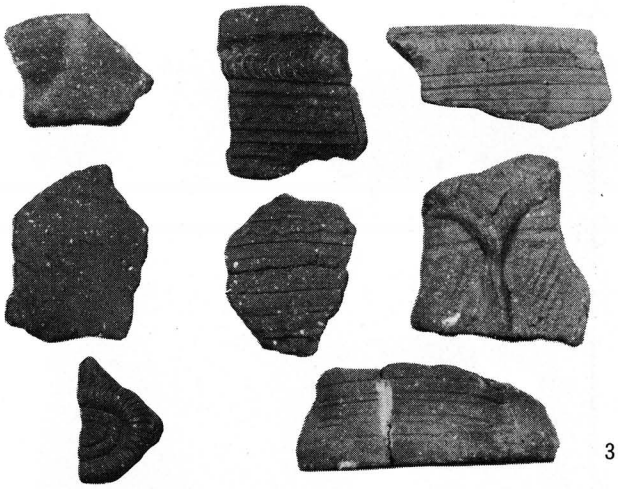
第20号土坑



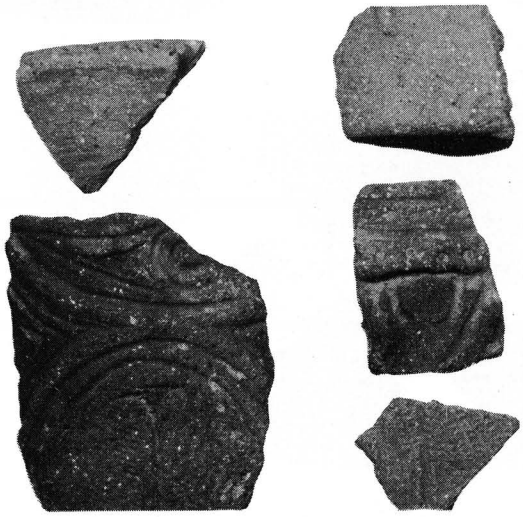
1



2



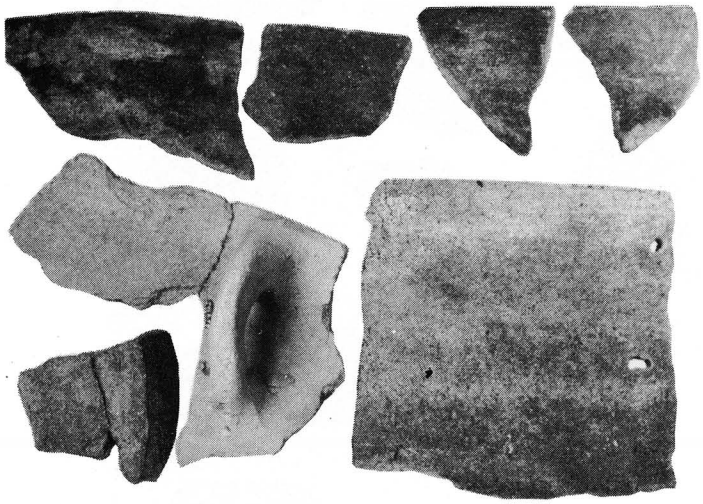
3



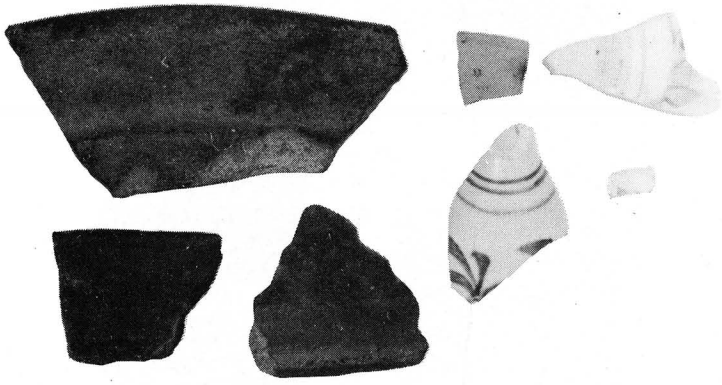
4

B区出土遺物第14号土坑(1,3) 第7号土坑(2)第5号土坑(4)

5



6

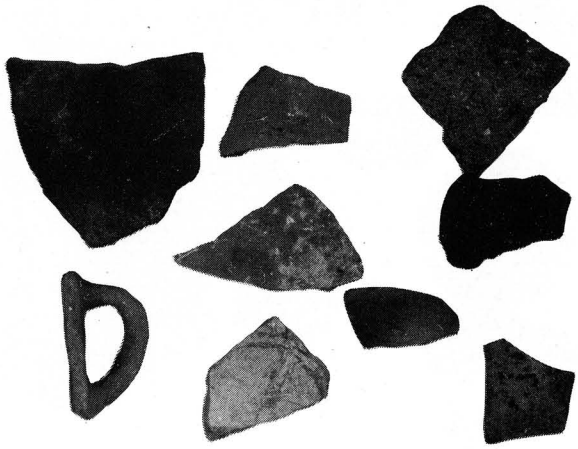


7

B区第6号土坑(5)，A区グリッド(6,7) 出土遺物

8

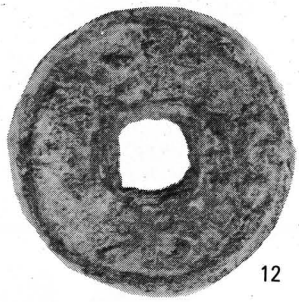
9

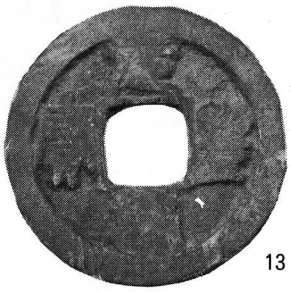


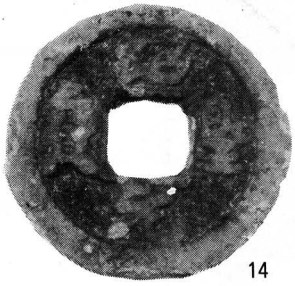
10

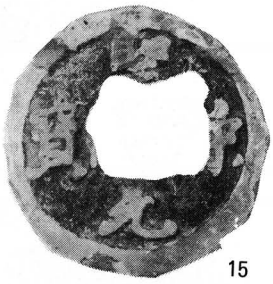
A区グリッド出土遺物(8,10)，第54号土坑出土遺物(9)

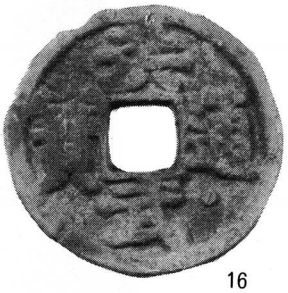
11

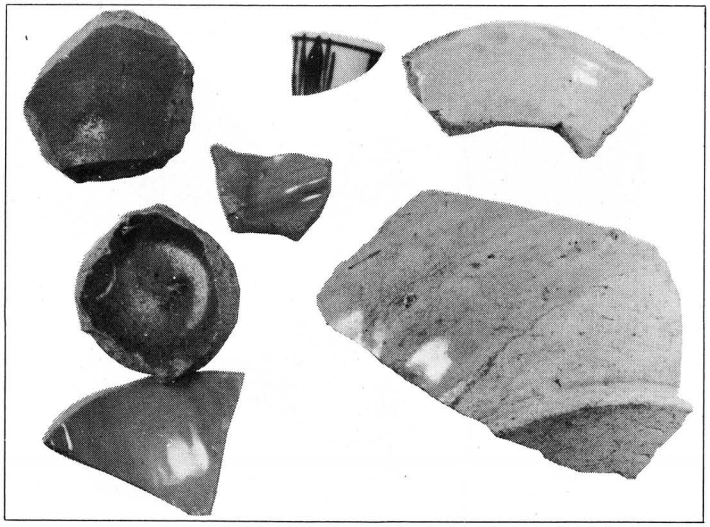

12


13

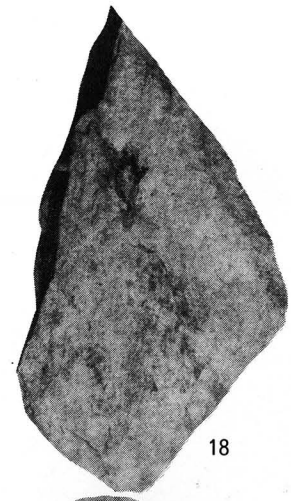

14

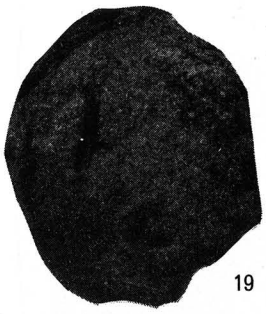

15


16


17

トレンチ内出土遺物(11)，各グリッド出土遺物(12,13),第１号土壙(14,15,16)，表採(17)


18


19

20

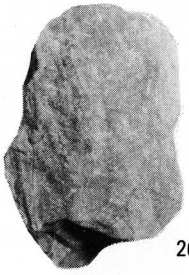
21

22

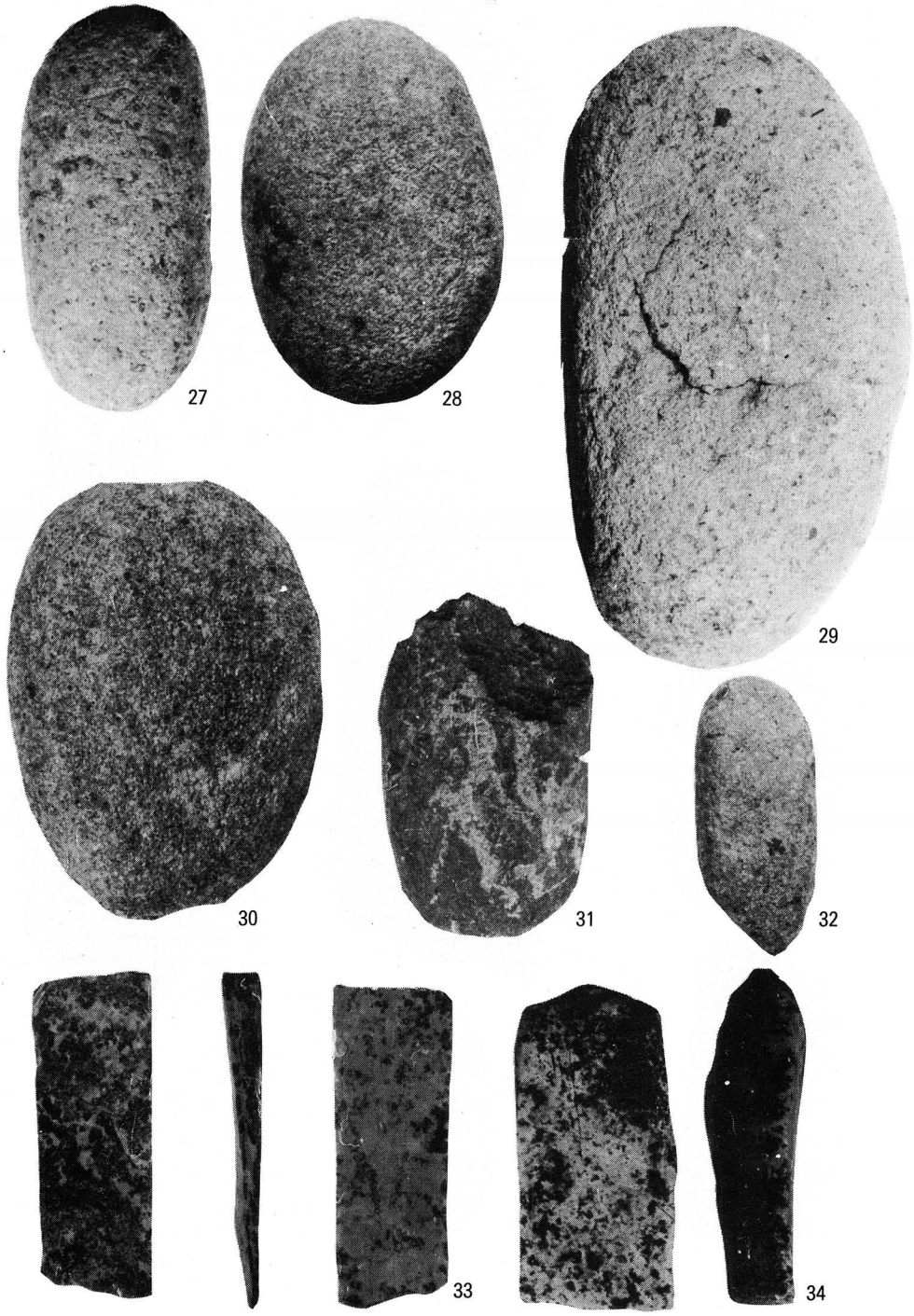
23

24

25


26

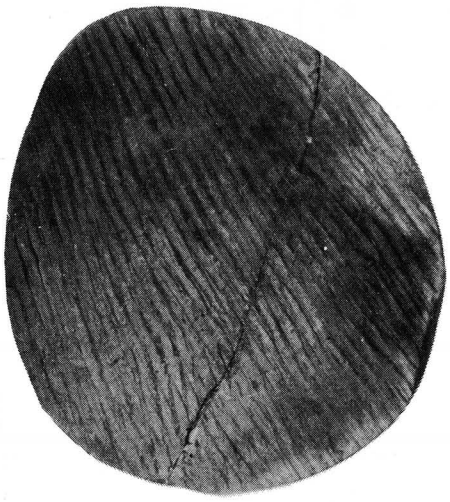
A区，B区出土石器



A区，B区グリッド出土遺物（27～32）第８号出土遺物(33)トレンチ内出土遺物(34)

35

36



37

第45号土坑出土遺物(35)，第２号土壙出土遺物(36)，B区第１号住居址出土遺物(37)

高根町埋蔵文化財　第2集
昭和 60 年3月 25 日　印　刷
昭和 60 年3月 30 日　発　行

旭 東 久 保 遺 跡
発 掘 調 査 報 告 書

発行所　高根町教育委員会
印刷所　峡　北　印　刷　㈱